

学生要覧 (学習案内)

工学部第一部

2012



東京千住キャンパス

平成24年度
東京電機大学

T D U プライバシーポリシー

学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集

個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。

2. 個人情報の利用

個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。

3. 個人情報の提供

個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。

4. 個人情報の管理

個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。

5. 個人情報に関する請求への対応

個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。

6. 個人情報保護の推進等

個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センター セキュリティポリシー

東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センターでは、業務を滞りなく遂行する上で、収集及び知り得る「個人情報」(氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができる情報) について、情報基盤の整備、管理、活用することの責務を認識し、厳重な管理体制のもとで情報資産の管理、保管を行い、情報の機密性、安全性を維持することにより、「個人情報」保護の促進に努めます。

また、本来の目的以外で「個人情報」を第三者等に漏洩することのないよう、「東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センター個人情報保護に関するガイドライン」を遵守し、合理的な範囲内でセキュリティの強化に務めます。

以上

目 次

次世代科学技術を担う皆さんへ（学長 古田勝久）	1
工学部第一部で学ぶ皆さんへ（工学部第一部長 藤田 聡）	2
工学部第一部の教育	5
履修案内	55
履修上の注意（開講科目対応表）	77
資格・免許	85

平成19年4月1日から、工学部及び未来科学部の2学部が新たに開設されました。工学部及び未来科学部は、学生諸君が所属する工学部第一部や理工学部の一部の学科を再編し、新しい学部として設置されたものです。

この新しい学部の開設により、学生諸君が所属する学部学科名称等が変更になるということはありません。

(1)平成19年4月1日以降、新たに1年次に入学者は、新学部所属となります。

(2)平成18年度以前に工学部第一部に入学者は、卒業するまで工学部第一部の所属となります。（在学中も卒業後も同様です。留年しても新学部の所属にはなりません。従って、学位記、学生証、卒業証明書、成績証明書は入学したときの学部名称が記載されます。）

ただし、転学部・編入学・再入学・転学科等した場合は次のとおりです。

・転学部・編入学・再入学・転学科等した先の正規学年次生と同じ学部の所属になります。

以上の結果、平成19年度より、工学部第一部、工学部、未来科学部並びに工学部第二部所属の学生が在籍することになります。

今後、工学部第一部の学生と工学部及び未来科学部の学生が、同じ教室で授業を受講することになりますが、履修条件等については、工学部第一部所属の学生には工学部第一部の履修条件等が適用され、工学部及び未来科学部所属の学生には所属する学部の履修条件等が適用されます。よって、学生要覧（学習案内）の記載内容や掲示（DENDAI-UNIPA、ホームページ）については、学部別に案内することとなりますので、自分の所属する学部に十分注意を払い確認してください。なお、共通事項となる案内については、掲示等を行なう際にその旨を記載し、共通して案内することがあります。

学生ポータルサイト(DENDAI-UNIPA、以下:UNIPA)の活用について

UNIPAとは、インターネットを通じて、大学生活を便利にする様々な機能を利用できるシステムのことです。

具体的には、掲示情報（休講・補講等の授業関係や学生厚生・キャリア支援からのお知らせも含む）・時間割・シラバス（講義要目）・成績照会の閲覧、履修登録、スケジュール管理等の機能があります。

大学は、これまでの高校等と異なりホームルームがありません。大学生活に必要な情報の取得、履修登録、スケジュール管理等は全て自身で行っていただくことになります。

UNIPAには、大学から情報が随時発信されていきます（特に、授業開始前から履修登録終了までの期間、また試験前にはより多くの情報が発信されます）。これから皆さんは、UNIPAに1日複数回は必ずアクセスすることを習慣とし、見落としや手続き漏れにより不備なく大学生活が送れるよう注意してください。

UNIPAは下記のURLよりアクセスできます。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp/>

※ログインには本学のネットワークを利用するためのID（学籍番号）およびパスワードが必要です。（例：12ee999 ※学籍番号の英文字は小文字で入力してください。）

※新入生への初期パスワードは入学時にお知らせいたします。

※Internet Explorer7以上、Firefox3.6以上で動作確認を行っております。携帯電話には対応していません。

1. ログイン画面



2. 画面説明

UNIPA のトップ画面について簡単に説明します。

The screenshot shows the TDU Student Portal Site interface. The browser address bar displays 'https://portal.td.ac.jp/...'. The page title is 'TDU 学生ポータルサイト'. The navigation bar includes links for '個人情報', '履修登録', '時間割', '授業', 'ホーム', 'メール特字', 'サイトマップ', and 'ログアウト'. The main content area is divided into several sections: 'ポータル' (Portal) with a calendar and 'スケジュール' button; '授業情報' (Class Information) showing dates and subjects; '重要な連絡' (Important Notices) with a list of announcements; '授業に関するお知らせ' (Notice about classes); '休講・補講連絡' (Notice about cancellations and supplementary classes); 'キャリア・就職関連情報' (Career and Job Information); and '学生厚生からのお知らせ' (Notice from Student Welfare). Red arrows point to specific elements: ① points to the navigation bar; ② points to the 'サイトマップ' link; ③ points to the 'スケジュール' button; ④ points to the '授業情報' section; and ⑤ points to the '重要な連絡' section.

①各種メニュー… 利用可能なメニューを表示します

②サイトマップ… 現在利用可能な機能一覧を表示します (次ページ参照)

③カレンダー… [スケジュール]ボタンをクリックすることでスケジュール機能を利用することができます

④授業情報… 履修している授業の情報、カレンダーで登録したスケジュール、大学の行事予定を表示します

⑤掲示情報… 大学から配信している掲示情報を表示します

3. 主な機能

サイトマップを選択すると、現在利用可能な機能及びその内容を一覧にて表示できます。

東京電機大学 学生ポータルサイト 2 - Windows Internet Explorer
<https://portal.s.dendai.ac.jp/up/faces/up/pos/Pos00001A.jsp>

TDU 学生ポータルサイト

ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト

個人情報情報 | 履修登録 | 時間割 | 授業 | アンケート/Q&A

サイトマップ

□個人情報	
○学籍情報について	学籍情報についての説明です。
○学籍情報照会	自分の個人情報について、大学に登録されている情報を参照することができます。
□履修登録	
○履修登録について	履修する科目の登録を行います。 Web履修登録期間は以下のとおりです。 登録: 〇月〇日(〇) 〇時〇分～〇月〇日(〇) 〇時〇分 確認及び修正: 〇月〇日(〇) 〇時〇分～〇月〇日(〇) 〇時〇分 登録期間中は、登録用のメニューが表示されますので、期間中に必ず履修登録を行ってください。 また、毎日深夜にシステムメンテナンスが行われます。メンテナンス中はシステムを利用できませんので注意してください。
□時間割	
○時間割について	時間割についての説明です。
○学生時間割表	履修中の科目の時間割を一覧形式とカレンダー形式で表示します。
○教員用時間割	教員の時間割を一覧形式とカレンダー形式で表示します。
○授業時間割表	授業時間割を一覧形式とカレンダー形式で表示します。
□授業	
○授業関係について	授業支援関係の機能についての説明です。
○課題提出	教員の作成した課題内容の確認・提出を行います。
○授業評価閲覧	授業評価の結果を公開しているシステムへのリンクです。
○シラバス参照	シラバスを表示します。
○シラバス参照(1部)	工学部第一部のシラバスを公開しているシステムへのリンクです。
□アンケート/Q&A	
○アンケート回答	アンケートの回答を行います。

Copyright 2011 Tokyo Denki University. All rights reserved.

インターネット 110%

※機能が追加される場合は、UNIPA の「掲示情報」にて周知し、各種メニュー及びサイトマップにアップします。

学生に対する通知・連絡方法(掲示)について

UNIPA での通知・連絡を主として行うこととし、掲示板への掲示(2号館3階工学部・未来科学部事務部前、学科・実験室前等)は必要に応じておこないます。

緊急時の連絡手段としても UNIPA を活用しますので、必ず1日に複数回、UNIPA を確認してください。

なお、本文中の「掲示」の記載も、原則 UNIPA での通知・連絡を指します。

The screenshot displays the TDU Student Portal interface. The top navigation bar includes links for Home, Mail Settings, Site Map, and Logout. The main content area is divided into several sections:

- 重要な連絡 (Important Notices):** This section contains a list of urgent notices, including health check-up dates, media center backups, TOEIC results, and student support center information. A red arrow points to this section from a yellow box at the bottom.
- 授業に関するお知らせ (Classroom Information):** This section provides updates on classroom changes and other related matters.
- 休講・補講連絡 (Class Cancellation/Makeup Notices):** This section handles notifications regarding class cancellations and makeup classes.
- キャリア・就職関連情報 (Career and Job Information):** This section offers guidance and information related to career development and job opportunities.
- 学生厚生からのお知らせ (Student Welfare Information):** This section provides information on student welfare, including scholarship details and campus facilities.

At the bottom of the page, a yellow box with the text "通知・連絡は「掲示情報」に表示します" (Notifications and contact information are displayed in the "Notice Information" section) has a red arrow pointing to the "重要な連絡" section.

2012(平成24)年度 前期 授業行事日程予定

※予定のため変更の可能性があります。変更の場合は事前に掲示にて案内いたします。

※予定の日の変更の可能性がありま。変更の場合は事前に掲示にて案内いたします。

	日	月	火	水	木	金	土	予定	備考		
前期	4月	1	2	3	4	5	6	7	4/2 入学式 4/3～4/9 新入生・在学生オリエンテーション・履修ガイダンス 4/5～4/9 健康診断学年別 4/10 前期授業開始 4/10～4/17 用紙で行う履修登録 4/11～4/17 Webによる履修登録期間（人間科学科目等）	※履修登録の締切時間は掲示等で確認すること	
	5月			1	2	3	4	5	5/1～5/7 Webによる履修登録期間(英語科目・専門科目等) 5/9～5/11 Webによる履修確認および修正 5/13 合同体育祭	※履修登録の締切時間は掲示等で確認すること	
	6月							1	2		
		3	4	5	6	7	8	9			
		10	11	12	13	14	15	16			
前期	7月	1	2	3	4	5	6	7	7/16 月曜日の授業実施日 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	7/18.19 前期授業終了(海の日祝日の振替休日は17日) 授業予備日 7/20～7/31 前期定期試験	
	8月				1	2	3	4	8/1～9/9 夏季休業期間		
		5	6	7	8	9	10	11			
		12	13	14	15	16	17	18			
		19	20	21	22	23	24	25			
前期	9月							1			
		2	3	4	5	6	7	8			

7/18,19は授業予備日です(開講科目の授業時間割は別途掲示をします)。

2012(平成24)年度 後期 授業行事日程予定

※予定のため変更の可能性があります。変更の場合は事前に掲示にて案内いたします。

		日	月	火	水	木	金	土	予定		備考	
9月		10	11	12	13	14	15		9/10	後期授業開始	※履修登録 の締切時間 は掲示等で 確認すること	
		16	17	18	19	20	21	22	9/11	創立記念日		
		23	24	25	26	27	28	29	9/10～9/18	用紙で行う履修登録		
		30							9/12～9/18	Webによる履修登録期間(人間科学科目等)		
									9/19～9/24	学園祭による休講期間		
10月			1	2	3	4	5	6	10/1～10/3	Webによる履修登録期間(英語科目・専門科目等)	※履修登録 の締切時間 は掲示等で 確認すること	
		7	8	9	10	11	12	13	10/5～10/9	Webによる履修確認および修正		
		14	15	16	17	18	19	20				
		21	22	23	24	25	26	27				
		28	29	30	31							
後 期	11月						1	2	3	11/3	文化の日	
		4	5	6	7	8	9	10	11/23	勤労感謝の日		
		11	12	13	14	15	16	17				
		18	19	20	21	22	23	24				
		25	26	27	28	29	30					
期	12月								1	12/20	授業終了	
		2	3	4	5	6	7	8	12/21	授業予備日		
		9	10	11	12	13	14	15	12/22～1/6	冬季休業		
		16	17	18	19	20	21	22				
		23	24	25	26	27	28	29				
2013 1月				1	2	3	4	5	1/7	授業再開	大学入試センター試験および準備に伴う閉館（2号館） 後期定期試験	
		6	7	8	9	10	11	12	1/12	後期授業終了		
		13	14	15	16	17	18	19	1/15,16	授業予備日		
		20	21	22	23	24	25	26	1/18～1/20			
		27	28	29	30	31			1/17～1/30			
2月							1	2				
		3	4	5	6	7	8	9				
		10	11	12	13	14	15	16				
		17	18	19	20	21	22	23				
		24	25	26	27	28						
3月							1	2	3/2	卒業発表		
		3	4	5	6	7	8	9	3/8	進級発表		
		10	11	12	13	14	15	16	3/17	卒業式(予定)		
		17	18	19	20	21	22	23				
		24	25	26	27	28	29	30				
		31										

12/21・1/15 /1/16は授業予備日です(開講科目の授業時間割は別途掲示をします)。
3/17卒業式は予定です。

東京電機大学の建学の精神

「実学尊重」

1907年（明治40年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げた。

東京電機大学の教育・研究理念

「技術は人なり」

1949年（昭和24年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げた。

(財)大学基準協会による認証評価(大学評価)の受審について

認証評価制度は、2002（平成14）年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間（7年以内）ごとに文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受審することとなり、2004（平成16）年に導入されました。

本学は、2009（平成21）年度に財団法人大学基準協会（認証評価機関）において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定（認証期間：2010（平成22）年4月1日～2017（平成29）年3月31日）されました。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

次世代科学技術を担う皆さんへ

学 長
古 田 勝 久

東京電機大学は、1907年に廣田精一先生と扇本眞吉先生が「技術で社会に貢献する人材を養成し、国を発展させること」を目指し神田に創立した電機学校が母体で、社会が必要とした学問である「実学」を尊重することを建学の精神とされました。東京電機大学は、この学園の使命と建学の精神を受けつぎ、さらに初代丹羽保次郎先生の名言である「技術は人なり」を教育・研究の理念としています。そして現在、工学部、工学部第二部、未来科学部、理工学部、情報環境学部の5学部と、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科の4研究科（大学院修士課程）および先端科学技術研究科（博士課程（後期））を擁しています。2007年には学園創立100周年を迎え、卒業生は約20万人以上にのぼり、社会から高い評価を得てきました。

さて、現代は、政治、経済、産業のすべての分野において、科学技術の知識なしには正しい決定の出来ない時代であり、知識自体が価値を持ち、価値を生み出す「知識基盤社会」と言われています。すなわち、科学技術そのものが、現代の「実学」であります。東京電機大学は、この社会を支える科学技術者の養成と、科学技術の知識を生み出す重要な役割を果たして来しました。

これから皆さんは、科学技術の基盤と専門を学び、科学技術の専門家として様々な問題発見と解決により、社会へ貢献して下さることを期待しております。将来、最新知識と技術を駆使するためには、まず数学のような基礎の勉強を重視してください。大学時代は人生で一番効率良く、新しい知識を吸収し、自分の能力に出来る時代です。科学技術者として社会で活躍するために、自分の専門に関する知識を学ぶと共に、それを応用する能力も身につけてください。専門以外の、いろいろ関連分野にも興味を持ってください。現在社会は、環境、資源、エネルギー等のように、広い分野の知識と技術を統合しなければ解決されない問題に直面しております。

ほとんどの企業が、研究、開発、生産、販売を一つの国の中で行うことがまれになり、国際的に活動する時代となり、科学技術者にも国際的なコミュニケーション能力が要求されるようになっていきます。科学技術の教育も国際的になっています。専門はもちろんですが、社会では外国語の知識が必要なこともしっかり認識してください。

東京電機大学でこれから学ぶ基礎と専門によって得られる問題発見と解決能力が、皆さんと日本さらには人類の未来を創ります。将来国際的な技術者として活躍できるように、大学生活を有意義なものにしてください。

工学部第一部で学ぶ皆さんへ

工 学 部 第 一 部 長
藤 田 聡

脇 英世先生の後を引き継ぎ、工学部第一部長に就任いたしました。昨年度までは工学研究科委員長・先端科学技術研究会委員長として大学院の運営に当たってきましたので、在学生の皆さんはご存知かも知れません。まずはよろしくお願いします。

私が大学生であったのは30年余も前の事です、この時期の「桜の花の色」と「春の幸せな空気の匂い」、そしてこれから始まる新生活に向けて社会全体が動き出す「わくわくとした雰囲気」だけは未だに昨日の事のように覚えています。思い返せば、あの時代は幸せな時代でした。二度のオイルショックも終わり、薔薇色の高度成長を社会が享受している頃で、「努力」が「とにかくやる事」と、「成果」が「やれば出てくる」と同義な意味として理解できる、とても素直な時代であったわけです。それに比べて皆さんは大変な時代に学生生活を送る訳です。

過去において我国の目標で、現在はライバルである欧米だけではなく、新興国においても技術開発の新たな形態が盛んに生まれており、我が国の工業は大きな構造的変革を迫られています。今後も日本の優位性を維持していくためには、良く言われるように製品設計のプラットフォーム化、製品のコモディティ化、研究開発の短期化等に積極的に取り組んでいかなければなりません。従って、皆さんは今までも増して「何か新たな価値を創成する能力」を鍛錬していかななくてはならず、社会もそれを求める時代だと思って間違いありません。

そんな中、昨年は東北地方を中心に未曾有の被害をもたらした東北地方太平洋沖地震が発生し、我国の産業施設／構造の脆弱さを目の当たりにしました。昨今の社会構造変化に伴う「学生の理工系離れ」、「年金問題」や「政治不信」などと言った社会不安に加えて、このような大災害に対応していかなければならず、真に痛ましい状況ではないかと思います。こういう先の見えない時代は、地に脚をつけて、素直な気持ちを大切に、自分の目標をしっかりと見つけていかないと暮らしていきにくい社会環境だと思っています。

「日本は工業生産で食っている国です」。

こんな素直な考え方をするのがこの複雑怪奇な社会を生き抜くのに一番であると思いますし、それを信じて私は生きています。狭い国土、零に等しい資源、自給できない農業生産…、皆さんは「工学部で学ぶ」というとても良い選択をしたのだと思います。胸を張って学生生活を送ってください。

「工学」は最終的には科学技術を駆使して「物」を創り出し、これが人びとの生活を安全で快適な物へと導くものであると信じます。身の回りを眺めてみてください。自分一人で、ゼロから創り出せる物が何かありますか？ボールペンでも鉛筆でも消しゴムでも、当たり前のように使っている物でさえ、何一つ自分一人でゼロから創り出せる物なんてないのです。私は20歳の時にこんな当たり前の事に気づき一人で感動していました。次に認識すべき点は、自動車や半導体や航空機はどこかの誰かが作っているのではなく、これは先輩達の努力の成果であり、これからは皆さん達がこれに続いていく事なのだと思います。既に一步は踏み出されたのです。

4 月、新学年の始まるこの季節に気持ちも新たに、皆で頑張りましょう。

工学部第一部の教育

1	工学部第一部の教育目標	7
2	学科・系列の教育目標と理念	9
3	学科・系列の履修モデル	13
4	授業科目配当表	31

1 工学部第一部の教育目標

【教育目標】

工学部は、2007年度（平成19年度）に工学部第一部（8学科体制）を工学部（4学科体制）に改編し、現代社会の基幹を成す科学技術分野において、過去から現代に至る「知」を継承し、さらに次世代に必要とされる新たな「知」と「技術」を創成し、安全で快適な社会の発展に貢献できる幅広い能力を培うことを目的としている。

すなわち、現代社会の基幹を構成し将来に亘って必要とされる科学技術分野において、様々な状況に順応できる優秀な技術者を養成する。

本学部は、本学の建学の精神「実学尊重」、教育・研究理念「技術は人なり」に基づき、教育課程及び方法を体系的、かつ効果的に編成するために以下を目標とする。

【教育内容】

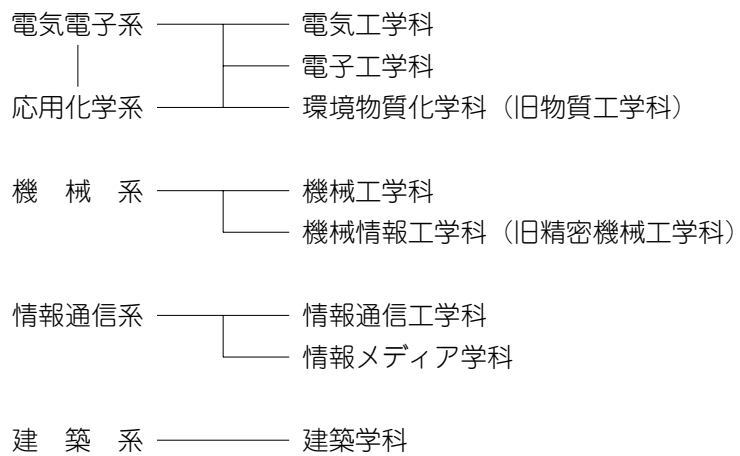
- ①高い専門性を有する科学技術者の育成のため、基礎から応用を学部で学修し、更に大学院修士課程へ連携するカリキュラムを編成し、充実させる。
- ②共通教育科目では、社会人としての基本的な素養、技術者としての視野を幅広く獲得できる教育課程編成とし、充実させる。
- ③実社会で活躍できるようにワークショップ科目や実験科目を充実させる。
- ④課題解決能力を高めることができるカリキュラムを編成し、充実させる。
- ⑤コミュニケーション・プレゼンテーション能力を修得することができるカリキュラムを編成し、充実させる。

【教育方法】

- ①基礎学力を確実に身に付けさせるため、少人数教育及び学習サポートセンターによる学習支援を充実・強化する。
- ②多様化する入学制度のなかで、本学部が担う使命に即応する入学生への対応するための導入教育を充実・強化する。
- ③応用力を養うための実験・演習・インターンシップ科目について教育方法の充実を図る。
- ④授業評価アンケートを実施し、授業方法の改善に努める。
- ⑤GPA（総合的成績評価）を使用することによって、さらに学生の学習意欲を向上させる仕組みを充実・強化する。

学系と学科

平成14年4月から学科構成に「学系」の考え方を導入しました。学系は、科学技術の進歩に伴うカリキュラムの変更、入学者の経歴の多様化に則したきめ細かい教育の実践、および入学者の進路変更などに柔軟かつ迅速に対応するために、共通分野をもつ複数の学科を機能的にまとめたものです。電気電子系と応用化学系は、専門分野によっては、近い学問を扱うことから、学内的には同一の学系として扱います。



2 学科・系列の教育目標と理念

電気工学科の教育目標と理念

電力・エネルギー応用、電気機器・パワーエレクトロニクスなど電気工学固有の分野を始め、計測・制御システム、コンピュータ・情報システム、半導体デバイス・電子材料など広範な分野の発展に寄与できる技術者を育成し、もって電気工学を通じて社会に貢献できる基礎知識を十分に備えた専門家の輩出を目指している。

基本的な教育方針としては、人類の幸福、福祉とは何かについて考える能力と素養の修得を基礎として、将来、電気工学の何れの分野に進んだ場合でも柔軟に対応できる専門の基礎学力を十分に習得したうえで、上述の広範な研究分野の発展に寄与できる広い視野を持ち、さらに、造詣の深い専門分野を有し、かつ外国語を含めたコミュニケーション能力、主体的かつ創造的なデザイン能力とプロジェクト遂行能力などを併せ持つ技術者・研究者の育成を目標としている。

電子工学科の教育目標と理念

21世紀においては、情報通信技術や遺伝子工学、生命工学が我々の社会生活に劇的な変革をもたらすと考えられている。また、グローバルには環境問題、国内においては高齢化の進展に伴う介護問題などが今後解決すべき社会的なテーマである。このような状況下においても、デバイス技術、回路設計、制御技術、情報処理などのエレクトロニクス関連技術が社会に与えるインパクトは、依然として大きいと考えられる。その結果、高度な技術を持ったエレクトロニクス関連技術者への社会的な要請は今後とも益々高まると考えられる。このため本学科では、様々な産業分野に対応できるエレクトロニクス専門技術者の育成を基本的な教育目標としている。そのため、電子工学科では、学生に最先端技術に触れさせるとともに、基礎的な学問内容の習得によって社会にインパクトを与えるような斬新なアイデアをもつ創造性豊かな人材育成に力を注いでいる。

環境物質化学科の教育目標と理念

社会や環境に役立つ新しい物質の創製と、資源循環とエネルギー交換を視野に入れた物質・材料および生物機能を利用するシステムの構築を目指し、環境と物質に対する基礎知識と洞察力を備えた有能な人材育成を教育の目標としている。そのため、環境物質化学科では、環境化学、生物工学、機能性高分子化学、材料物性工学、機能物質工学の5部門を柱とし、これらに関する基礎的な学問の習得、技術的課題に対する解決能力の習得、および人間社会がかかえている様々な課題を解決する幅広い素養を身につけた化学者の育成を目指している。

実際の教育では、人間形成に関する教育に重点をおくとともに、基礎知識および専門知識の習得の徹底に力を注いでいる。これによって、環境にやさしい物質・材料の創製と利用に携わり、国際的に活躍できる技術者の育成を目指している。

機械工学科の教育目標と理念

未来を切り開く先端技術のみならず、急速に進展する今日の技術に追従できるように基礎知識を徹底的に理解させるとともに、それを応用して新技術を生み出す能力を育成するための教育と研究に尽力している。実際の教育では、「材料と加工」、「エネルギー」、および「情報と機械システム」の3コースを設け、従来の機械工学およびこれに関連する学問の基礎的な知識を深め、それらを柔軟に使いこなす応用力と、新技術を作りだす創造力を身につけることに主眼をおき、広い視野を持った機械エンジニアを育成することを目指している。教育の基本方針としては、基礎学力を徹底して修得させ、先端技術を理解できる創造性豊かで、視野が広く広範な工学分野をカバーし、新しい技術の習得にも対応でき、さらに、人間にやさしく人間に役立つ機械技術の開発・研究に携わる人材の育成を目指している。

機械情報工学科の教育目標と理念

従来の機械技術分野に加えて情報系、電気・電子系等の周辺分野の技術に関する基礎知識も有し、ロボットや加工機械等の高精度、高性能な機械システムや、福祉・介護機器等の人によさしい機械システムの設計・開発に必要とされる総合的な知識と洞察力を備えた人材を育成することを目標としている。

ワークショップ、実験、実習、CAD等の実技科目を通して経験に基く機械技術力の基礎を築き、ものづくりやコンピュータの応用に興味がある人材育成を目指す。また、広範な技術に柔軟に対応できる創造力を養い、機械工学を発展させる他の分野と融合した新技術分野（医療福祉分野、マイクロマシン、ロボット等）に挑戦できる人材を育成する。主な研究分野は材料・加工、計測・制御・知能化、光応用、医療・福祉等の技術である。

情報通信工学科の教育目標と理念

インターネット、携帯電話などの爆発的普及に見られるように、21世紀の日本を担うものはITつまり情報通信である。情報通信工学科はこうした状況を受けて、情報すなわちコンピュータと、通信すなわちコミュニケーションの両方を総合的、統合的に学ばせ、幅広い知識に加えて応用力と洞察力を備えた実践的技術者および研究者を社会に提供することを教育の目標としている。教育方針としては、コンピュータ、通信のいずれにも偏らない人材育成を目指し、トピックに流されない基礎学力の重視と涵養につとめる。さらに、実験・実習に力を入れ、強い実践力と強靱な思考力および豊かな想像力を備えた技術者を育成する。また、国内のみならず、世界に通用する国際的な人材育成に努力するとともに、産業界との交流に努力し、大学と産業界との間の研究・教育ギャップをなくするような人材を育成することを目指している。

情報メディア学科の教育目標と理念

情報メディア学科では、時間、場所、文化、言語、実在的な存在を超えて、グローバルかつ学際的なデジタルメディア情報を双方向に通信できる高度情報社会基盤を創成、構築、運用するための主要な三つの柱として、多様なデジタルメディアへのコンピュータ処理技術の応用に関する“デジタルメディア関連”、人間と情報システムとをつなぐ“情報システム・人間科学関連”、および基本的なコンピュータ技術に関する“コンピューティング基盤関連”の技術を基礎

から体系的に修得させることを教育目標としている。

教育の方針としては、人間や社会に対する深い理解を有し、学際性と国際性を備えた人材の育成に重点をおいている。そのために、高度情報社会基盤を創成、構築、運用する技術の習得に努めるとともに、科学技術と地球環境との共生、福祉社会の実現に必要な技術に関する情報メディア教育を行うことを目指している。

建築学科の教育目標と理念

建築は、芸術と技術を合わせた独自の分野と言われており、安全かつ快適で、さらに人々の心を豊かにする魅力的な空間の創造がテーマである。そのためには、文化と技術に関する幅広い知識の習得が必要となるので、低学年次の教育では、人間の文化に深く係る歴史から設計・施工・管理に至るまで、建築全般に関する総合的な知識や技術の習得を目標とする。また、それと共に、自分の考えをまとめ、人に適確に伝えるプレゼンテーション能力を育成する。高学年次では、大学院前期博士課程（修士）までの6年間教育を視野に入れて、「設計計画」「都市企画」「情報デザイン」「環境設備」「構造生産」の5コースに分け、学生一人一人の適性に応じた懇切な少人数教育を実施することにより、自己の責任において意思決定ができ、変革期にある建築分野で活躍できる自立した人材の育成をめざしている。これを達成するために、学生に教育的意味での「自立」と「自己責任」を求める方針である。

人間科学系列の教育目標と理念

社会人として活動するための基礎的な素養を習得させ、情報化、国際化の進展する現代日本社会で活動するための教養教育を展開する。その際、工学部における専門教育との関係性に十分配慮し、これからの技術者に求められる、柔軟で豊かな見識を育むための基礎を培うことを念頭におくことを理念とし、豊かな人間性と幅広い教養を育みつつ、将来の社会生活で必要な論述力、討議能力やプレゼンテーション能力、さらには異文化理解能力や健康管理能力、そして人間にとって最も基本的な論理的思考能力の育成を目標とする。

英語系列の教育目標と理念

情報通信ネットワークの普及により、諸外国との英語によるコミュニケーションが身近なものとなってきた。特に技術者にとっては、英語を通して最新情報の収集・発信を行うことは、今や日常的になっている。国際語としての英語によるコミュニケーション能力の養成、国際社会に対する知識・理解力を備えた技術者の涵養、および技術者として生涯にわたって積極的に英語力の研鑽を積むための基礎を養成することを英語教育の理念とする。英語はもはや数ある外国語の一つではなく、社会生活を送る上で欠くことのできないコミュニケーションの手段である。教育にあたってはまず、学生の現在の英語力を診断し、それに基づいた習熟度別の指導体制を採っている。それぞれに求められる知識の基礎を固め、さらには社会で使える運用能力に引き上げるため、英語の運用能力（読む・書く・話す・聴くの4技能すべて）を向上させる教育を行う。

数学系列・物理系列の教育目標と理念

幅広く、かつ柔軟な工科系の素養を身につけるには、工科系科目の基礎となる数学、物理学の知識を身につけることが不可欠である。しかるに、近年の高校カリキュラムの改定、入学経路の多様化により、新入生の間の学力には大きな開きが見られるとともに、専門科目を学ぶに足る基礎知識を習得しないまま、専門科目を学ぶに至る現状が見受けられる。

数学系列、物理系列はこのような学生間の基礎学力の開きを考慮して新入生の学力に応じたクラス編成を行い、基礎学力の向上させることに努めるとともに、専門科目を学ぶに足る基礎知識を習得させることを目標とする。

3 工学部第一部 履修モデル

人間科学科目履修モデル	P 15
英語科目履修モデル	P 16
電気工学科履修モデル (電気工学科コース案内)	P 17 ～ P 18
電子工学科履修モデル	P 19 ～ P 20
環境物質化学科履修モデル	P 21
機械工学科履修モデル	P 22 ～ P 24
機械情報工学科履修モデル	P 25
情報通信工学科履修モデル	P 26
情報メディア学科履修モデル	P 27 ～ P 28
建築学科履修モデル	P 29

工学部第一部 人間科学科目履修モデル

卒業所要単位における必要な単位数（人間科学科目18単位（STS科目を1科目修得していること））

進級条件における必要な単位数（人間科学科目12単位以上）

科目区分			人間科学科目	
教育・学習目標			社会人としての基本的な素養を習得するための基礎科目、技術者としての視野を幅広く獲得するための発展科目、課題解決、情報発信の能力の基礎を習得するための演習型の総合演習、さらに社会における科学技術の意義や問題点を探求するSTS科目を学習することによって、専門教育と相互に補完しつつ21世紀の技術者に要請されるさまざまな資質を総合的に陶冶することを目標とする。	単位数
履修推奨科目	1年	前期	人間科学科目 (1科目基礎科目及びフレッシュマンセミナー)	4
		後期	人間科学科目 (1科目基礎科目)	2
	小計		6	
	累計		6	
	2年	前期	人間科学科目 (1科目基礎科目)	2
			人間科学科目 (1科目発展科目もしくはSTS科目)	2
		後期	人間科学科目 (1科目基礎科目)	2
			人間科学科目 (1科目発展科目もしくはSTS科目)	2
	小計		8	
	累計		14	
	3年	前期	人間科学科目 (1科目基礎科目もしくは発展科目)	2
			人間科学科目 (1科目発展科目もしくはSTS科目)	2
			または総合演習	
		後期	人間科学科目 (1科目基礎科目もしくは発展科目)	2
			人間科学科目 (1科目発展科目もしくはSTS科目)	2
			または総合演習	
	小計		8	
	累計		22	
	4年	前期		
		後期		
小計				
総計		22		
合計科目数		22		

STS科目は、必ず1科目修得すること（択一必修、なお複数科目修得した場合は、人間科学科目区分の卒業所要単位として認定される）

工学部第一部 英語科目履修モデル

卒業所要単位における必要な単位数（英語科目 8 単位）

進級条件における必要な単位数（英語科目 6 単位以上）

■英語履修モデルの見方

この履修モデルは、レベル別の履修の例を示したものである。しかし、レベルについては固定的に考えるのではなく、英語力を伸ばし上のレベルに移行することを目指して学習に取り組むこと。基幹科目（英語Ⅰ～Ⅵ）においては授業もレベル別に行われるが、学年や学期の区切りで英語力の伸長状況によりクラスの移動を行う。

対象			英語初級クラス		英語中級クラス		英語上級クラス		
教育・学習目標			英語初級レベルの学生に対して、英語の基礎を習得することを目指す。 読む、書く、聞く、話すを基礎からバランスよく習得することを目指す。英語の基幹科目（英語Ⅰ～Ⅵ）に専念して履修を進めることを推奨する。		英語中級レベルの学生に対して、英語の基礎力の充実と運用能力の向上を目指す。 英語の基幹科目（英語Ⅰ～Ⅵ）を中心とした履修を推奨するが、興味、学力に応じて、発展科目（英語A～D）の履修が可能である。		英語上級レベルの学生に対して、英語の4技能の運用能力の向上、および自己表現力、基礎的な技術英語の習得を目指す。 英語の基幹科目（英語Ⅰ～Ⅵ）に加えて、発展科目（英語A～D）の履修も推奨する。		
			単位数		単位数		単位数		
履修推奨科目	1年	前期	英語Ⅰ	2	英語Ⅰ	2	英語Ⅰ	2	
		後期	英語Ⅱ	2	英語Ⅱ （海外英語短期研修）	2 (2)	英語Ⅱ （海外英語短期研修）	2 (2)	
	小計			4～		4～		4～	
	累計			4～		4～		4～	
	2年	前期	英語Ⅲ （海外事情Ⅰ）	1 (1)	英語Ⅲ 英語A※ （海外英語短期研修） （海外事情Ⅰ）	1 (1) (2) (1)	英語Ⅲ 英語A※ （海外英語短期研修） （海外事情Ⅰ）	1 (1) (2) (1)	
		後期	英語Ⅳ （海外事情Ⅱ）	1 (2) (1)	英語Ⅳ 英語B※ （海外英語短期研修） （海外事情Ⅱ）	1 (1) (2) (1)	英語Ⅳ 英語B※ （海外英語短期研修） （海外事情Ⅱ）	1 (1) (2) (1)	
		小計			2～		2～		2～
		累計			6～		6～		6～
	3年	前期	英語Ⅴ （海外事情Ⅰ）	1 (2) (1)	英語Ⅴ （海外英語短期研修） （海外事情Ⅰ）	1 (2) (1)	英語Ⅴ 英語C※ （海外英語短期研修） （海外事情Ⅰ）	1 (1) (2) (1)	
		後期	英語Ⅵ （海外事情Ⅱ）	1 (1)	英語Ⅵ （海外事情Ⅱ） （海外英語短期研修）	1 (1) (2)	英語Ⅵ 英語D※ （海外事情Ⅱ） （海外英語短期研修）	1 (1) (1) (2)	
		小計			2～		2～		2～
		累計			8～		8～		8～
	4年	前期			（英語特別演習Ⅰ）	1	英語特別演習Ⅰ	1	
		後期			（英語特別演習Ⅱ）	1	英語特別演習Ⅱ	1	
小計					(2)		2		
総計				8～		10～		14～	
合計科目数				6～		8～		12～	

注意：

英語AはSpeaking, Listening, Reading, TOEICの中から1つを選択する。
英語BはSpeaking, Listening, Reading, TOEICの中から1つを選択する。
海外英語短期研修は2単位、および海外事情Ⅰ・Ⅱはそれぞれ1単位とする。
※の科目は、成績により受講が許可される。

第一部電気工学科 分野別推奨履修モデル（その１）

☆：必修科目 ◎：特に修得すべき科目 ○：修得すべき科目 ◦：できれば修得する科目

学習・教育目標	本学科では、電気工学固有の分野並びに広範な電気系関連分野の発展に貢献できる視野の広い専門技術者を育成するようカリキュラムを構成しています。卒業後何れの分野に進んだ場合でも柔軟に対応できる十分な基礎学力を低学年次において十分に修得しつつ自ら興味のある分野を選択し、その後、選択した分野に焦点を合わせて学習を積み重ねて、卒業時には少なくとも一つの得意とする専門分野を修得して下さい。どうか広い視野にたって履修計画を立て学習されることを希望します。						
配当期	科目名	単位数	分 野 名				
			電力・エネルギー応用	電気機器・パワーエレクトロニクス	計測・制御システム	コンピュータ・情報システム	半導体デバイス・電子材料
1 年 前期 科目	微分積分学および演習Ⅰ	④	☆	☆	☆	☆	☆
	線形代数学Ⅰ	②	☆	☆	☆	☆	☆
	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	④	☆	☆	☆	☆	☆
	ワークショップⅠ	2	◎	◎	◎	◎	◎
	物理学Ⅰ	2	○	○	○	○	○
	物理実験Ⅰ	1	○	○	○	○	○
	工学入門	2	○	○	○	○	○
	化学Ⅰ	2	○	○	○	○	○
	化学実験Ⅰ	1	○	○	○	○	○
1 年 後期 科目	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	4	○	○	○	◎	○
	環境科学	2	○	○	○	○	◎
	微分積分学および演習Ⅱ	4	○	○	○	○	○
	線形代数学Ⅱ	2	○	○	○	○	○
	物理学Ⅱ	2	○	○	○	○	○
	物理実験Ⅱ	1	○	○	○	○	○
	化学Ⅱ	2	○	○	○	○	○
	化学実験Ⅱ	1	○	○	○	○	○
2 年 前期 科目	電磁気学基礎実験	②	☆	☆	☆	☆	☆
	電磁気学Ⅰ	②	☆	☆	☆	☆	☆
	演習電磁気学Ⅰ	②	☆	☆	☆	☆	☆
	回路理論Ⅰ	④	☆	☆	☆	☆	☆
	プログラミングおよび演習	2	○	○	○	◎	○
	微分方程式Ⅰ	2	○	○	○	○	○
	数値解析学	2	○	○	○	○	○
	ベクトル解析	2	○	○	○	○	○
2 年 後期 科目	基礎電気工学実験	②	☆	☆	☆	☆	☆
	回路理論Ⅱ	②	☆	☆	☆	☆	☆
	電磁気学Ⅱ	2	◎	◎	◎	○	◎
	演習電磁気学Ⅱ	2	○	◎	◎	○	◎
	電気電子計測	2	◎	○	◎	○	○
	電子デバイスⅠ	2	○	○	○	○	◎
	基礎電子物性	2	○	○	○	○	◎
	ソフトウェア工学	2	○	○	○	○	○
	応用数学	2	○	○	○	○	○
2～4 年	技術者倫理（STS科目）	2	◎	◎	◎	◎	◎

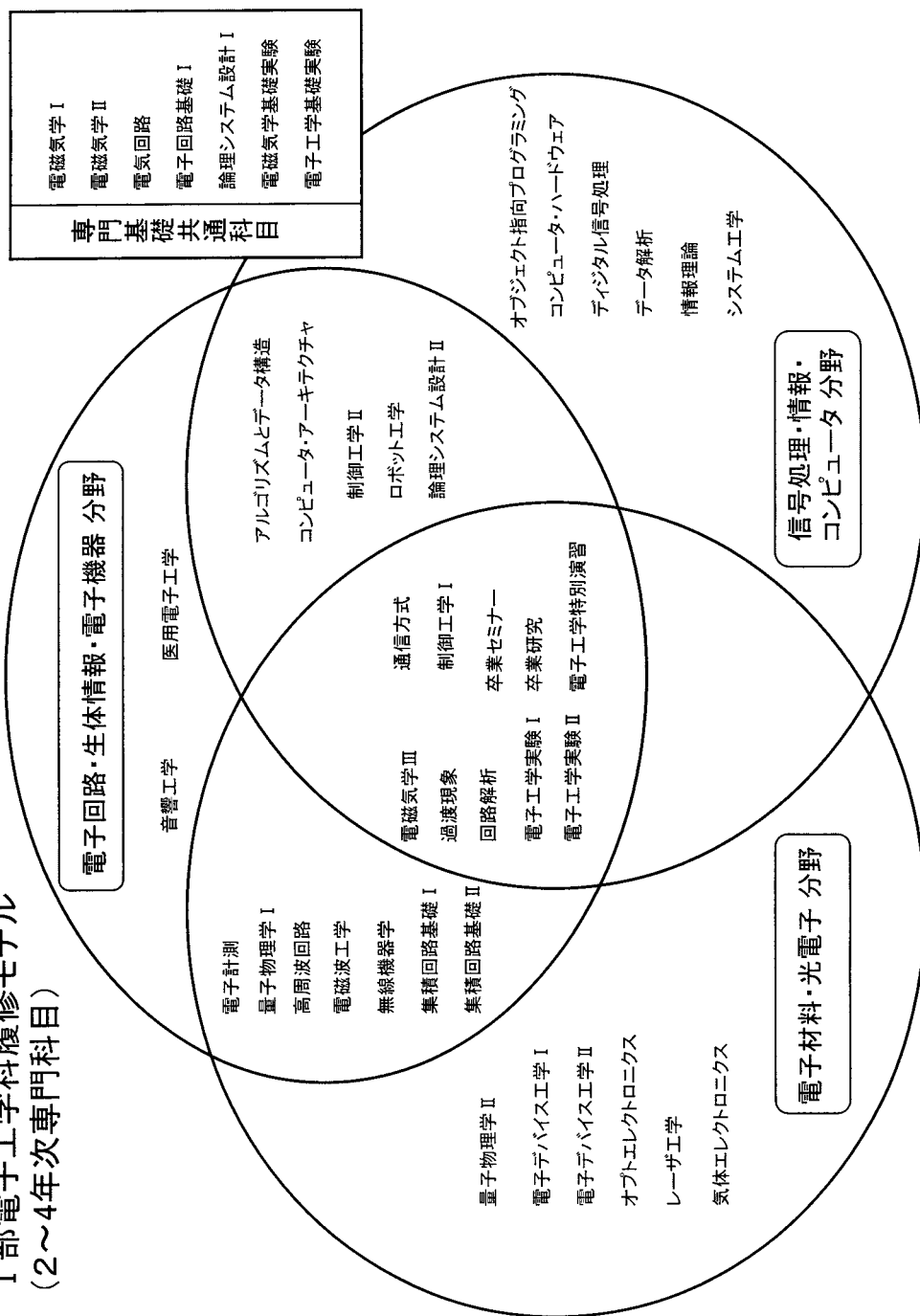
第一部電気工学科 分野別推奨履修モデル（その2）

☆：必修科目 ◎：特に修得すべき科目 ○：修得すべき科目 ◦：できれば修得する科目

配 当 期	科 目 名	単 位 数	分 野 名				
			電力・ エネルギー 応用	電気 機器・ パワー エレクトロ ニクス	計測・ 制御シ ステム	コンピ ュータ ・ 情報シ ステム	半導体 デバイ ス・ 電子 材料
3 年 前期 科目	電気工学実験Ⅰ	②	☆	☆	☆	☆	☆
	電気工学輪講	2	◎	◎	◎	◎	◎
	過渡現象	2	◎	◎	◎	○	○
	電子回路Ⅰ	2	○	○	◎	◎	○
	回路理論Ⅲ	2	○	◎	○	○	○
	ディジタル回路	2	○	○	○	◎	○
	電気電子材料Ⅰ	2	◎	○	○	○	◎
	電気機器Ⅰ	2	◎	◎	◎	○	○
	電磁気学Ⅲ	2	○	○	○	○	◎
	複素解析学Ⅰ	2	○	○	◎	○	○
	電子デバイスⅡ	2	○	○	○	○	◎
3 年 後期 科目	電気工学実験Ⅱ	②	☆	☆	☆	☆	☆
	制御工学Ⅰ	2	○	◎	◎	○	○
	電子回路Ⅱ	2	○	○	◎	○	○
	パワーエレクトロニクス	2	◎	◎	○	○	○
	高電圧工学	2	◎	○	○	○	◎
	電気機器Ⅱ	2	◎	◎	○	○	○
	電力系統工学Ⅰ	2	◎	○	○	○	○
	信号処理	2	○	○	○	◎	○
	コンピュータアーキテクチャ	2	○	○	○	○	○
	電気電子材料Ⅱ	2	○	○	○	○	◎
4 年 前期 科目	卒業研究B（通年）*	⑥	☆	☆	☆	☆	☆
	コンピュータプレゼンテーション基礎	2	◎	◎	◎	◎	◎
	システム計測・制御	2	○	○	○	◎	○
	制御工学Ⅱ	2	○	○	◎	○	○
	ドライブシステム	2	○	◎	○	○	○
	発電工学	2	◎	○	○	○	○
	電子回路設計	2	○	○	○	○	○
	電力系統工学Ⅱ	2	◎	○	○	○	○
4 年 後期 科目	コンピュータプレゼンテーション応用	2	◎	◎	◎	◎	◎
	メカトロニクス	2	○	○	○	○	○
	コンピュータネットワーク	2	○	○	○	○	○
	電機設計および電気製図	2	○	○	○	○	○
	エコエネルギーシステム	2	○	○	○	○	○
	電気法規	2	○	○	○	○	○

*卒業研究はAまたはBの択一必修となっています。

I 部電子工学科履修モデル (2～4年次専門科目)



新入生に対する履修モデル

第一部 電子工学科

学問分野		電子材料・光電子 分野		電子回路・生体情報・電子機器 分野		信号処理・情報・コンピュータ 分野	
教育・学習目標		半導体やプラズマなどに関する基礎を学び、これらの電子デバイスへの応用に関する専門知識の習得を目指す。		電子回路に関する基礎を学び、これを基に、集積回路、生体情報処理、計測制御機器などに応用するための専門知識の習得を目指す。		コンピュータのハード・ソフトに関する基礎を学び、これを基にコンピュータの応用分野である信号処理などを含むハード・ソフトの専門知識の習得を目指す。	
履修推奨科目	1年次生	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
		・微分積分学および演習Ⅰ	4	・微分積分学および演習Ⅰ	4	・微分積分学および演習Ⅰ	4
		微分積分学および演習Ⅱ	4	微分積分学および演習Ⅱ	4	微分積分学および演習Ⅱ	4
		・線形代数学Ⅰ	2	・線形代数学Ⅰ	2	・線形代数学Ⅰ	2
		線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2
		物理学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2
		化学Ⅰ	2	化学Ⅰ	2	化学Ⅰ	2
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	4	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	4	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	4
		・コンピュータ基礎および演習Ⅱ	4	・コンピュータ基礎および演習Ⅱ	4	・コンピュータ基礎および演習Ⅱ	4
		物理学Ⅱ	2	物理学Ⅱ	2	物理学Ⅱ	2
		化学Ⅱ	2	化学Ⅱ	2	物理実験Ⅰ	1
		物理実験Ⅰ	1	物理実験Ⅰ	1	物理実験Ⅱ	1
		物理実験Ⅱ	1	物理実験Ⅱ	1	化学実験Ⅰ	1
		化学実験Ⅰ	1	化学実験Ⅰ	1		
		化学実験Ⅱ	1	化学実験Ⅱ	1		
		小計	32	小計	32	小計	29
	2年次生	・電磁気学Ⅰ	2	・電磁気学Ⅰ	2	・電磁気学Ⅰ	2
		・電磁気学Ⅱ	2	・電磁気学Ⅱ	2	・電磁気学Ⅱ	2
		・電磁気学基礎実験	2	・電磁気学基礎実験	2	・電磁気学基礎実験	2
		・電気回路	4	・電気回路	4	・電気回路	4
		電子回路基礎Ⅰ	2	電子回路基礎Ⅰ	2	電子回路基礎Ⅰ	2
		・電子工学基礎実験	2	・電子工学基礎実験	2	・電子工学基礎実験	2
		量子物理学Ⅰ	2	論理システム設計Ⅰ	2	論理システム設計Ⅰ	2
		量子物理学Ⅱ	2	アルゴリズムとデータ構造	2	アルゴリズムとデータ構造	2
		電子計測	2	コンピュータ・アーキテクチャ	2	オブジェクト指向プログラミング	2
		ベクトル解析	2	量子物理学Ⅰ	2	コンピュータ・アーキテクチャ	2
		微分方程式Ⅰ	2	電子計測	2	ベクトル解析	2
		微分方程式Ⅱ	2	ベクトル解析	2	応用数学	2
		論理システム設計Ⅰ	2	応用数学	2	微分方程式Ⅰ	2
		アルゴリズムとデータ構造	2	微分方程式Ⅰ	2	微分方程式Ⅱ	2
		応用数学	2	微分方程式Ⅱ	2	数値解析学	2
				数値解析学	2		
		小計	32	小計	34	小計	32
	3年次生	電磁気学Ⅲ	2	電磁気学Ⅲ	2	電磁気学Ⅲ	2
		透過現象	2	透過現象	2	透過現象	2
		回路解析	2	回路解析	2	回路解析	2
		複素解析学Ⅰ	2	複素解析学Ⅰ	2	複素解析学Ⅰ	2
		複素解析学Ⅱ	2	複素解析学Ⅱ	2	複素解析学Ⅱ	2
		確率・統計Ⅰ	2	確率・統計Ⅰ	2	確率・統計Ⅰ	2
		確率・統計Ⅱ	2	確率・統計Ⅱ	2	確率・統計Ⅱ	2
		電子工学実験Ⅰ	2	電子工学実験Ⅰ	2	電子工学実験Ⅰ	2
		電子工学実験Ⅱ	2	電子工学実験Ⅱ	2	電子工学実験Ⅱ	2
		小計	18	小計	18	小計	18
	3・4年次生(随時)	電子デバイス工学Ⅰ	2	高周波回路	2	コンピュータ・ハードウェア	2
		電子デバイス工学Ⅱ	2	電磁波工学	2	デジタル信号処理	2
		オプトエレクトロニクス	2	無線機器学	2	データ解析	2
		レーザ工学	2	音響工学	2	情報理論	2
		高周波回路	2	制御工学Ⅰ	2	通信方式	2
		電磁波工学	2	制御工学Ⅱ	2	論理システム設計Ⅱ	2
		無線機器学	2	ロボット工学	2	制御工学Ⅰ	2
		集積回路基礎Ⅰ	2	応用電子工学	2	制御工学Ⅱ	2
		気体エレクトロニクス	2	論理システム設計Ⅱ	2	システム工学	2
		通信方式	2	通信方式	2	ロボット工学	2
		制御工学Ⅰ	2	集積回路基礎Ⅰ	2		
		小計	22	小計	22	小計	20
	4年次生	・卒業セミナー	4	・卒業セミナー	4	・卒業セミナー	4
		・卒業研究	6	・卒業研究	6	・卒業研究	6
		電子工学特別演習	2	電子工学特別演習	2	電子工学特別演習	2
		小計	12	小計	12	小計	12

履修モデル

工学部第一部 環境物質化学科

学習分野		環境と化学		物づくりと性質		生物の利用		備考	
教育・学習目標	地球環境問題に関する基礎的な理解と解決のための技術基盤を修得します。		地球にやさしい新物質材料の開発のための基礎知識と技術基盤を修得します。		生物を利用した新しい機能の開発や物質創製のための基礎知識と基盤技術を修得します。				
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
1 年次	工学入門	2	工学入門	2	工学入門	2	専門必修	24	
	微積分学および演習Ⅱ、線形代数学Ⅱ、ワークショップⅠ&Ⅱ、コンピュータ基礎および演習Ⅱの中から10						コンピュータ基礎および演習Ⅰ、微積分学および演習Ⅰ、線形代数学Ⅰ、物理学Ⅰ&Ⅱ、化学Ⅰ&Ⅱ、物理実験Ⅰ&Ⅱ、化学実験Ⅰ&Ⅱ、環境科学		
							英語	4	
							人間科学	4	
		小計 12						小計	32
2 年次	電気化学	2	電気化学	2	電気化学	2	専門必修	12	
	生物化学	2	生物化学	2	生物化学	2	物理化学Ⅰ&Ⅱ、有機化学Ⅰ&Ⅱ、環境物質化学実験Ⅰ&Ⅱ		
	有機化学演習	2	有機化学演習	2	有機化学演習	2			
	環境分析学	2	環境分析学	2	環境分析学	2			
	環境と生物	2	環境と生物	2	環境と生物	2			
	物性物理学	2	物性物理学	2	生物学	2			
	生物学、基礎化学演習、基礎物理学演習、電磁気学Ⅰ、電磁気学Ⅱの中から8						英語	2	
							人間科学	8	
	小計 22						小計	22	
	3 年次	機器分析	2	機器分析	2	機器分析	2	専門必修	6
統計熱力学		2	統計熱力学	2	統計熱力学	2	応用物性実験		
環境情報学		2	環境情報学	2	環境情報学	2	生物化学実験、有機化学実験		
高分子物性学		2	高分子物性学	2	高分子物性学	2			
光機能性物質工学		2	光機能性物質工学	2	生体高分子工学	2			
計算機量子化学		2	計算機量子化学	2	計算機量子化学	2			
分子生物学		2	生物物理学	2	分子生物学	2			
応用微生物学		2	固体物性工学Ⅰ	2	応用微生物学	2			
生物有機化学		2	固体物性工学Ⅱ	2	生物物理学	2			
機能性有機合成化学		2	機能性有機合成化学	2	生物有機化学	2			
高分子合成学		2	高分子合成学	2	機能性有機合成化学	2			
無機化学		2	無機化学	2	高分子合成学	2			
物理化学演習		2	物理化学演習	2	物理化学演習	2			
錯体化学		2	錯体化学	2	錯体化学	2	英語	2	
半導体材料工学		2	半導体材料工学	2	半導体材料工学	2	人間科学	8	
小計 30		小計 30		小計 30		小計 16			
4 年次	環境適応物質学	2	環境適応物質学	2	環境適応物質学	2	専門必修		
	高分子材料工学	2	高分子材料工学	2	高分子材料工学	2	卒業研究 A or	2	
	生体高分子工学	2	生体高分子工学	2	光化学	2	卒業研究 B	6	
	光化学	2	光化学	2	センサー材料工学	2			
	センサー材料工学	2	センサー材料工学	2					
	無機材料工学	2	無機材料工学	2					
	薄膜工学	2	薄膜工学	2					
	小計 14		小計 14		小計 8		小計 2 or 6		

機械工学科における履修の考え方

機械工学は、他の分野に比べ、対象となる分野の範囲が幅広く、学生にとって、全ての科目を完全に習得することは、大変なことであると思う。しかしながら、企業が機械工学科の学生を採用するときに求めるのは、機械工学全般を知るジェネラリストであり、医者がインターン時に全ての分野を学ばされるのと同様、できる限り多くの専門科目を幅広く履修することを強く勧める。

大学において履修計画を立てるときの良さは、自らの興味に応じて好きな科目を学べる取捨選択の範囲が、広いことにある。しかしながら、社会から見たときに、現在のカリキュラムにおける必修科目のみを知っていれば機械工学の学士として認められるわけではない。以下を参考に、慎重に履修計画を立てていただきたい。

- (1) 材料力学、工業熱力学、流体の力学、工業力学、振動学（別名機械力学）の5つは、通称「5力」とされて、機械工学の最も根幹を成す力学である。これらの科目の後半（例えば材料力学Ⅱ）については選択科目となっているが、必ず履修することが強く望まれる。中でも最も重要なのが材料力学である。
- (2) 機械のメカトロ化、コンピュータ制御が当たり前となった現在では、制御工学も、5力に並ぶほど重要である。
- (3) 就職して産業界に出た後の、機械設計や機械加工などの「ものづくり」関連科目の重要性は、とても大きい。
- (4) 数学や物理は、力学の基礎であり、なるべく多くの科目を習得しておくことが望まれる。
- (5) 2年次までに配当されている専門科目については、できる限り全て履修すること。
- (6) 3年次以降、「材料と加工」、「エネルギーと環境」、「情報と機械システム」という各分野のコースに応じた専門科目が出てくる。各自が学びたいコースの科目を中心に選択することになるが、学びたいコースの科目以外についても、可能な限り履修することが望まれる。
- (7) 工学部の中で、コンピュータを用いた計算を最も多用するのは実は機械工学である。コンピュータ関連科目、特にプログラミングに関連する科目は重要である。
- (8) 国際化を迎えた現在、機械系エンジニアにとっての英語の重要性は益々増大している。単位を取るだけでなく、道具として英語を使いこなせるように、自己研鑽することが望まれる。

以上.

機械工学科コース別履修モデル(専門選択科目の選択基準)その1

◎必ず履修すべき科目、○履修を強く勧める科目、△余裕のある限り履修すべき科目

学 年	期	単位	科目名	選択基準
1	前期	2	化学Ⅰ	○
1	前期	2	ワークショップⅠ	○
1	前期	1	物理実験Ⅰ	◎
1	前期	2	エンジンの科学	○
1	前期	1	化学実験Ⅰ	○
1	後期	4	微分積分学および演習Ⅱ	◎
1	後期	2	線形代数学Ⅱ	◎
1	後期	2	ワークショップⅡ	○
1	後期	2	物理学Ⅱ	◎
1	後期	1	物理実験Ⅱ	◎
1	後期	4	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	○
1	後期	2	化学Ⅱ	△
1	後期	2	メカトロニクス概論	○
1	後期	2	工業力学Ⅱ	◎
1	後期	1	化学実験Ⅱ	△
2	前期	2	コンピュータプログラミングⅠ	○
2	前期	2	材料工学	○
2	後期	2	材料力学Ⅱ	◎
2	後期	2	微分方程式Ⅱ	○
2	後期	2	ベクトルおよびテンソル	○
2	後期	2	応用数学	○
2	後期	2	複素解析学Ⅰ	△
2	後期	2	工業熱力学Ⅱ	◎
2	後期	2	応用振動学	◎
2	後期	2	コンピュータプログラミングⅡ	○

機械工学科コース別履修モデル(専門選択科目の選択基準)その2

◎必ず履修すべき科目、○履修を強く勧める科目、△余裕のある限り履修すべき科目

学 年	期	単 位	科目名	コース別選択基準		
				材料と加工	エネルギーと環境	情報と機械システム
3	前期	2	流体の力学Ⅱ	◎	◎	◎
3	前期	2	制御工学Ⅰ	◎	◎	◎
3	前期	2	複素解析学Ⅱ	○	○	○
3	前期	2	確率・統計Ⅰ	○	○	○
3	前期	2	電気工学	△	△	○
3	前期	2	弾塑性学	○	△	△
3	前期	2	機械加工学	○	△	△
3	前期	2	伝熱工学	△	○	△
3	前期	2	熱機関	△	○	△
3	前期	2	計測工学	△	△	○
3	前期	2	計算機援用設計	△	△	○
3	後期	2	電子工学	△	△	○
3	後期	2	数値解析学	○	○	○
3	後期	2	確率・統計Ⅱ	△	△	△
3	後期	2	材料強度学	○	△	△
3	後期	3	加工の力学および演習	○	△	△
3	後期	2	トライボロジー概論	○	△	△
3	後期	2	粘性流体力学	△	○	△
3	後期	2	流体機械	△	○	△
3	後期	2	制御工学Ⅱ	○	○	◎
3・4	集中	2	インターンシップ	△	△	△
4	前期	2	先端材料	○	△	△
4	前期	2	応用物性学	○	△	△
4	前期	2	バイオメカニクス	○	△	△
4	前期	2	数値熱流体力学	△	○	△
4	前期	2	エネルギー変換工学	△	○	△
4	前期	2	ロボット工学	△	△	○
4	前期	2	機械・構造物のダイナミクス	△	△	○

機械情報工学科 科目関連表

(・印は必修科目)

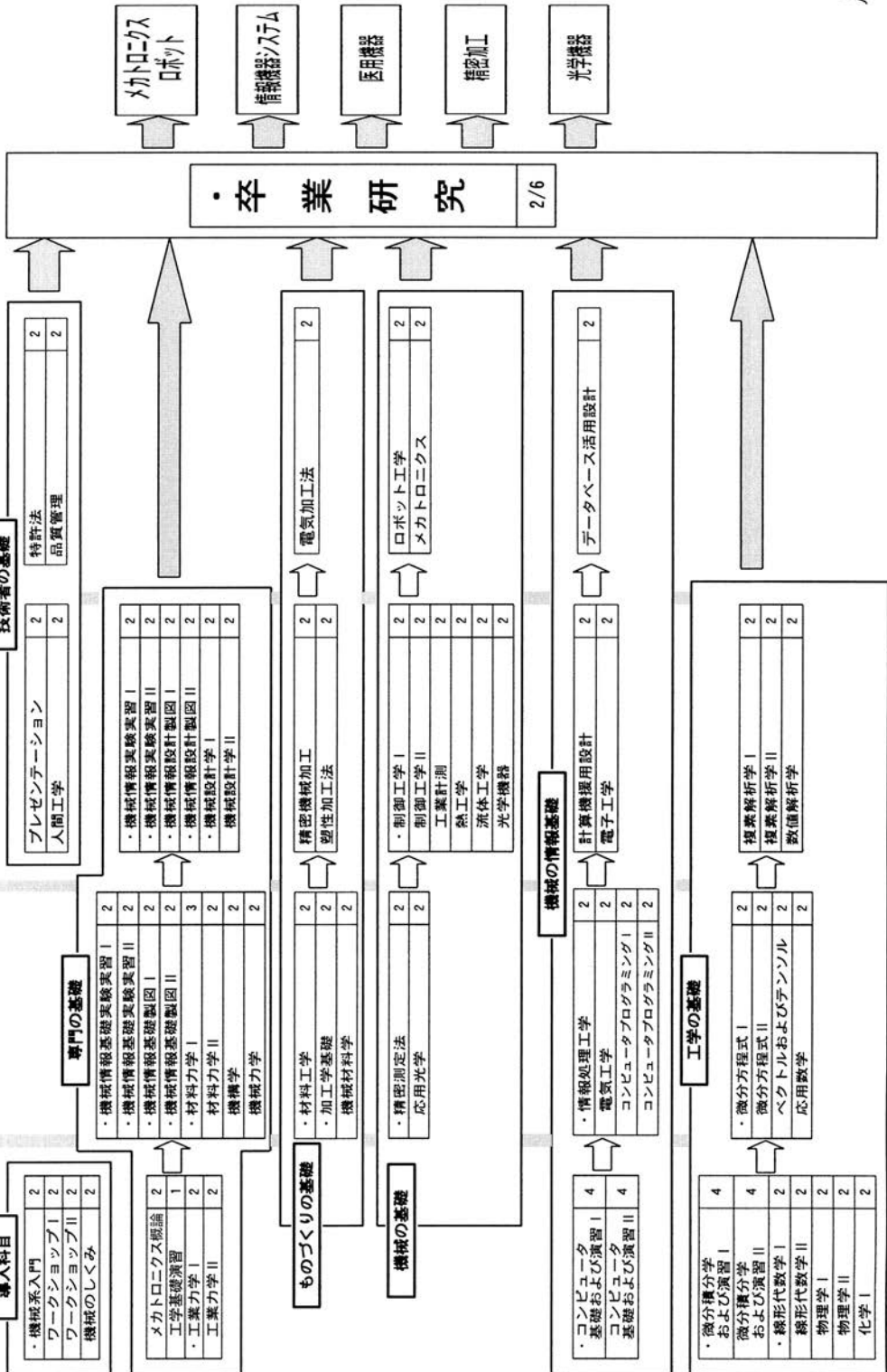
専門分野

4年

3年

2年

1年



履修モデル

工学部第一部 情報通信工学科

分野別コース			情報通信		情報ネットワーク		マルチメディア処理		コンピュータ応用	
教育・学習目標			光ファイバ、携帯電話などのさまざまな情報通信システムの原理とその応用について学びます。		インターネットをはじめとする情報ネットワークの基本技術とその応用について学びます。		音声、画像、テキストなどを含むマルチメディア情報の処理に関する基本技術とその応用を学びます。		人工知能、ロボット制御などの高度なコンピュータ利用に関する基本技術とその応用について学びます。	
履修推奨科目	1年	前期	微分積分学および演習Ⅰ	4	微分積分学および演習Ⅰ	4	微分積分学および演習Ⅰ	4	微分積分学および演習Ⅰ	4
			線形代数学Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2
			コンピュータ基礎および演習Ⅰ	4	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	4	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	4	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	4
			ワークショップⅠ	2	ワークショップⅠ	2	ワークショップⅠ	2	ワークショップⅠ	2
			情報通信メディア基礎	2	情報通信メディア基礎	2	情報通信メディア基礎	2	情報通信メディア基礎	2
		後期	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2
			ワークショップⅡ	2	ワークショップⅡ	2	ワークショップⅡ	2	ワークショップⅡ	2
			電磁気学基礎および演習	3	電磁気学基礎および演習	3	電磁気学基礎および演習	3	電磁気学基礎および演習	3
			電気回路基礎および演習	3	電気回路基礎および演習	3	電気回路基礎および演習	3	電気回路基礎および演習	3
			コンピュータ基礎および演習Ⅱ	4	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	4	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	4	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	4
	小計	基礎情報数学A(離散数学)	2	基礎情報数学A(離散数学)	2	基礎情報数学A(離散数学)	2	基礎情報数学A(離散数学)	2	
		微分積分学および演習Ⅱ	4	微分積分学および演習Ⅱ	4	微分積分学および演習Ⅱ	4	微分積分学および演習Ⅱ	4	
		線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2	
		36	36	36	36	36				
		2年	前期	電子回路基礎	2	電子回路基礎	2	電子回路基礎	2	電子回路基礎
情報通信基礎実験(通年)	4			情報通信基礎実験(通年)	4	情報通信基礎実験(通年)	4	情報通信基礎実験(通年)	4	
コンピュータ構成と機械語	2			コンピュータ構成と機械語	2	コンピュータ構成と機械語	2	コンピュータ構成と機械語	2	
基礎情報数学B(微分論と情報理論)	2			基礎情報数学B(微分論と情報理論)	2	基礎情報数学B(微分論と情報理論)	2	基礎情報数学B(微分論と情報理論)	2	
基礎通信数学B(微分方程式Ⅰ)	2			基礎通信数学B(微分方程式Ⅰ)	2	基礎通信数学B(微分方程式Ⅰ)	2	基礎通信数学B(微分方程式Ⅰ)	2	
後期	信号理論		2	信号理論	2	信号理論	2	信号理論	2	
	回路網理論		2	回路網理論	2	回路網理論	2	回路網理論	2	
	電磁気学応用		2	基礎プログラミングおよび演習	2	基礎プログラミングおよび演習	2	線形代数学Ⅲ	2	
	データ構造とアルゴリズム		2	データ構造とアルゴリズム	2	データ構造とアルゴリズム	2	データ構造とアルゴリズム	2	
	基礎情報数学C(代数学と符号理論)		2	インターネットプログラミング	2	インターネットプログラミング	2	インターネットプログラミング	2	
小計	信号システム解析	2	基礎情報数学C(代数学と符号理論)	2	基礎情報数学C(代数学と符号理論)	2	基礎情報数学C(代数学と符号理論)	2		
	電子回路応用	2	通信理論基礎	2	信号システム解析	2	微分方程式Ⅱ	2		
	応用物理学	2	信号システム解析	2	通信理論基礎	2	通信理論基礎	2		
	通信理論基礎	2	2	2	2	2				
	30	28	28	28	28					
3年	前期	情報通信工学実験(通年)	4	情報通信工学実験(通年)	4	情報通信工学実験(通年)	4	情報通信工学実験(通年)	4	
		グループスタディⅠ	2	グループスタディⅠ	2	グループスタディⅠ	2	グループスタディⅠ	2	
		高周波の基礎	2	通信システム	2	計測制御工学	2	計測制御工学	2	
		情報通信デバイス	2	コンピュータ・ネットワーク	2	メディアと信号処理	2	メディアと信号処理	2	
		通信システム	2	オブジェクト指向プログラミングおよび演習	2	オブジェクト指向プログラミングおよび演習	2	オブジェクト指向プログラミングおよび演習	2	
	後期	グループスタディⅡ	2	グループスタディⅡ	2	グループスタディⅡ	2	グループスタディⅡ	2	
		通信ネットワーク	2	通信ネットワーク	2	画像処理工学	2	画像処理工学	2	
		情報ネットワーク	2	音声・音響情報工学	2	音声・音響情報工学	2	音声・音響情報工学	2	
		ディジタル回路	2	データベース	2	情報ネットワーク	2	情報ネットワーク	2	
		ディジタル信号処理	2	ディジタル回路	2	データベース	2	データベース	2	
小計	ディジタル信号処理	2	ディジタル信号処理	2	ディジタル信号処理	2	ディジタル信号処理	2		
	22	24	24	24	24					
	4年	前期	卒業研究AまたはB(通年)	2/6	卒業研究AまたはB(通年)	2/6	卒業研究AまたはB(通年)	2/6	卒業研究AまたはB(通年)	2/6
			情報通信プロジェクト(通年)	3	情報通信プロジェクト(通年)	3	情報通信プロジェクト(通年)	3	情報通信プロジェクト(通年)	3
			ワイヤレスシステム工学	2	マルチメディア通信工学	2	マルチメディア通信工学	2	マルチメディア通信工学	2
後期		光通信工学	2	コンピュータグラフィクス	2	コンピュータグラフィクス	2	コンピュータグラフィクス	2	
		通信法規	2	通信法規	2	ネットワークセキュリティと暗号	2	ネットワークセキュリティと暗号	2	
小計	13/15	13/15	13/15	13/15	13/15					
	単位数総計		101/103	101/103	101/103	101/103	101/103	101/103		
合計科目数		42	42	42	42	42				

・ は必修科目

・ 複素数について十分に学んでいない学生は、1年前期開講の「基礎通信数学A(複素数の基礎)」を履修することを強く奨めます。

・ これはあくまで履修する上で参考とするモデルであり、複数の分野にまたがって選択しても全く構いません。

工学部第一部 情報メディア学科 履修モデル

区分	授業科目名	科目種別	専門分野推奨科目			単位数			毎週授業コマ数							
			デジタルメディア	情報システム・人間科学	コンピューティング基礎	必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年	
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学部共通科目	線形代数学Ⅰ	C1	x	x	x	2			1							
	線形代数学Ⅱ	C1	x	x	x		2			1						
	物理学Ⅰ	C1					2		1							
	化学Ⅰ	C1					2		1							
	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	C1	x	x	x	4			2							
	微積分学および演習Ⅰ	C1	x	x	x	4			2							
	微積分学および演習Ⅱ	C1	x	x	x		4			2						
	ワークショップⅠ(ものづくり基礎)	C1	x	x	x	2			2							
	ワークショップⅡ(ものづくり応用)	C1	x	x	x	2				2						
	合計	9	7	7	7	14	10	0	9	5	0	0	0	0	0	0
学系共通科目	情報通信メディア基礎	C2	x	x	x	2			1							
	電磁気学基礎および演習	C2				3	(択一必修)		1.5							
	メディアの基礎および演習	C2	x	x	x											
	電気回路基礎および演習	C2			x	3	(択一必修)		1.5							
	デザインの基礎および演習	C2	x	x												
	電子回路基礎	C2			x	2	(択一必修)				1					
	情報機器の基礎	C2	x	x												
	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	C2	x	x	x	4			2							
	コンピュータ構成と機械語	C2	x	x	x	2					1					
	インターネットプログラミング	C2	x	x	x		2				1					
	基礎情報数学A(離散数学)	C2	x	x	x	2			1							
	基礎情報数学B(確率論と情報理論)	C2		x	x	2					1					
	基礎情報数学C(代数と符号理論)	C2		x	x	2							1			
	グループスタディⅠ	C2	x	x	x	2							1			
	グループスタディⅡ	C2	x	x	x	2									1	
	ビジネス論	C2	x	x	x	2									1	
	インターンシップ	C2				2									3・4年次随時	
	卒業研究A	C2				2	(択一必修)								1	1
	卒業研究B	C2	x	x	x	6									3	3
	合計(卒研A)	19	12	14	14	20	14	0	1	6	4	1	1	2	1	1
	合計(卒研B)	19	12	14	14	24	14	0	1	6	4	1	1	2	3	3
実験等	情報処理・メディア技術基礎	C3		x	x	2					1					
	情報処理・メディア技術応用	C3		x	x	2							1			
	情報メディア基礎実験	C3	x	x	x	4					2	2				
	情報メディア実験	C3	x	x	x	4							2	2		
	情報メディアプロジェクト	C3	x	x	x	3									2	1
	合計	0	3	5	5	11	4	0	0	0	2	3	3	2	2	1

工学部第一部 情報メディア学科 履修モデル

区分	授業科目名	科目種別	専門分野推奨科目			単位数			毎週授業コマ数							
			デジタルメディア	情報システム・人間科学	コンピュータ・エンジニアリング基盤	必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年	
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学科共通	メディア制作の基礎 (旧称：メディアとデザイン)	C4	x	x	x	2					1					
	アルゴリズムの基礎	C4	x	x	x	2						1		1		
	微分方程式Ⅰ	C4	x			2					1					
	応用数学	C4	x		x	2					1					
	オブジェクト指向プログラミングⅠ (旧称：データ構造とアルゴリズム)	C4	x	x	x	2					1					
	オブジェクト指向プログラミングⅡ (旧称：データ構造とアルゴリズム応用)	C4	x	x	x	2					1					
	オペレーティングシステム	C4	x	x	x	2					1					
	データベース	C4	x	x	x	2					1					
デジタルメディア	コンピュータグラフィックスとアニメーション	DM	x	x		2					1					
	コンピュータグラフィックスとモデリング	DM	x			2					1					
	CAD/CAM	DM	x	x		2							1			
	画像処理と画像編集	DM	x		x	2							1			
	メディア構成論	DM	x	x		2								1		
	音声・音響情報学	DM	x		x	2								1		
	知識・言語情報学	DM	x			2									1	
	画像情報学	DM	x			2									1	
情報システム・人間科学	音メディア表現学 (旧称：メディア表現学)	DM	x			2										1
	数理統計学	IS		x		2						1				
	数理計画法	IS		x		2							1			
	データベースプログラミング	IS	x	x	x	2							1			
	メディアコミュニケーション	IS	x	x	x	2								1		
	オブジェクト指向分析・設計	IS	x	x	x	2								1		
	情報システム論	IS	x	x	x	2									1	
	人間機械情報学	IS	x	x		2									1	
コンピュータ・エンジニアリング基盤	ユーザインタフェースプログラミング (旧称：ヒューマンインタフェース)	IS	x	x	x	2										1
	金融工学序論	IS		x		2										1
	論理回路および論理設計	CI	x	x	x	2					1					
	コンピュータアーキテクチャ	CI	x	x	x	2						1				
	デジタルシステム設計・実装論	CI			x	2							1			
	形式言語とオートマトン	CI			x	2							1			
	プログラミング言語論	CI	x	x	x	2								1		
	コンパイラ	CI			x	2								1		
	デジタル通信	CI			x	2						1				
	情報ネットワーク	CI	x	x	x	2							1			
	コンピュータ・エンジニアリング基盤とセキュリティ	CI		x	x	2									1	
合計		35	27	23	23	2	68	0	0	0	5	9	7	7	5	3

《 建築学科 履修科目一覧 》

●印のある科目は必修科目
科目の()内の数字は単位数

一・二年次生	学科必修科目 (単位数: 41) ●微分積分学および演習Ⅰ (4) ●線形代数学Ⅰ (2) ●コンピュータ基礎および演習Ⅰ (4) ●コンピュータ基礎および演習Ⅱ (4) ●建築マインド (2) ●建築史基礎 (2) ●住宅設計基礎 (2) ●都市計画基礎 (2) ●建築環境工学基礎 (2) ●建築力学Ⅰ (2) ●建築力学Ⅱ (2) ●設計基礎 (3) ●建築設計Ⅰ (2) ●建築設計Ⅱ (4) ●建築設計Ⅲ (4)					人間科学 科目 (18単位以上 選択)										
	学科選択科目 (33単位以上選択) 基礎科目 微分積分学および演習Ⅱ (4) 線形代数学Ⅱ (2) 幾何学A (2) 幾何学B (2) 応用数学 (2) 微分方程式Ⅰ (2) 確率・統計Ⅰ (2) 確率・統計Ⅱ (2) 複素解析学 (2) 物理学Ⅰ (2) 化学Ⅰ (2) 物理実験Ⅰ (1) 物理実験Ⅱ (1) コンピュータワークショップ (1) ワークショップⅠ (1) ワークショップⅡ (3) 建築CAD (2) 日本建築史 (2) 建築設備基礎 (2) 建築力学Ⅲ (2) 鉄筋コンクリート構造 (2) 鉄骨構造 (2) 建築構法 (2) 素材と構造デザイン (2) 設計計画基礎 (2) 絵画 (1)					外国語 科目 (8単位以上 選択)										
	<table><tr><td>都市・企画 コース</td><td>設計・計画 コース</td><td>環境・設備 コース</td><td>構造・生産 コース</td><td>情報デザイン コース</td></tr></table> 西洋建築史(2) 建築見学演習(1) 建築都市法規(2) 木造建築 (2) 建築材料(2) 建築施工(2) 保存と再生(2) 材料実験 (2) 測量実習 (2) インターンシップ(2)					都市・企画 コース	設計・計画 コース	環境・設備 コース	構造・生産 コース	情報デザイン コース	任意選択 科目 (10単位以上 選択)					
都市・企画 コース	設計・計画 コース	環境・設備 コース	構造・生産 コース	情報デザイン コース												
三・四年次生	<table><tr><td>●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) 建築パフォーマンスⅢ (6)</td><td>●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) 建築パフォーマンスⅢ (6)</td><td>●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) ●建築パフォーマンスⅢ (6)</td><td>●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) ●建築パフォーマンスⅢ (6)</td><td>●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) ●建築パフォーマンスⅢ (6)</td></tr><tr><td>(推薦科目) 地区デザイン 2 都市計画論 2 まちづくり論 2</td><td>(推薦科目) 建築デザイン論 2 建築計画 2 地域施設計画 2</td><td>(推薦科目) 音環境・騒音制御工学 2 熱環境・空調工学 2 光環境・電気設備 2</td><td>(推薦科目) 弾塑性力学 2 工法生産 2 耐震工学 2</td><td>(推薦科目) 建築コンピューティング 2 応力の可視化 2 コンピュータデザイン 2</td></tr></table>					●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) 建築パフォーマンスⅢ (6)	●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) 建築パフォーマンスⅢ (6)	●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) ●建築パフォーマンスⅢ (6)	●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) ●建築パフォーマンスⅢ (6)	●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) ●建築パフォーマンスⅢ (6)	(推薦科目) 地区デザイン 2 都市計画論 2 まちづくり論 2	(推薦科目) 建築デザイン論 2 建築計画 2 地域施設計画 2	(推薦科目) 音環境・騒音制御工学 2 熱環境・空調工学 2 光環境・電気設備 2	(推薦科目) 弾塑性力学 2 工法生産 2 耐震工学 2	(推薦科目) 建築コンピューティング 2 応力の可視化 2 コンピュータデザイン 2	自由単位 科目
	●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) 建築パフォーマンスⅢ (6)	●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) 建築パフォーマンスⅢ (6)	●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) ●建築パフォーマンスⅢ (6)	●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) ●建築パフォーマンスⅢ (6)	●建築パフォーマンスⅠ (4) ●建築パフォーマンスⅡ (6) ●建築パフォーマンスⅢ (6)											
(推薦科目) 地区デザイン 2 都市計画論 2 まちづくり論 2	(推薦科目) 建築デザイン論 2 建築計画 2 地域施設計画 2	(推薦科目) 音環境・騒音制御工学 2 熱環境・空調工学 2 光環境・電気設備 2	(推薦科目) 弾塑性力学 2 工法生産 2 耐震工学 2	(推薦科目) 建築コンピューティング 2 応力の可視化 2 コンピュータデザイン 2												
●卒業設計 (必修4単位) 卒業研究 (選択8単位)					教職 など											
↓ 大学院 建築都市企画/建築設計・計画学/建築環境・設備工学/建築構造生産工学/建築情報デザイン																

4 授業科目配当表 2008（平成20）年度カリキュラム

(1) はじめに	33
(2) 全学科共通	34
(3) 電気工学科	38
(4) 電子工学科	40
(5) 環境物質化学科	42
(6) 機械工学科	44
(7) 機械情報工学科	46
(8) 情報通信工学科	48
(9) 情報メディア学科	50
(10) 建築学科	52
(11) 教職課程	54

見 方：この表は「入学年度のカリキュラムにどのような科目が配当されているか」を示すものです。従って、自己の所属する学科の入学年度カリキュラムを見てください。

（カリキュラムの変更により若干変更することがあります）

はじめに

1. 授業科目配当について

授業科目配当表は、入学時から卒業までに配当される授業科目が記載されています。4年間で卒業することが原則ですが、進級判定や卒業判定により、留年や卒業が延期となった場合でも、入学時に配当された科目によって進級・卒業条件を満たさなければなりません。

2. カリキュラム年度について

カリキュラム年度とは、入学年度に適用される「1年次から4年次までに配当されるカリキュラム」、「進級・卒業基準等」を示すものです。学生には必ずいずれかのカリキュラム年度が適用されています。

2012(平成24)年度に入学した学生のカリキュラム年度は、「2012年度」となります。

カリキュラム年度は、UNIPA (<https://portal.sa.dendai.ac.jp/>) の学籍情報照会の「カリキュラム年度」で確認することができます。

2011(平成23)年度以前入学者については、次項3.「2012(平成24)年度より留年した学生に対するカリキュラム適用の変更について」を必ず参照してください。

3. 2012(平成24)年度より留年した学生に対するカリキュラム適用の変更について

【いままでの運用】

2011(平成23)年度まで配布してきた学生要覧(学習案内編)には、履修案内で「進級判定や卒業判定の結果、留年となった場合、正規に進級してきた学年と同一のカリキュラム(一学年下の学生のカリキュラム)が適用されてきました。これにより、留年や卒業延期となった学生は、進級・卒業判定の対象科目及び進級・卒業基準は、正規に進級してきた学年と同一の進級・卒業判定基準(一学年下の学生の進級・卒業判定基準)」にカリキュラム・判定基準の変更が実施されてきました。

【これからの運用】

2012(平成24)年度より留年した学生に対するカリキュラムの適用が「入学した年度のカリキュラムを適用」することに変更となりました。これにより、前記1.に記載したとおり、自分の入学年度の授業科目配当表に記載されている科目(入学時から卒業時まで配当されている科目)が、留年や卒業が延期となってもこの科目を履修・修得し、進級・卒業判定を満たすことになります。

【2011(平成23)年度以前入学者への運用】

2011(平成23)年度の在籍者の中には、留年や卒業延期によって、自分が入学した年度のカリキュラムの適用が、2011(平成23)年度まで実施されてきた「正規に進級してきた学年と同一のカリキュラム(一学年下の学生のカリキュラム)」にカリキュラム変更並びに進級・卒業判定基準が変更となった学生がいます。2012(平成24)年度からの留年した学生に対するカリキュラム適用の変更に伴い、2011(平成23)年度在籍者は、当該年度に適用されているカリキュラムを入学した年度のカリキュラム年度とみなし、進級・卒業判定基準も、同様の取り扱いとなります。

2012(平成24)年度に学生に適用されるカリキュラム年度は、下図の通りです。UNIPAで自分のカリキュラム年度を確認し、自分のカリキュラム年度に対応する学生要覧(学習案内)の項目を参照してください。

【学生に適用されるカリキュラム年度】留年等によって今後カリキュラム年度は変更しません。

	2012 ｶﾘｷｭﾗﾑ	2011 ｶﾘｷｭﾗﾑ	2010 ｶﾘｷｭﾗﾑ	2009 ｶﾘｷｭﾗﾑ	2008 ｶﾘｷｭﾗﾑ
1年次生(新入生)	○				
1年次留年生		○			
2年次生		○			
2年次留年生			○		
3年次生			○		
3年次留年生				○	
4年次生				○	
4年次留年生					○

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第一部 全学科 授業科目配当表

人間科学科目2008 — 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
共通教育科目	フレッシュマンセミナー	1	2	選	1	半期(前)	平成24年度開講せず
	人間学入門A	1	2	選	全	半期(前)	
	現代社会と教育A	1	2	選	全	半期(前)	平成24年度開講せず
	経済学概論A	1	2	選	全	半期(前)	平成24年度開講せず
	哲学A	1	2	選	全	半期(前/後)	
	こころの科学A	1	2	選	全	半期(前/後)	
	法学A	1	2	選	全	半期(前/後)	
	経営学概論A	1	2	選	全	半期(前/後)	
	歴史学A	1	2	選	全	半期(前/後)	
	哲学B	1	2	選	全	半期(後)	平成24年度開講せず
	人間学入門B	1	2	選	全	半期(後)	
	こころの科学B	1	2	選	全	半期(後)	平成24年度開講せず
	現代社会と教育B	1	2	選	全	半期(後)	
	法学B	1	2	選	全	半期(後)	平成24年度開講せず
	経営学概論B	1	2	選	全	半期(後)	平成24年度開講せず
	歴史学B	1	2	選	全	半期(後)	平成24年度開講せず
	経済学概論B	1	2	選	全	半期(後)	平成24年度開講せず
	日本国憲法	1	2	選	全	半期(前/後)	
	日本経済入門	1	2	選	全	半期(前/後)	月曜2時限開講分e-Campus科目
	比較文化論	1	2	選	全	半期(前/後)	
	倫理学入門	1	2	選	全	半期(前/後)	
	国際社会と政治	1	2	選	全	半期(前/後)	
	芸術	1	2	選	全	半期(前/後)	
	文学	1	2	選	全	半期(前/後)	平成24年度開講せず
	ドイツ語Ⅰ	1	2	選	全	半期(前/後)	平成24年度後期開講せず
	ドイツ語Ⅱ	1	2	選	全	半期(前/後)	平成24年度前期開講せず
	ドイツ語Ⅲ	1	2	選	全	半期(前)	平成24年度開講せず
	ドイツ語Ⅳ	1	2	選	全	半期(前/後)	平成24年度開講せず
	中国語Ⅰ	1	2	選	234	半期(前)	
	中国語Ⅱ	1	2	選	234	半期(後)	
	健康と体力	1	2	選	234	半期(後)	
	トリムスポーツⅠ	2	2	選	全	半期(前)	
	トリムスポーツⅡ	2	2	選	全	半期(後)	
	トリムスポーツⅢ	1	1	選	234	半期(前/後)	千葉開講
	トリムスポーツⅣ	1	1	選	234	半期(前/後)	千葉開講
	異文化理解A	1	2	選	全	半期(前/後)	
	異文化理解B	随時	2	選	全	半期(前/後)	平成24年度開講せず
	アウトドアスポーツA	1	1	選	全	半期(後)	集中講義
	アウトドアスポーツB	1	1	選	全	半期(後)	集中講義
	アウトドアスポーツC	1	1	選	全	半期(後)	集中講義
発展科目	ネットワーク経済	1	2	選	234	半期(前/後)	
	国際経営論	1	2	選	234	半期(前/後)	平成24年度開講せず
	経営工学	1	2	選	234	半期(前/後)	
	社会心理学	1	2	選	234	半期(前/後)	
	介護福祉論	1	2	選	234	半期(前/後)	
	認知心理学	1	2	選	234	半期(前/後)	
	記号論理学	1	2	選	234	半期(前/後)	
	情報化社会とコミュニケーション	1	2	選	234	半期(前/後)	
	情報と職業	1	2	選	234	半期(前/後)	
	スポーツコンセプト	1	2	選	234	半期(前)	

2008(平成20)年度カリキュラム 工学部第一部 全学科 授業科目配当表

人間科学科目2008 — 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
共通 教育 科目	総合演習	1	2	選	3	通年	集中講義
	科学技術史A	1	2	選	234	半期(前)	
	科学技術史B	1	2	選	234	半期(後)	
	技術者倫理	1	2	選	234	半期(前/後)	
	科学技術論	1	2	選	234	半期(前/後)	平成24年度開講せず
	地球環境論	1	2	選	234	半期(前/後)	
	法と科学技術	1	2	選	234	半期(前/後)	
	情報倫理	1	2	選	234	半期(前/後)	
	特許法	1	2	選	234	半期(前/後)	
	情報化社会と知的財産権	1	2	選	234	半期(前/後)	

STS科目

よき技術者が備えるべき知識や教養を内容とした教養科目。
技術者倫理、関連法規、環境及び人間社会と科学技術の関わり、技術者をめぐる社会科学分野などで構成される。
(STSとは、Science, Technology and Societyの略で、科学技術と社会の関係を論じる学問領域を意味する。)

STS科目の中から選択して最小限1科目(2単位)を履修すること。

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 全学科 授業科目配当表

英語科目2008 — 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
共通 教育 科目	英語 I	2	2	選	1	半期(前)	Web活用クラス
	英語 II	2	2	選	1	半期(後)	Web活用クラス
	英語Ⅲ	1	1	選	2	半期(前)	Web活用クラス
	英語Ⅳ	1	1	選	2	半期(後)	Web活用クラス
	英語A	1	1	選	2	半期(前)	履修条件あり
	英語B	1	1	選	2	半期(後)	履修条件あり
	英語 V	1	1	選	3	半期(前)	
	英語 VI	1	1	選	3	半期(後)	
	英語C	1	1	選	3	半期(前)	履修条件あり
	英語D	1	1	選	3	半期(後)	履修条件あり
	英語特別演習 I	1	1	選	4	半期(前)	履修条件あり
	英語特別演習 II	1	1	選	4	半期(後)	履修条件あり
	海外英語短期研修		2	選	全	半期(前)	集中講義
	国内英語短期研修 I		1	選	全	半期(前)	集中講義。開講せず
	国内英語短期研修 II		1	選	全	半期(後)	集中講義。開講せず
	海外事情 I		1	選	全	半期(前)	履修条件あり
	海外事情 II		1	選	全	半期(後)	履修条件あり

英語Ⅵ(English for Engineers)
英語A (Speaking , Listening , Reading , TOEIC)
英語B (Speaking , Listening , Reading , TOEIC)
英語C (TOEIC演習)
英語D (TOEIC演習)

履修上の制限について

- 1.「英語A」「英語B」「英語C」「英語D」は受講直前学期TOEIC(EPTES)で所定の得点を取得していること。
- 2.「英語特別演習 I 」および「英語特別演習 II 」は、科目登録時に英語選択科目を7単位以上取得していること。

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 全学科 授業科目配当表

総合科目2008 — 1

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
共通 教育 科目	総合 科目	東京電機大学で学ぶ	1	1	自	1	半期(前)	導入科目 1年次のみ履修可 開講せず

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 電気工学科 授業科目配当表

電気工学科2008 - 1

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門 教育科目	学部 共通 科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)	
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)	
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	
		ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)	平成24年度開講せず
		ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)	
	学系 共通 科目	物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	
		物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	
		化学実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	
		化学実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)	
		ベクトル解析	1	2	選	2	半期(前)	
		応用数学	1	2	選	2	半期(後)	
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
		数値解析学	1	2	選	2	半期(前)	
		複素解析学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	
		電磁気学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)	
		電磁気学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	
		工学入門	1	2	選	1	半期(前)	開講せず
		電磁気学基礎実験	2	2	必	2	半期(前)	
		環境科学	1	2	選	1	半期(後)	
		インターンシップ	随時	2	選	34	通年	集中講義
		卒業研究A	1	2	必	4	通年	卒業研究Bとの択一必修
		卒業研究B	前1後5	6	必	4	通年	卒業研究Aとの択一必修 前期1コマ、後期5コマ
	電 磁 気 学	演習電磁気学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)	
		演習電磁気学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	平成24年度開講せず
		電磁気学Ⅲ	1	2	選	3	半期(前)	
	回 路 理 論	回路理論Ⅰ	2	4	必	2	半期(前)	
		回路理論Ⅱ	1	2	必	2	半期(後)	
		回路理論Ⅲ	1	2	選	3	半期(前)	
		過渡現象	1	2	選	3	半期(前)	
電 子 回 路	電子回路Ⅰ	1	2	選	2	半期(後)		
	電子回路Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)		
	電子回路設計	1	2	選	4	半期(前)		
計 測 ・ 制 御 シ ス テ ム	電気電子計測	1	2	選	2	半期(後)		
	制御工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		
	制御工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)		
	システム計測・制御	1	2	選	4	半期(前)	平成24年度開講せず	
	メカトロニクス	1	2	選	4	半期(後)	平成24年度開講せず	
半 導 体 デ バ イ ス ・ 電 子 材 料	基礎電子物性	1	2	選	2	半期(前)		
	電気電子材料Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		
	電気電子材料Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	平成24年度開講せず	
	電子デバイスⅠ	1	2	選	3	半期(前)		
	電子デバイスⅡ	1	2	選	3	半期(後)		

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 電気工学科 授業科目配当表

電気工学科2008 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門教育科目	プログラミングおよび演習	1	2	選	2	半期(前)	
	ソフトウェア工学	1	2	選	2	半期(後)	
	ディジタル回路	1	2	選	2	半期(後)	
	コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	3	半期(前)	
	信号処理	1	2	選	3	半期(後)	
	コンピュータネットワーク	1	2	選	4	半期(後)	
	電気機器Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	
	電気機器Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	
	パワーエレクトロニクス	1	2	選	3	半期(後)	
	ドライブシステム	1	2	選	4	半期(前)	
	電機設計および電気製図	1	2	選	4	半期(後)	
	高圧工学	1	2	選	3	半期(後)	
	電力系統工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(後)	
	電力系統工学Ⅱ	1	2	選	4	半期(前)	
	発電工学	1	2	選	4	半期(前)	
	エコエネルギーシステム	1	2	選	4	半期(後)	
	電気法規	1	2	選	4	半期(後)	
	基礎電気工学実験	2	2	必	2	半期(後)	
	電気工学実験Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)	
	電気工学実験Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)	
	電気工学論議	1	2	選	3	半期(前)	
	コンピュータプレゼンテーション基礎	1	2	選	4	半期(前)	
	コンピュータプレゼンテーション応用	1	2	選	4	半期(後)	
	コンピュータワークショップ	1	1	自	1	通年	開講せず
	アドバンスドワークショップ	2	4	自	234	通年	開講せず
	職業指導	1	4	自	3	通年	
	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
	情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
	情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
	マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
	線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	
	数式処理	1	2	自	2	半期(前)	集中講義
	初等解析学	1	2	自	2	半期(後)	平成24年度開講せず
	代数学入門	1	2	自	1	半期(後)	
	解析学	1	2	自	3	半期(前)	
	幾何学	1	2	自	3	半期(前)	
	代数学	1	2	自	2	半期(後)	
	微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)	
	応用解析学	1	2	自	3	半期(後)	平成24年度開講せず
	微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	
	複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)	
	確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)	
	確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 電子工学科 授業科目配当表

電子工学科2008 — 1

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門教育科目	学部共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)	
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)	
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	選	1	半期(前)	
		ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)	
		ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)	
	学系共通科目	物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	
		物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	
		化学実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	開講せず
		化学実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	開講せず
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	必	1	半期(後)	
		ベクトル解析	1	2	選	2	半期(前)	
		応用数学	1	2	選	2	半期(後)	
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
		数値解析学	1	2	選	2	半期(前)	
		複素解析学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	
		電磁気学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)	
		電磁気学Ⅱ	1	2	必	2	半期(後)	
		工学入門	1	2	選	1	半期(前)	開講せず
		電磁気学基礎実験	2	2	必	2	半期(前)	
		環境科学	1	2	選	1	半期(後)	
		インターンシップ	随時	2	選	34	通年	集中講義
		調査研究	1	2	必	4	通年	卒業研究との択一必修
		卒業研究	3	6	必	4	通年	調査研究との択一必修
	電子工学基礎・共通	電気回路	2	4	必	2	半期(前)	
		回路解析	1	2	選	3	半期(前)	
		電磁気学Ⅲ	1	2	選	3	半期(前)	
		過渡現象	1	2	選	3	半期(前)	
		電子計測	1	2	選	2	半期(後)	
		電子回路基礎Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	開講せず
		電子回路基礎Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	開講せず
論理システム設計Ⅰ		1	2	選	2	半期(後)		
電子工学基礎実験		2	2	必	2	半期(後)		
電子工学実験Ⅰ		2	2	選	3	半期(前)		
電子工学実験Ⅱ		2	2	選	3	半期(後)		
卒業セミナー		1	4	必	4	通年		
電子工学特別演習		1	2	選	4	通年	開講せず	
アドバンストワークショップ		2	4	選	2	通年	開講せず	
電子材料・光電子	量子物理学Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)		
	量子物理学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		
	気体エレクトロニクス	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時	
	電子デバイス工学Ⅰ	1	2	選	34	半期(前)	3・4前期同時	
	電子デバイス工学Ⅱ	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時	
	オプトエレクトロニクス	1	2	選	34	半期(前)	開講せず	
レーザ工学	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時		

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 電子工学科 授業科目配当表

電子工学科2008 - 2

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門教育科目	集積回路・生体情報・電子機器	高周波回路	1	2	選	34	半期(前)	3・4前期同時
		電磁波工学	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時
		無線機器学	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時
		音響工学	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時
		制御工学Ⅰ	1	2	選	34	半期(前)	3・4前期同時
		制御工学Ⅱ	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時
		ロボット工学	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時
		医用電子工学	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時
		論理システム設計Ⅱ	1	2	選	34	半期(前)	3・4前期同時
		集積回路基礎Ⅰ	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時
	集積回路基礎Ⅱ	1	2	選	34	半期(後)	開講せず	
	信号処理・情報・コンピュータ	アルゴリズムとデータ構造	1	2	選	2	半期(前)	
		オブジェクト指向プログラミング	1	2	選	2	半期(後)	
		機械語プログラミング	1	2	選	34	半期(前)	開講せず
		コンピュータ・アーキテクチャ	1	2	選	2	半期(前)	
		コンピュータ・ハードウェア	1	2	選	34	半期(前)	開講せず
		ディジタル信号処理	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時
		データ解析	1	2	選	34	半期(後)	開講せず
		情報理論	1	2	選	34	半期(後)	3・4後期同時
		通信方式	1	2	選	34	半期(前)	3・4前期同時
		システム工学	1	2	選	34	半期(前)	3・4前期同時
	－	コンピュータワークショップ	1	1	自	1	通年	開講せず
		品質管理	1	2	自	34	半期(後)	3・4後期同時
	通信法規	1	2	自	34	半期(後)	3・4後期同時	
	教職関連科目	職業指導	1	4	自	3	通年	
		コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)	集中講義
		初等解析学	1	2	自	2	半期(後)	平成24年度開講せず
代数学入門		1	2	自	1	半期(後)		
解析学		1	2	自	3	半期(前)		
幾何学		1	2	自	3	半期(前)		
代数学		1	2	自	2	半期(後)		
微分幾何学		1	2	自	3	半期(後)		
応用解析学		1	2	自	3	半期(後)	平成24年度開講せず	
数学		微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	
	複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)		
	確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)		
	確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)		

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 環境物質化学科 授業科目配当表

環境物質工学科 — 1

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門 教育 科目	学部 共通 科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)	
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		物理学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	
		化学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	
		ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)	平成24年度開講せず
	学系共 通科目	ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)	集中講義
		物理学Ⅱ	1	2	必	1	半期(後)	
		化学Ⅱ	1	2	必	1	半期(後)	
		物理実験Ⅰ	1	1	必	1	半期(前)	
		物理実験Ⅱ	1	1	必	1	半期(後)	
		化学実験Ⅰ	1	1	必	1	半期(前)	
		化学実験Ⅱ	1	1	必	1	半期(後)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)	
		ベクトル解析	1	2	選	2	半期(前)	
		応用数学	1	2	選	2	半期(後)	
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
		数値解析学	1	2	選	2	半期(後)	
		複素解析学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	
		電磁気学Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
		電磁気学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	
		工学入門	1	2	選	1	半期(前)	平成24年度開講せず
		電磁気学基礎実験	2	2	選	2	半期(前)	平成24年度開講せず
		環境科学	1	2	必	1	半期(後)	
		インターンシップ	随時	2	選	34	通年	集中講義
		卒業研究A	1	2	必	4	通年	卒業研究Bとの択一必修
	卒業研究B	3	6	必	4	通年	卒業研究Aとの択一必修	
	環境物 質化学 基礎	物理化学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)	
		物理化学Ⅱ	1	2	必	2	半期(後)	
		有機化学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)	
		有機化学Ⅱ	1	2	必	2	半期(後)	
		生物化学	1	2	選	2	半期(前)	
		分析化学	1	2	選	2	半期(後)	平成24年度開講せず
		無機化学	1	2	選	3	半期(前)	
		電気化学	1	2	選	2	半期(後)	
		錯体化学	1	2	選	3	半期(後)	平成24年度開講せず
		計算機量子化学	1	2	選	3	半期(前)	
		量子科学	1	2	選	3	半期(前)	平成24年度開講せず
		機器分析	1	2	選	3	半期(前)	平成24年度配当期変更
		物性物理学	1	2	選	2	半期(前)	
		統計熱力学	1	2	選	3	半期(後)	平成24年度開講せず
		基礎化学演習	1	2	選	2	半期(前)	
		基礎物理学演習	1	2	選	2	半期(前)	
		物理化学演習	1	2	選	3	半期(前)	
有機化学演習		1	2	選	2	半期(前)		
環境 化学	環境と生物	1	2	選	2	半期(後)		
	環境分析学	1	2	選	2	半期(後)		
	環境情報学	1	2	選	3	半期(後)		
	環境適応物質学	1	2	選	34	半期(前)	3・4年同時開講	

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 環境物質化学科 授業科目配当表

環境物質工学科 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門 教育 科目	生物学	1	2	選	2	半期(前)	
	分子生物学	1	2	選	3	半期(前)	
	応用微生物学	1	2	選	3	半期(後)	
	生物物理学	1	2	選	3	半期(前)	
	生物有機化学	1	2	選	3	半期(後)	
	機能性有機合成化学	1	2	選	3	半期(前)	
	高分子材料工学	1	2	選	34	半期(後)	3・4年同時開講
	高分子物性学	1	2	選	34	半期(前)	3・4年同時開講
	高分子合成学	1	2	選	3	半期(後)	
	生体高分子工学	1	2	選	34	半期(後)	3・4年同時開講
	固体物性工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	平成24年度開講せず
	固体物性工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	
	化学センサー	1	2	選	34	半期(前)	3・4年同時開講
	光化学	1	2	選	34	半期(後)	平成24年度配当期変更、3・4年同時開講
	計算機物性学	1	2	選	2	半期(後)	平成24年度開講せず
	無機材料工学	1	2	選	34	半期(前)	3・4年同時開講
	薄膜工学	1	2	選	34	半期(前)	3・4年同時開講
	光機能性物質工学	1	2	選	3	半期(後)	
	センサー材料工学	1	2	選	34	半期(後)	平成24年度開講せず
	半導体材料工学	1	2	選	3	半期(後)	
	環境物質化学実験Ⅰ	1	2	必	2	通年	
	環境物質化学実験Ⅱ	1	2	必	2	通年	
	応用物性実験	1	1	必	3	通年	
	有機化学実験	1	1	必	3	通年	
	生物化学実験	1	1	必	3	通年	
	コンピュータワークショップ	1	1	自	1	通年	平成24年度開講せず
	ネットワークコンピュータワークショップ	1	1	自	1	通年	平成24年度開講せず
	アドバンスワークショップ	2	4	自	234	通年	平成24年度開講せず
	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
	情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
	情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
	マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
	線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	
	数式処理	1	2	自	2	半期(前)	集中講義
	初等解析学	1	2	自	2	半期(後)	平成24年度開講せず
	代数学入門	1	2	自	1	半期(後)	
	解析学	1	2	自	3	半期(前)	
	幾何学	1	2	自	3	半期(前)	
	代数学	1	2	自	2	半期(後)	
	微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)	
	応用解析学	1	2	自	3	半期(後)	平成24年度開講せず
教職 関 連 科 目 ②	地学	1	2	自	2	半期(前)	
	地球物理学	1	2	自	2	半期(前)	
	地学実験	2	2	自	4	半期(前)	集中講義
	計算機物性物理学演習	1	2	自	2	半期(後)	平成24年度開講せず
	UNIXプラクティス	1	2	自	3	半期(前)	平成24年度開講せず
	科学文献情報システム概論	1	2	自	1	半期(前)	平成24年度開講せず
	ネットワークプログラミング概論	1	2	自	3	半期(後)	平成24年度開講せず
	科学情報メディア表現学	1	2	自	1	半期(後)	
	微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	
	複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)	
数 学	確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)	
	確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 機械工学科 授業科目配当表

機械工学科2008 — 1

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目	学部共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ	
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う	
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		
		物理学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)		
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		
		ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)		
	ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)			
	学系共通科目	物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		
		物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)		
		物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)		
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		
		機械系入門	1	2	必	1	半期(前)	導入教育	
		工業力学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)		
		材料力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
		材料力学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		
		コンピュータプログラミングⅠ	1	2	選	2	半期(前)		
		材料工学	1	2	選	2	半期(前)		
		加工学基礎	1	2	必	2	半期(前)		
		電気工学	1	2	選	3	半期(前)		
		電子工学	1	2	選	3	半期(後)		
		微分方程式Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)		
		微分方程式Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		
		ベクトルおよびテンソル	1	2	選	2	半期(後)		
		応用数学	1	2	選	2	半期(後)		
		複素解析学Ⅰ	1	2	選	2	半期(後)		
		数値解析学	1	2	選	3	半期(後)		
		インターンシップ	随時	2	選	34	通年	集中講義	
		卒業研究	3	6	必	4	通年		
		学科共通科目	化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
			メカトロニクス概論	1	2	選	1	半期(後)	
			エンジンの科学	1	2	選	1	半期(前)	
			工業力学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
			工業熱力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)	
	流体の力学Ⅰおよび演習		1.5	3	必	2	半期(前)		
	振動学および演習		1.5	3	必	2	半期(前)		
	機械要素設計および演習		1.5	3	必	2	半期(後)		
	工業熱力学Ⅱ		1	2	選	2	半期(後)		
	流体の力学Ⅱ		1	2	選	3	半期(前)		
	応用振動学		1	2	選	2	半期(後)		
	コンピュータプログラミングⅡ		1	2	選	2	半期(後)		
	制御工学Ⅰ		1	2	選	3	半期(前)		
	複素解析学Ⅱ		1	2	選	3	半期(前)		
	確率・統計Ⅰ		1	2	選	3	半期(前)		
	確率・統計Ⅱ		1	2	選	3	半期(後)		
	化学実験Ⅰ		1	1	選	1	半期(前)		
	化学実験Ⅱ		1	1	選	1	半期(後)		

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 機械工学科 授業科目配当表

機械工学科2008 — 2

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門教育科目	学科共通科目	機械工学実験実習Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)	
		機械工学実験実習Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)	
		機械工学実験実習Ⅲ	2	2	必	3	半期(前)	
		機械工学実験実習Ⅳ	2	2	必	3	半期(後)	
		機械設計製図Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)	
		機械設計製図Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)	
		機械設計製図Ⅱ	2	2	必	3	半期(前)	平成21年度以降開講せず
		機械設計製図Ⅲ	2	2	必	3	半期(前)	
		機械工学輪講	1	2	必	3	半期(後)	
	材料と加工	弾塑性学	1	2	選	3	半期(前)	
		材料強度学	1	2	選	3	半期(後)	
		先端材料	1	2	選	4	半期(前)	
		機械加工学	1	2	選	3	半期(前)	
		加工の力学および演習	1.5	3	選	3	半期(後)	
		トライボロジー概論	1	2	選	3	半期(後)	
		応用物性学	1	2	選	4	半期(前)	平成24年度開講せず
		バイオメカニクス	1	2	選	4	半期(前)	
		数値固体力学	1	2	選	4	半期(後)	
	エネルギーと環境	粘性流体力学	1	2	選	3	半期(後)	
		流体機械	1	2	選	3	半期(後)	
		数値熱流体力学	1	2	選	4	半期(前)	
		伝熱工学	1	2	選	3	半期(前)	
		熱機関	1	2	選	3	半期(前)	
		エネルギー変換工学	1	2	選	4	半期(前)	
		計測工学	1	2	選	3	半期(前)	
		計算機援用設計	1	2	選	3	半期(前)	
		制御工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	
	情報と機械システム	ロボット工学	1	2	選	4	半期(前)	
		機械・構造物のダイナミクス	1	2	選	4	半期(前)	
		コンピュータワークショップ	1	1	自	1	通年	平成24年度開講せず
		アドバンストワークショップ	2	4	自	234	通年	平成24年度開講せず
		職業指導	1	4	自	3	通年	
		コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
教職関連科目	教職関連科目	線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)	集中講義
		初等解析学	1	2	自	2	半期(後)	平成24年度開講せず
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)	
		解析学	1	2	自	3	半期(前)	
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)	
		代数学	1	2	自	2	半期(後)	
		微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)	
		応用解析学	1	2	自	3	半期(後)	平成24年度開講せず

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 機械情報工学科 授業科目配当表

精密機械工学科2008 — 1

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目	学部共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ	
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う	
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		
		ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)		
		ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)		
	学系共通科目	物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		
		物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	平成24年度開講せず	
		物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	平成24年度開講せず	
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		
		機械系入門	1	2	必	1	半期(前)	導入教育	
		工業力学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)		
		材料力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
		材料力学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		
		コンピュータプログラミングⅠ	1	2	選	2	半期(前)		
		材料工学	1	2	必	2	半期(前)		
		加工学基礎	1	2	必	2	半期(前)		
		電気工学	1	2	選	2	半期(後)		
		電子工学	1	2	選	3	半期(前)		
		微分方程式Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)		
		微分方程式Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		
		ベクトルおよびテンソル	1	2	選	2	半期(後)		
		応用数学	1	2	選	2	半期(後)		
		複素解析学Ⅰ	1	2	選	2	半期(後)		
		数値解析学	1	2	選	3	半期(後)		
		インターンシップ	随時	2	選	34	通年	集中講義	
		卒業研究A	1	2	必	4	通年	卒業研究Bとの択一必修	
		卒業研究B	3	6	必	4	通年	卒業研究Aとの択一必修	
		基礎	工業力学Ⅰ 演習	1	1	選	1	半期(前)	
			工学基礎演習	2	1	選	1	半期(前)	平成24年度開講せず
			工業力学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
工業力学Ⅱ 演習	1		1	選	1	半期(後)			
機構学	1		2	選	2	半期(前)			
機械力学	1		2	選	2	半期(後)			
プレゼンテーション	1		2	選	3	半期(後)	平成24年度開講せず		
機械のしくみ	1		2	選	1	半期(前)			
実験実習・設計製図	機械情報基礎実験実習Ⅰ		2	2	必	2	半期(前)		
	機械情報基礎実験実習Ⅱ		2	2	必	2	半期(後)		
	機械情報実験実習Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)			
	機械情報実験実習Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)			
	機械情報基礎製図Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)			
	機械情報基礎製図Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)			
	機械情報設計製図Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)			
	機械情報設計製図Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)			
	機械設計学Ⅰ	1	2	必	3	半期(前)			
	機械設計学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)			
データベース活用設計	1	2	選	4	半期(前)				

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 機械情報工学科 授業科目配当表

精密機械工学科2008 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門 教育科目	計測・制御	精密測定法	1	2	必	2	半期(後)
		工業計測	1	2	選	3	半期(前)
		応用光学	1	2	選	2	半期(後)
		光学機器	1	2	選	3	半期(前)
		制御工学Ⅰ	1	2	必	3	半期(前)
		制御工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)
	材料・加工	機械材料学	1	2	選	2	半期(後)
		精密機械加工	1	2	選	3	半期(後)
		塑性加工法	1	2	選	3	半期(前)
		電気加工法	1	2	選	4	半期(前)
	機械情報	情報処理工学	1	2	必	2	半期(後)
		コンピュータプログラミングⅡ	1	2	選	2	半期(後)
		計算機援用設計	1	2	選	3	半期(前)
		人間工学	1	2	選	3	半期(後)
		メカトロニクス	1	2	選	4	半期(前)
		メカトロニクス概論	1	2	選	1	半期(後)
		集積回路工学	1	2	選	4	半期(前)
		ロボット工学	1	2	選	4	半期(前)
	熱・流体 専門関連	熱工学	1	2	選	3	半期(前)
		流体工学	1	2	選	3	半期(前)
	教職 関連科目	コンピュータワークショップ	1	1	自	1	通年 平成24年度開講せず
		アドバンスワークショップ	2	4	自	234	通年
		職業指導	1	4	自	3	通年
		コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)
		品質管理	1	2	選	34	半期(後)
		線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)
		数式処理	1	2	自	2	半期(前) 集中講義
		初等解析学	1	2	自	2	半期(後) 平成24年度開講せず
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)
		解析学	1	2	自	3	半期(前)
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)
		代数学	1	2	自	2	半期(後)
		微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)
		応用解析学	1	2	自	3	半期(後) 平成24年度開講せず
	数学	確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)
		確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)
		複素解析学Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)
	-	特許法	1	2	自	4	半期(後) 平成24年度開講せず

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 情報通信工学科 授業科目配当表

情報通信工学科2008 - 1

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門 教育 科目	学部 共通 科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)	
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)	
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	
		ワークショップⅠ	2	2	必	1	半期(前)	ものづくり基礎
		ワークショップⅡ	2	2	必	1	半期(後)	ものづくり応用
	学系 共通 科目	情報通信メディア基礎	1	2	必	1	半期(前)	
		電磁気学基礎および演習	1.5	3	必	1	半期(前)	メディアの基礎および演習との択一必修
		メディアの基礎および演習	1.5	3	必	1	半期(前)	電磁気学基礎および演習との択一必修
		電気回路基礎および演習	1.5	3	必	1	半期(後)	デザインの基礎および演習との択一必修
		デザインの基礎および演習	1.5	3	必	1	半期(後)	電気回路基礎および演習との択一必修
		電子回路基礎	1	2	必	2	半期(前)	情報機器の基礎との択一必修
		情報機器の基礎	1	2	必	2	半期(前)	電子回路基礎との択一必修
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	必	1	半期(後)	
		コンピュータ構成と機械語	1	2	選	2	半期(前)	平成24年度開講せず
		インターネットプログラミング	1	2	選	2	半期(前)	平成24年度配当期変更
		基礎情報数学A(離散数学)	1	2	必	1	半期(後)	
		基礎情報数学B(確率論と情報理論)	1	2	選	2	半期(前)	
		基礎情報数学C(代数と符号理論)	1	2	選	2	半期(後)	
		グループスタディⅠ	1	2	選	3	半期(前)	
		グループスタディⅡ	1	2	選	3	半期(後)	
		ビジネス論	1	2	選	3	半期(後)	
		インターンシップ	随時	2	選	34	通年	集中講義
		卒業研究A	1	2	必	4	通年	卒業研究Aとの択一必修
		卒業研究B	3	6	必	4	通年	卒業研究Bとの択一必修
	実験等	情報処理・通信技術基礎	1	2	自	2	半期(後)	
		情報処理・通信技術応用	1	2	自	3	半期(前)	平成24年度開講せず
		情報通信基礎実験	2	4	必	2	通年	
		情報通信工学実験	2	4	必	3	通年	
		情報通信プロジェクト	前2後1	3	必	4	通年	前期2コマ、後期1コマ
	基礎・共通	基礎通信数学A(複素数基礎)	1	2	選	1	半期(前)	
基礎通信数学B(微分方程式Ⅰ)		1	2	選	2	半期(前)		
信号理論		1	2	選	2	半期(後)		
通信法規		1	2	選	4	半期(後)		
情報 通信 ・ ネ ット ワ ー キ ン グ	回路網理論	1	2	選	2	半期(前)	平成24年度開講せず	
	信号システム解析	1	2	選	2	半期(前)		
	電子回路応用	1	2	選	2	半期(後)		
	デジタル回路	1	2	選	3	半期(後)		
	応用物理学	1	2	選	2	半期(後)		
	情報通信デバイス	1	2	選	3	半期(前)		
	電磁気学応用	1	2	選	2	半期(後)		
	高周波の基礎	1	2	選	3	半期(前)		
	デジタル信号処理	1	2	選	3	半期(後)		
	通信理論基礎	1	2	選	2	半期(後)		
	通信システム	1	2	選	3	半期(前)		
	通信ネットワーク	1	2	選	3	半期(後)		
	ワイヤレスシステム工学	1	2	選	4	半期(前)		
	光通信工学	1	2	選	4	半期(前)		
	計測制御工学	1	2	選	3	半期(前)		

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 情報通信工学科 授業科目配当表

情報通信工学科2008 — 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門 教育 科目	メディアと信号処理	1	2	選	3	半期(前)	
	画像処理工学	1	2	選	3	半期(後)	
	音声・音響情報工学	1	2	選	3	半期(後)	
	マルチメディア通信工学	1	2	選	4	半期(前)	
	ネットワークセキュリティと暗号	1	2	選	4	半期(後)	
	論理回路および論理設計	1	2	選	2	半期(前)	
	データ構造とアルゴリズム	1	2	必	2	半期(後)	
	コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	3	半期(前)	
	情報ネットワーク	1	2	選	3	半期(前)	平成24年度配当期変更
	基礎プログラミングおよび演習	1.5	3	選	2	半期(前)	
	オブジェクト指向プログラミングおよび演習	1.5	3	選	3	半期(前)	
	データベース	1	2	選	3	半期(後)	
	コンピュータグラフィックス	1	2	選	4	半期(前)	
	職業指導	1	4	自	3	通年	
	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
	情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
	情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
	マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
	線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	
	数式処理	1	2	自	2	半期(前)	集中講義
	初等解析学	1	2	自	2	半期(後)	平成24年度開講せず
	代数学入門	1	2	自	1	半期(後)	
	解析学	1	2	自	3	半期(前)	
	幾何学	1	2	自	3	半期(前)	
	代数学	1	2	自	2	半期(後)	
	微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)	
	応用解析学	1	2	自	3	半期(後)	平成24年度開講せず
	確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)	
	確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	
	複素解析学Ⅰ	1	2	自	3	半期(前)	
	複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)	
	微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 情報メディア学科 授業科目配当表

情報メディア学科2008 — 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門 教育科目	学部 共通 科目	微分積分学および演習Ⅰ	2 4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ
		微分積分学および演習Ⅱ	2 4	選	1	半期(後)	
		線形代数学Ⅰ	1 2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う
		線形代数学Ⅱ	1 2	選	1	半期(後)	
		物理学Ⅰ	1 2	選	1	半期(前)	
		化学Ⅰ	1 2	選	1	半期(前)	平成24年度開講せず
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2 4	必	1	半期(前)	対応科目：コンピュータプラクティス【UNIXプラクティス】、プログラミング入門
		ワークショップⅠ	2 2	必	1	半期(前)	対応科目：コンピュータリテラシ、Webページ制作
		ワークショップⅡ	2 2	必	1	半期(後)	対応科目：CG制作演習、メディア演習Ⅰ【音制作実習】
	学系 共通 科目	情報通信メディア基礎	1 2	必	1	半期(前)	対応科目：情報メディア概論
		電磁気学基礎および演習	1.5 3	必	1	半期(前)	メディアの基礎および演習との択一必修、平成24年度開講せず
		メディアの基礎および演習	1.5 3	必	1	半期(後)	電磁気学基礎および演習との択一必修、対応科目：メディア演習Ⅰ【CG・映像メディアの基礎】 平成24年度配当期変更
		電気回路基礎および演習	1.5 3	必	1	半期(後)	デザインの基礎および演習との択一必修 平成24年度開講せず
		デザインの基礎および演習	1.5 3	必	1	半期(後)	電気回路基礎および演習との択一必修、対応科目：メディア表現のためのデザイン演習
		電子回路基礎	1 2	必	2	半期(前)	情報機器の基礎との択一必修 平成24年度開講せず
		情報機器の基礎	1 2	必	2	半期(後)	電子回路基礎との択一必修、対応科目：ヒューマンインタラクションおよび演習【ヒューマンインタフェースの基礎】
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2 4	必	1	半期(後)	対応科目：プログラミング基礎
		コンピュータ構成と機械語	1 2	必	2	半期(前)	対応科目：プロセッサと機械語
		インターネットプログラミング	1 2	選	2	半期(後)	対応科目：ネットワークプログラミング
		基礎情報数学A(離散数学)	1 2	必	1	半期(後)	
		基礎情報数学B(確率論と情報理論)	1 2	選	2	半期(前)	対応科目：基礎情報数学B(確率論と情報理論)
		基礎情報数学C(代数と符号理論)	1 2	選	2	半期(後)	対応科目：セキュリティのための基礎数学(代数と暗号の数理)
		グループスタディⅠ	1 2	選	3	半期(前)	平成24年度開講せず
		グループスタディⅡ	1 2	選	3	半期(後)	平成24年度開講せず
		ビジネス論	1 2	選	3	半期(後)	
		インターンシップ	随時 2	選	34	通年	集中講義
		卒業研究A	1 2	必	4	通年	卒業研究Bとの択一必修
		卒業研究B	3 6	必	4	通年	卒業研究Aとの択一必修
	実験等	情報処理・メディア技術基礎	1 2	選	2	半期(前)	対応科目：情報技術基礎
		情報処理・メディア技術応用	1 2	選	2	半期(後)	対応科目：情報技術応用
		情報メディア基礎実験	前4後2 4	必	2	通年	前期4コマ/後期2コマ 対応科目：メディア演習Ⅰ【映像制作実習】、データ記述とXML、CGプログラミング(2次元CG)
		情報メディア実験	2 4	必	3	通年	対応科目：前期 サーバプログラミング演習、後期 Web検索システム演習、CGプログラミング(モデリング)の中から前期1科目と後期1科目を履修
		情報メディアプロジェクト	前2後1 3	必	4	通年	前期2コマ/後期1コマ 対応科目：(後期)メディアゼミ、情報ゼミのいずれか
	学系 共通	メディア制作の基礎(旧称：メディアとデザイン)	1 2	選	2	半期(後)	対応科目：コンピュータ音楽
		アルゴリズムの基礎	1 2	選	23	半期(後)	対応科目：情報科学の基礎
		オブジェクト指向プログラミングⅠ(旧称：データ構造とアルゴリズム)	1 2	必	2	半期(前)	対応科目：オブジェクト指向プログラミングおよび演習【オブジェクト指向プログラミング】
		オブジェクト指向プログラミングⅡ(旧称：データ構造とアルゴリズム応用)	1 2	選	2	半期(前)	対応科目：オブジェクト指向プログラミングおよび演習【クラスライブラリ基礎】
		オペレーティングシステム	1 2	選	2	半期(前)	
		データベース	1 2	選	2	半期(前)	

注意： 対応科目に複数の科目が記載されている場合、特に注記のない限り、記載された対応科目全てを受講する必要がある。

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 情報メディア学科 授業科目配当表

情報メディア学科2008 - 2

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門教育科目	デジタルメディア	コンピュータグラフィックスとアニメーション	1	2	選	2	半期(前)	対応科目:コンピュータグラフィックス(レンダリ ング)
		コンピュータグラフィックスとモデリング	1	2	選	2	半期(後)	対応科目:コンピュータグラフィックス(モデリ ング)
		CAD／CAM	1	2	選	3	半期(前)	対応科目:形状デザイン
		画像処理と画像編集	1	2	選	3	半期(前)	対応科目:画像処理
		メディア構成論	1	2	選	3	半期(後)	平成24年度開講せず
		音声・音響情報学	1	2	選	3	半期(後)	対応科目:音声・音響情報処理
		知識・言語情報学	1	2	選	4	半期(後)	
		画像情報学	1	2	選	3	半期(前)	対応科目:感性・情報イメージング、平成24年度 配当期変更
		音メディア表現学	1	2	選	4	半期(前)	対応科目:バーチャルリアリティ、メディアアート
	情報システム・人間科学	数理統計学	1	2	選	2	半期(後)	
		数理計画法	1	2	選	3	半期(前)	対応科目:人工知能とコンピュータ
		データベースプログラミング	1	2	選	3	半期(後)	対応科目:データベース演習、データベースプロ グラミング
		メディアコミュニケーション	1	2	選	3	半期(前)	
		オブジェクト指向分析・設計	1	2	選	4	半期(前)	対応科目:ソフトウェア分析・モデリング
		情報システム論	1	2	選	4	半期(後)	
		人間機械情報学	1	2	選	4	半期(前)	対応科目:人間情報システム
		ユーザインタフェースプログラミング	1	2	選	4	半期(前)	対応科目:ウィンドウズプログラミング、旧 ヒュー マンインタフェース
		金融工学序論	1	2	選	4	半期(後)	平成24年度開講せず
	コンピューティン グ基盤	論理回路および論理設計	1	2	選	2	半期(後)	対応科目:論理回路
		コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	2	半期(後)	
		デジタルシステム設計・実装論	1	2	選	3	半期(後)	対応科目:デジタルシステム設計
		形式言語とオートマトン	1	2	選	3	半期(後)	
		プログラミング言語論	1	2	選	3	半期(後)	
		コンパイラ	1	2	選	3	半期(前)	
		デジタル通信	1	2	選	2	半期(後)	平成24年度開講せず
		情報ネットワーク	1	2	選	3	半期(前)	
		コンピュータ基盤とセキュリティ	1	2	選	4	半期(前)	対応科目:情報セキュリティの基礎と暗号技術
	教職関連科目	職業指導	1	4	自	3	通年	
		線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)	集中講義
		初等解析学	1	2	自	2	半期(後)	平成24年度開講せず
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)	
		解析学	1	2	自	3	半期(前)	
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)	
		代数学	1	2	自	2	半期(後)	
		微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)	
応用解析学		1	2	自	3	半期(後)	平成24年度開講せず	
数 学		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
	応用数学	1	2	選	2	半期(前)	対応科目:メディア処理のための信号処理	
	複素解析学	1	2	自	3	半期(前)		

注意: 対応科目に複数の科目が記載されている場合、特に注記のない限り、記載された対応科目全てを受講する必要がある。

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 建築学科 授業科目配当表

建築学科2008 - 1

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	コース名
学部共通科目		微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ	
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う	
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		
		ワークショップⅠ	1	1	選	1	半期(前)		
		ワークショップⅡ	3	3	選	1	半期(後)	集中講義	
	学系共通科目		物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	
		物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	平成24年度開講せず	
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	必	1	半期(後)		
		絵画	1	1	選	2	半期(前)		
		応用数学	1	2	選	2	半期(後)		
		複素解析学	1	2	自	2	半期(前)		
		確率・統計Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)		
		インターンシップ	随時	2	選	34	通年	集中講義	
		卒業設計	4	4	必	4	半期(後)		
専門教育科目	専門基礎	卒業研究	前2後6	8	選	4	通年	前期2コマ/後期6コマ	
		建築マインド	1	2	必	1	半期(前)	平成24年度開講せず	
		建築CAD	1	2	選	2	半期(前)		
		建築力学Ⅰ	1	2	必	1	半期(後)		
		建築力学Ⅱ	1	2	必	2	半期(前)		
		鉄筋コンクリート構造	1	2	選	2	半期(前)		
		鉄骨構造	1	2	選	2	半期(後)		
		素材と構造デザイン	1	2	選	2	半期(後)		
		木造建築	1	2	選	3	半期(後)		
		住宅設計基礎	1	2	必	1	半期(後)		
		設計計画基礎	1	2	選	2	半期(前)		
		都市計画基礎	1	2	必	2	半期(後)		
		建築史基礎	1	2	必	2	半期(後)		
		日本建築史	1	2	選	2	半期(後)		
		西洋建築史	1	2	選	3	半期(前)		
		建築環境工学基礎	1	2	必	2	半期(前)		
		建築設備基礎	1	2	選	2	半期(前)		
		建築都市法規	1	2	選	3	半期(後)		
建築構法	1	2	選	2	半期(後)				
設計・演習等		設計基礎	2	3	必	1	半期(前)		
		建築設計Ⅰ	2	2	必	1	半期(後)		
		建築設計Ⅱ	4	4	必	2	半期(前)		
		建築設計Ⅲ	4	4	必	2	半期(後)		
		建築パフォーマンスⅠ	4	4	必	3	半期(前)		
		建築パフォーマンスⅡ	6	6	必	3	半期(後)		
		建築パフォーマンスⅢ	6	6	選	4	半期(前)		
		建築見学演習	1	1	選	234	通年	平成24年度開講せず	
専門共通		建築材料	1	2	選	3	半期(前)		
		建築施工	1	2	選	3	半期(前)		
		測量実習	2	2	選	3	半期(前)		
		材料実験	2	2	選	3	半期(前)		
		保存と再生	1	2	選	3	半期(前)		

2008（平成20）年度カリキュラム
工学部第一部 建築学科 授業科目配当表

建築学科2008 - 2

区分		科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	コース名
専門 教育科目	構造・生産	弾塑性力学	1	2	選	3	半期(前)	コース名は該当コースの推薦科目	構造・生産
		工法生産	1	2	選	3	半期(後)	コース名は該当コースの推薦科目	構造・生産
		耐震工学	1	2	選	4	半期(前)	コース名は該当コースの推薦科目 平成24年度開講せず	構造・生産
	情報デザイン	アルゴリズムックデザイン	1	2	選	3	半期(前)	コース名は該当コースの推薦科目	情報デザイン
		応力の可視化	1	2	選	3	半期(後)	コース名は該当コースの推薦科目	情報デザイン
		コンピュータデザイン	1	2	選	4	半期(前)	コース名は該当コースの推薦科目 平成24年度開講せず	情報デザイン
	都市・企画	地区デザイン	1	2	選	3	半期(後)	コース名は該当コースの推薦科目	都市・企画
		都市計画論	1	2	選	3	半期(前)	コース名は該当コースの推薦科目 平成24年度開講せず	都市・企画
		まちづくり論	1	2	選	4	半期(前)	コース名は該当コースの推薦科目	都市・企画
	設計・計画	建築デザイン論	1	2	選	3	半期(前)	コース名は該当コースの推薦科目	設計・計画
		建築計画	1	2	選	3	半期(後)	コース名は該当コースの推薦科目	設計・計画
		地域施設計画	1	2	選	4	半期(前)	コース名は該当コースの推薦科目	設計・計画
	環境・設備	音環境・騒音制御工学	1	2	選	3	半期(前)	コース名は該当コースの推薦科目	環境・設備
		熱環境・空調工学	1	2	選	4	半期(前)	コース名は該当コースの推薦科目	環境・設備
		光環境・電気設備	1	2	選	3	半期(後)	コース名は該当コースの推薦科目	環境・設備
	その他	コンピュータワークショップ	1	1	自	1	通年	平成24年度開講せず	
		アドバンストワークショップ	2	4	自	234	通年	平成24年度開講せず	
		職業指導	1	4	自	3	通年		
	教職 関連 科目	線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)		
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)	集中講義	
		初等解析学	1	2	自	2	半期(後)	平成24年度開講せず	
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)		
		解析学	1	2	自	3	半期(前)		
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)		
		代数学	1	2	自	2	半期(後)		
		微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)		
		応用解析学	1	2	自	3	半期(後)	平成24年度開講せず	
		数学	微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
	確率・統計Ⅱ		1	2	自	2	半期(後)		

工学部第一部 全学科教職課程 授業科目配当表

区分	免許法上の区分	科目名	必選自	単位	配当年	配当期1	コマ	備考	教職コード
教職に関する科目	第二欄	教職概論	自	2	1	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	320
	第三欄	教育原理	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目	330
		教育心理学	自	2	1	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	331
		教育社会学	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	332
		教育方法・課程論(特別活動を含む)	自	2	3	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	341
	第四欄上	工業科教育法	自	4	3	通年	1	工業免許状必修科目	342
		数学科教育法	自	4	2	通年	1	数学免許状必修科目(前期授業+夏期集中)	343
		理科教育法	自	4	2	通年	1	理科免許状必修科目・S科のみ	344
		情報科教育法	自	4	3	通年	1	情報免許状必修科目(夏期集中+後期授業)	345
		数学科教育論Ⅰ	自	2	3	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目	346
		数学科教育論Ⅱ	自	2	3	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目(夏期集中)	347
		理科教育論Ⅰ	自	2	3	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・S科のみ	348
		理科教育論Ⅱ	自	2	3	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目・S科のみ	349
		道德教育の研究	自	2	3	半期(前)	1	中学校免許必修科目・集中講義	350
	第四欄下	教育相談	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	351
		生徒・進路指導論	自	2	2	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	352
	第五欄	総合演習	選	2	3	通年	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	360
	第六欄	教育実習セミナー	自	2	4	通年	0.5	中学・高校免許必修科目	361
		教育実習Ⅰ	自	2	4	通年	1	中学・高校免許必修科目	362
		教育実習Ⅱ	自	2	4	通年	1	中学校免許必修科目	363
教科又は教職に関する科目		介護福祉論	選	2	2	半期(前/後)	1	中学校免許必修科目。中学校免許状修得時には必修である。	
		介護等体験特論	自	2	3	通年	0.5	中学校免許必修科目。中学校免許状修得時には必修である。	
教科に関する科目		職業指導	自	4	3	通年	1	工業免許状必修科目	160工業
		情報と職業	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状必修科目	135情⑥
		情報化社会とコミュニケーション	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状科目	130情①
		情報化社会と知的財産権	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状必修科目	130情①
		情報倫理	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状科目	130情①

付記:

- 1.「介護福祉論」「介護等体験特論」および介護等体験は中学校免許状修得時には必修である。
- 2.上記科目を履修するには、教職課程履修手続きが必要である。

履 修 案 内

(2008年度 カリキュラム)

1	授業科目	57
2	授業	59
3	履修計画・履修届	60
4	試験	63
5	成績	66
6	再履修	67
7	卒業までの学修	68
8	卒業	68
9	進級と留年	72
10	前期末卒業	72
11	その他	74

※ホームページでも、学生要覧の内容は公開してます。

尚、年度途中で掲載内容に変更がでた場合は、掲示でお知らせします。

URLは次のとおりです。

<http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/yoran2012/>

※学生による授業評価調査表の実施結果を公開しています。

URLは次のとおりです。

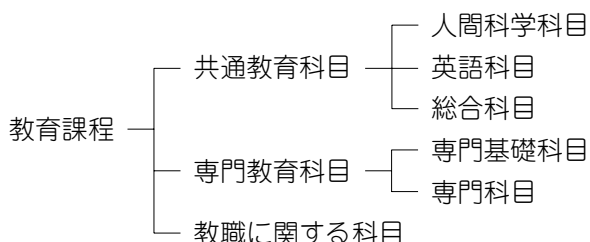
<http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/hyouka/>

1 授 業 科 目

工学部第一部で本年度に開講される授業科目は、授業科目配当表のとおりです。授業科目配当表には①**教育課程**（授業科目）、②**単位数**、③**必修、選択、自由科目の別**、④**配当学年**、⑤**配当期（前期、後期、通年等）**、⑥**毎週授業時限数（コマ）等**、が記載されています。科目の担当教員については、時間割で確認してください。

① 教育課程

本学部では教育課程を、次のように構成しています。



② 単位数

大学では、各授業科目に、授業科目の形態に応じて単位数が定められています。単位とは授業科目の学修量を数値化したものです。

授業科目の1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

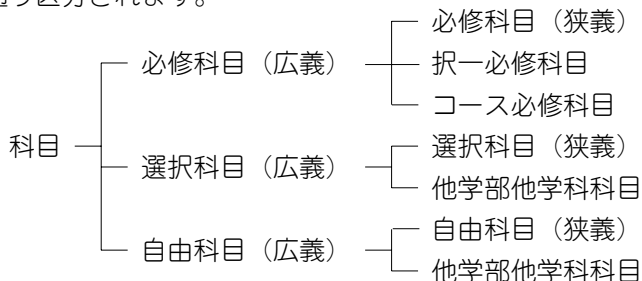
各授業科目の単位は、その授業方法・授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により計算します。

1単位は45時間の学修を標準としていますので、授業以外の時間は、自ら授業時間外の学修として行うことになります。

- ① 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位としています。
- ② 実験・実習・製図及び実技については、30時間の授業をもって1単位としています。
- ③ 卒業研究等については、学習の成果を考慮して単位数を定めています。

③ 必修・選択・自由科目

次の通り区分されます。



※ 他学部他学科科目については、「3－3 特別履修登録」の「他学部他学科科目履修願」を参照してください。

必修科目 所属学科においてその単位修得が義務づけられている授業科目です。卒業するためには必ずその単位を修得しなければなりません。

択一必修科目 数科目からなる科目グループのうちから1科目だけを必ず選択し、選択したものが必修となる科目です。

コース必修科目 そのコースを選んだ場合、必修となる科目です（学科によってコースを設ける学科と設けない学科があります。学科がガイダンスを行います。）

選択科目 自分の志望により選択履修する科目です。単位修得は義務づけられませんが、卒業の所要単位数に算入されます。

自由科目 修得すれば単位は修得できますが、卒業の所要単位数には算入されない科目です。

④ 配当学年

工学部第一部の授業科目は、体系的に関連づけられ開講される学年があらかじめ定められています。したがって、学生は自分の学年に配当された授業科目（再履修の場合は、自分の学年より下級学年に配当された授業科目）を履修することになっています。また、上級学年に配当された授業科目は特別の場合を除いて履修できません（学年配当の原則）。下級学年次に新設された科目も履修できません。

⑤ 配当期

通年科目 1年間30週にわたって授業がおこなわれる科目です。

前期科目 前期半年間15週にわたって授業がおこなわれる科目です。

後期科目 後期半年間15週にわたって授業がおこなわれる科目です。

集中講義科目 夏季・冬季など休業中などの一定期間に、連続集中して授業がおこなわれる科目です。集中講義科目の時間割は講義開始の数週間前に掲示で発表されます。

⑥ 毎週授業時限数（コマ）

授業時間割上の時限（コマ）のことです。1とあれば1週間に1時限（1コマ＝90分）開講していることを意味します。

担当教員 担当教員には常勤教員と非常勤教員がいます。非常勤教員は、原則として、担当科目の授業日には大学にいる事になっています。授業担当教員に用事がある場合は、直接授業教室へ行くか、講師室（2号館3階）まできてください。また、シラバスに連絡先が記載されている場合があります。

なお、学期末に実施する「期間を定めて実施する定期試験期間」中に大学へ出向することができない担当者もいます。特に非常勤教員への問合せは、授業が終了するまでに行うようにして下さい。

2 授 業

授業などの年間スケジュールについては「2012（平成24）年度授業・行事日程」を参照してください。2012（平成24）年度7月16日は「海の日」で（休日）ですが、月曜日の授業を実施します。なお翌7月17日を「海の日」の振替休講日とします。

また、授業は授業時間割に従って受講し、受講に際しては、話声などで他の人に迷惑をかけないようにしてください。

授業時間割には、曜日・時限（コマ）・授業科目名・担当教員名・教室等が明示されています。また、各変更のお知らせは、すべて掲示（本文中の「掲示」の記載は、原則UNIPAでの通知連絡をさします。）又は、補助的に掲示コーナー、ホームページにより行われます。大学への登校時には、毎日必ず、掲示を確認してください。

時限と時間

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9 : 00 }	10 : 40 }	13 : 10 }	14 : 50 }	16 : 30 }	18 : 10 }	19 : 50 }
	10 : 30	12 : 10	14 : 40	16 : 20	18 : 00	19 : 40	21 : 20

※昼間学部の正課授業は1時限から5時限に実施されます。6、7時限に授業や補習がある場合はその都度指示があります。

クラス編成 授業は原則として各学年・学系・学科（クラス）を単位としておこなわれ、学生は指定された曜日・時限・教室で授業を受けることになります。英語科目・演習科目などはクラスを分割して授業をおこないます。また、人間科学科目などの科目はクラスを合併して授業をおこなうため授業開始前に、自分の受講したい科目名や担当教員名を確認して、間違いのないように履修してください。

休 講 担当教員の都合その他により授業が中止になる場合は、その都度、学生ポータルサイトにより知らせます。授業時間を開始して30分程度経過しても担当教員が入室しないときは、工学部・未来科学部事務局へ問い合わせてください。

交通ストライキ等の場合の授業の取扱い

次のとおりになります。

（千住キャンパス）

原則として、当日朝6時のNHKテレビニュースで、首都圏JR各線がストライキまたは事故により不通と報道されたときは、当日の授業は休講となります。

その他の私鉄のみがストライキまたは事故で不通のときは、平常通り授業を行います。

補 講 休講の補充や学期内に授業が終了しなかったときなどに臨時に授業をおこなう場合は、**掲示**により知らせます。

授業時間割変更 曜日・時限などに変更がある場合は、掲示によりその都度知らせます。

実験・実習・英語等のガイダンス 実験・実習・実技・英語等の授業については、授業開始第一週にガイダンスがおこなわれます。日程等は掲示によりその都度知らせます。ガイダンスに出席しないと、以後の履修に支障をきたすことになりますので必ず出席してください。

授業への出席 履修する授業科目の授業には毎回出席することが必要です。出欠状況は成績評価の重要な要素になります。

もし授業に欠席し理由を担当教員に知らせる必要があるときは、各人が**欠席届（用紙は工学部・未来科学部事務部窓口）**を担当教員に提出してください。**1週間以上欠席する場合には、診断書等の理由書**が必要となります。

正当な理由がなく、無届けで、引き続き3カ月以上欠席した者は除籍対象者となります。また、授業への出席状態が悪く、履修を途中で放棄したと担当教員が判断したときは、成績が「一」(放棄)となります。

出欠調査 授業の出欠調査には**学生証**が必要です。

3 履修計画・履修届

3-1 履修計画

1年間にどの授業科目をどのように履修するか計画（履修計画）は、次の点を充分考慮して立ててください。

- ① 自らの単位修得状況を確認し、卒業までの履修計画を立てる。
- ② 「履修モデル」・「授業科目配当表」・「講義要目（シラバス）」を熟読し、学期始めにガイダンスのある科目については**必ずガイダンスを受けて**授業科目の配当と概要をつかむ。
- ③ **必修科目は必ず履修登録する。（自動的には履修登録されないの、自分で履修する）**
- ④ 選択科目については、「履修モデル」・「講義要目（シラバス）」を参考にして各自の志望と興味に応じて履修登録する。特に高学年次へ進むにつれて次第に自分の専攻したい分野を定めて、それに関連のある科目を選択する。
- ⑤ 上級学年次に進んでから単位不足に気づき、卒業年次になってから、あわてて多くの科目を履修することのないように「区分別卒業所要単位数」を十分に念頭におきながら、ある程度の余裕を見込んで履修科目数・単位数をきめる。（詳しくは「8卒業」を参照すること）

なお、3年次生から4年次生へ進級するときに進級制度が設けられています。進級条件をしっかりと把握し、単位数が不足することがないようにしてください。（詳しくは「9-1進級条件」を参照すること）

- ⑥ コース制のある学科では、選択したコースの履修計画に添って履修登録するこ

と。(詳細は各学科のガイダンスで説明をうけること)。

⑦ 学生による授業評価調査表の実施結果公開について

授業をより良くするために実施している「**授業評価調査表**」の実施結果を学内ネットワーク上で公開しています。履修登録の際に参考としてください。

閲覧方法は、下記のURLへアクセスし、「学生による授業評価調査表実施結果」を選んでください。

<http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/>

⑧ **1年間に履修できる単位数に上限(26単位/半期)があります。**また、優秀な成績で各学期を終了した学生は、履修制限の上限を超えて履修できる制度があります。

3-2 履修登録

期間や方法などの詳細は掲示にて連絡します。必ず期間内に自分で履修登録をするようにしてください。

履修登録は、前期に前期科目・通年科目・集中講義科目などを、後期に後期科目・集中講義科目などを、それぞれ登録します。詳細は学生ポータルサイト又は、掲示にて連絡します。

重複受講の禁止 履修する科目が授業時間割上重複するときは、そのうちの1科目しか履修できません。履修登録のときには**必修科目も自分で登録するようになっています**。その際、重複が発生した場合はどちらか1つの科目しか登録をすることができません。詳しくは「3-3 特別履修」の「重複履修許可願」を参照してください。

変更の禁止 履修が確定した授業科目の履修変更は認められません。

無届科目 履修登録されていない科目の受講・受験は許されません。単位の認定もおこなわれません。また、定期試験の受験資格も与えられません。

履修放棄 履修登録した授業科目の授業を欠席するなど途中で放棄したり、定期試験を受験しないときは、成績評価は放棄「一」となります。

3-3 特別履修

(1) UNIPAによる登録

他学部他学科科目履修

自分の所属する学科に配当されている科目以外の科目を一定の要件を満たすことにより、履修することができます**(他学部他学科科目履修)**。

ただし、工学部第二部では下記のとおり履修条件が変更となります。

【工学部第二部】

平成24(2012)年度以降に他学部他学科科目履修できる学科・学年

対象の学科	学年
電気電子工学科・機械工学科・ 情報通信工学科	1～4年次配当科目

旧：電気工学科・電子工学科の科目は履修できません。

なお、単位取得した科目については

①必修科目・選択科目は、当該学生の所属するそれぞれの区分の選択科目として扱います。

②自由科目は、自由科目として扱います。

また、卒業所要単位として算入できる単位は、他の大学等における授業科目の履修等（学則）と合わせて60単位を超えることはできません。

他学部他学科履修には次の2種類があります。

①同じ学系の他学科に配当されている他学科の科目を履修する**同一学系内他学科科目履修**

②他学部や同じ学系以外の他学科に配当されている科目を履修する**他学部他学系科目履修**

他学部他学科科目の履修を希望するときは、履修登録期間に学生ポータルサイトから履修申請を行います。（用紙による提出は行いません）申請した科目の履修許可・不許可については、後日学生ポータルサイト上で発表します。

同一学系内他学科科目履修

自己の学年以下に配当されている科目についてのみ、原則として条件無しに履修できます。なお、同じ内容の科目が複数存在するときは、そのうち1科目のみ履修可能とします。また、その科目が必修科目の場合は、自分の所属する学科に配当されている科目を履修することになります。

他学部他学系科目履修

自分の所属する学科に類似する科目の配当がなく、工学部第一部の他の学科及び他学部配当されている科目のうち、自己の学年以下に配当されている科目について、受講希望の科目の履修者数に余裕がある場合、事前に担当教員の承認印を得ることにより履修することができます。

教職課程履修

教職課程を履修したいときは、教職課程履修願を工学部・未来科学部事務部へ提出してください。（詳しいことは別冊「教職課程」又は「資格・免許」の項を参照してください。ただし1年次前期は履修できません。）

（2）用紙による申請

重複履修許可願

履修を希望する科目が、授業時間割上、同曜日の同時限に2科目以上重複している場合、その一方のみ、履修が許可されます（重複受講の禁止）。しかし、例外として重複履修が認められる場合があり、あらかじめ周知されます。授業時間割上重複した科目の履修を希望する学生は、工学部・未来科学部事務部の窓口にある「重複履修許可願」に所定の事項を記入の上、工学部・未来科学部事務部へ提出してください。

東京理工系大学による学術と教育の交流に関する協定に基づく、学生交流(単位互換)のための履修願

東京理工系大学とは、東京電機大学、芝浦工業大学、東京都市大学および工学院大

学を指します。この四大学間で、平成11年4月より、学生交流（単位互換）の履修制度が実施されています。履修できる科目、履修方法、単位の認定、各判定時の科目の扱い等についての詳細は、掲示でお知らせします。

転学部・編入学・転学科・再入学者等の特別履修願

単位認定の関係上等の理由により、他の学部、学科、上級年次科目履修など、通常外の履修を希望する時は、転学部・編入学・転学科・再入学者等の特別履修願を提出することができます。転学部・編入学・転学科・再入学者等の特別履修願用紙に所定の事項を記入し、事前に**担当教員の承認印**を得た上で、工学部・未来科学部事務部へ提出して下さい。提出締切り後、工学部・未来科学部事務部で一括して学科長の承認を受けます。許可・不許可については後日掲示により知らせます。

前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願

卒業延期者が前期末卒業を希望する場合、通年科目を前年度授業に出席し、試験を受け不合格であれば、必修科目・選択科目を問わずこの願を提出し、受理されることにより前期末に評価してもらえることになります。工学部・未来科学部事務部で用紙を受け取り、必要事項を明記し、**事前に担当教員の承認印を得た上で**、工学部・未来科学部事務部へ提出して下さい。提出締切り後、工学部・未来科学部事務部で一括して学科長の承認を受けます。なお詳細は「10. 前期末卒業」の欄を参照して下さい。

3－4 履修制限

4年間を通し計画的に履修し、内容を充分理解することを目的とし、履修制限が設定されています。履修する際は、この履修制限を超えて履修登録をすることはできませんので、十分注意し、しっかり履修計画を立てるようにしてください。

- ・履修登録時に履修できる単位数は**半期に26単位**までとなります。ただし、**自由科目、集中講義科目は履修制限には含みません**。
- ・優秀な成績で各学期を終了した学生には、上限を超えて履修ができる制度があります（詳細は掲示にて案内します）。

4 試 験

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するための資料として試験がおこなわれます。**試験**は、**筆記**のほかに、科目によっては**レポート**や**平常点**の評価などの方法でおこなわれることもあります。

4－1 定期試験

前期末、後期末に期間を定めて実施する試験を**定期試験**といいます。

受験資格

次の4つの条件をすべて満たしていなければなりません。但し、休学期間中は試験を受けることはできません。

1. その授業科目の履修登録を完了していること。
2. その授業科目の授業に常時出席していたこと。
3. その学期までの学費を納入していること。
4. 通年科目で、前・後期の2回定期試験がおこなわれる科目について後期定期試験を受験するには、前期定期試験を受験していること。

時間割

定期試験時間割・試験室・試験のためのクラス分割などについては、学生ポータルサイトで発表します。**授業時間とは異なりますので注意してください。**

[定期試験期間の時限と時間]

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9 : 30 }	11 : 10 }	13 : 30 }	15 : 10 }	16 : 45 }	18 : 20 }	19 : 55 }
	10 : 50	12 : 30	14 : 50	16 : 30	18 : 05	19 : 40	21 : 15

昼間学部の定期試験は、原則、1時限から4時限に実施されます。

なお、授業時間中に定期試験を行う科目があります。

定期試験受験上の心得

試験時間割の確認 試験日・試験時間・試験室・座席番号などを学生ポータルサイトで確認して下さい。（試験科目の試験日時が重複する場合は、工学部・未来科学部事務部へ申し出て「重複受験」の手続きを行ってください。）

学生証の呈示 試験室では、**必ず学生証を常に机の上、通路側の見やすい場所に呈示してください。**万一日当日携帯していないときは、自動証明書発行機より証明書〔仮受験票〕を出力して下さい。（**仮受験票の発行を受ける場合は有料（1,000円）となります。**）

遅刻・退出 定期試験時の遅刻については、定期試験期間前に案内する掲示を確認してください。

定期試験時の退出については、試験時間開始40分後から試験終了10分前まで可能です。

学籍番号・氏名の記入 答案用紙に学年・学科・学籍番号・氏名を必ず記入してください。記入のない答案は無効となります。

試験監督者の指示 試験時間中は、試験監督者が一切の権限を有します。試験監督者の指示に従わない者、または私語など受験態度不良の者には退室を命じることがあります。また、試験時間中、筆記用具・消ゴムなどの貸借は試験監督者の許可がなければできません。

不正行為 工学部では、カンニングなど不正行為をした場合、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、**当該試験の属する定期試験の全科目が無効**となります。

「当該試験の属する」の範囲には、定期試験実施要領発表後に実施される**授業中実施及びレポート科目も含まれます。**

受験棄権 試験時間途中で受験を中止する場合でも、答案用紙に学年・学科・学籍番号・氏名を記入して提出してください。(受験した科目の答案用紙は、持ち帰る事はできません)

4-2 追試験

定期試験を急病など真に止むを得ない理由で欠席した場合は、追試験がおこなわれることがあります。追試験を実施するかどうかは担当教員に任されていて、追試験願を提出しても追試験が実施されるとは限りません。できる限り定期試験の指定された日の試験を受けてください。

追試験を希望する場合は所定の手続きが必要になります。

不正行為 工学部ではカンニングなど不正行為をした場合、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、**当該試験の属する追試験及び定期試験の全科目が無効**となります。

「当該試験の属する」の範囲には、定期試験実施要領発表後に実施される授業中実施及びレポート科目も含まれます。

追試験願を提出できる理由

次の4つの場合のみ、証明書類を添付して追試験願を提出することができます。

- (1) 本人の病気のため受験が全く不可能な場合。(医師の診断書)
- (2) 2親等以内の親族の危篤・死亡の場合。(証明する書類)
- (3) 交通機関停止等により登校が不可能な場合。(遅延証明書)
- (4) その他、本人の責任でない真に止むを得ない事情がある場合。(理由書)

(試験時間割の見間違い、寝坊などは止むを得ない理由とは認められません。)

ただし、**就職試験のため定期試験を受けられなかった4年次生は、学科長に相談してください。**

手続き 定期試験の受験資格(前記)を満たしており、上記追試験願を提出できる理由に該当する者は、定期試験期間終了日の翌日から数えて3日以内(休日を除く)に、上記書面を添えた試験欠席届(追試験願)を工学部・未来科学部事務部へ提出してください。追試験の受付スケジュール・追試験の実施の有無、実施方法等は後日、掲示でお知らせします。

申請した科目の追試験が実施されることになった場合は、**受験手続き(受験1科目につき500円必要)**を行います。

4-3 中間試験

学期の途中で担当教員が随時おこなう試験です。

不正行為 工学部ではカンニングなど不正行為をした場合、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、**当該試験が無効**となります。

4-4 提出物の期限

工学部・未来科学部事務部や担当教員から学生に提出物（履修届・レポート・製図、その他）を求めるときは、必ず「期限（締切日と締切時間）」が定められます。**期限を過ぎた提出物は一切受けません。**必ず、締切日・締切時間を確認し、決められた期限までに提出してください。締切時間は特別に指示がない限り事務部窓口取扱い時間と同じです。

実験レポートは実験室が管理していますので、それらに関する問い合わせ等は直接実験室に行ってください。

5 成 績

担当教員が採点し、60点以上の評点を得たとき合格となり、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを大学側から見て「単位認定」、学生側から見て「単位修得（取得）」といいます。

単位認定は、原則としてその授業科目の履修が終わる配当期の終了時点に行われます。一旦単位を修得（取得）した授業科目は、履修の終了が認定されたことになるので、再度の履修をすることはできません。

評点と評価

評点は、下記の評価におきかえられ成績通知書・成績証明書などに表されます。
なお、評点の通知は行ないません。

評 価		評点・摘要
成績証明書用	成績通知書用	
S A B C	S A B C	90～100点 80～ 89点 70～ 79点 60～ 69点
		合格（単位修得）
	D — ※ R	0 ～ 59点 放棄 履修中 認定
		不合格（単位未修得） （下記の注を参照） （現在履修中の意味） （他大学・短期大学等の単位を認定した場合）

（注）履修登録をした授業科目を受験しなかった場合、通常の授業への出席状態が悪く担当教員が履修を途中で放棄したと判断した場合は、「—」放棄となる。

成績の通知

前年度末までの成績の通知は3月に、前期末までの成績通知は後期開始後9月に、それぞれ**学生アドバイザーの教員または各学科長**から成績通知書の直接交付によって行われます。配付期間はあらかじめ掲示等で知らせます。

なお、学期の途中で担当教員から採点報告があっても、個々の発表は行いません。

成績順位

平成19年度より、総合的成績評価については、全学的にGPA（Grade Point Average）を基本とします。

$$GPA = (\text{単位加重GPの総和}) / (\text{履修登録単位の総和})$$

- ※ 単位加重GPの総和＝（S評価の単位数）× 4 ＋（A評価の単位数）× 3 ＋（B評価の単位数）× 2 ＋（C評価の単位数）× 1
- ※ 単位加重GP（Grade Point）とは、取得した各科目の評価（S・A・B・C・D）に下記の各科目の評価を指数化するグレートポイントを掛けた数値です。

ポイント	評 価	評点（100点法）
4	S	90～100
3	A	80～89
2	B	70～79
1	C	60～69
0	D	0～59
	—	放 棄

- ※ 総和には自由科目を含まない。
- ※ 履修登録単位の総和に、履修中の単位は含まれない。
- ※ 履修登録単位の総和は、学生に配布した成績通知書に記載の科目を対象とし、同じ科目の単位修得するまでにかかった再履修分の履修単位数は含まれない。
- ※ GPAの値は小数点第4位を四捨五入した値となります。
- ※ 用 途
 - ・ 学部内における判定時の参考資料

6 再 履 修

履修した授業科目の単位を修得できなかったときは、その科目の履修をもう一度はじめからやり直す（再履修）ことになります。

その際、次の点に留意してください。

- ① 必修科目（択一必修科目、コース必修科目を含む）の単位を修得できなかったときは、必ず再履修する。
- ② 選択科目の単位を修得できなかったときに再履修するかどうかは、各自の意志にまかされますが、卒業に必要な単位数は確保するよう再履修科目を決めてください。
- ③ 再履修科目の配当条件に変更があったときは、「再履修方法および留年者の科目対応表」（別掲）を参照し、単位未修得科目に対応する授業科目を誤りなく再履修してください。

- ④ 再履修する授業科目の単位数が変更になった場合でも、再履修の結果合格したときは、もとの単位数が与えられます。(留年して再履修した場合は新しい単位数となります)
- ⑤ 再履修科目の担当教員が前年度と変更になった場合は、当該年度担当教員のもので再履修してください。
- ⑥ 再履修科目と自分の学年次配当科目とが授業時間割上重複した場合、両科目を履修することはできません(重複受講の禁止)。(3-3 履修届を参照)
- ⑦ 再履修科目の履修届・試験などについては、通常の履修科目の場合と同じです。

7 卒業までの学修

大学は単位制が建前ですが、特に理工学系の大学では、学問の性質上、基礎から応用へ積み重ねて履修していくことが必要です。そこで本学部では、授業科目を順序だてて履修できるように各学年次に科目を配当し、各学年次生がその中から履修できるようになっています。

自己の進路と学習の進め方については、学科で実施される履修のガイダンスに必ず出席し、その内容を十分理解して学習に励み、まちがいなく所期の目的を達成するようにしてください。また、**高等学校までと異なり、自己責任と自己管理が一層重要になってきていることを自覚してください。**

以下の条件を満たした場合、上級学年次へ進学する事となります。

- ① 必要な学費及びその他の費用を納入している事。
- ② 現学年次に前学期・後学期を通して1年以上在籍していること。ただし、休学期間中は在学年数に算入しない。
- ③ 上級学年次に進級するための条件がある場合は、その条件を満たしていること(詳しくは、「9-1 進級条件」を参照して下さい)。
- ※ 3月の判定時に休学中の者のうち4月に復学する者も、①、②、③を、満たしていれば上級学年次へ進級する事になります。

8 卒 業

休学期間を除き4年次に合算して12ヶ月以上在籍している者で、年度末判定時に休学していない4年次生を対象に卒業判定が行われます。

本学部を卒業するためには、次のすべての条件をみたすことが必要です。

卒業条件

- ① 卒業するために必要な単位数(卒業所要単位数。次表)を修得していること。
- ② 自分の所属する学科に配当されている必修科目(コース必修科目がある学科はコース必修も含む)の単位の全部を修得していること。
- ③ 合計4年以上(8年以内)在学していること。
- ④ 卒業までに必要な学費及びその他の費用の全額を納入していること。

- ⑤ 卒業判定時に休学していないこと。

8－1 区分別卒業所要単位数

	区 分	単位数
共通教育科目	人 間 科 学 科 目	18
	英 語 科 目	8
専門教育科目	学 部 共 通 科 目	88
	学 系 共 通 科 目	
	学 科 科 目	
任意に選択した科目		10
合 計		124

※特色ある教育を推進するために、卒業所要単位の中に学生の個性に合わせて選択できる科目が設けられております。

これが、左の表中の「任意に選択し、履修した科目」で、修得した場合は、卒業所要単位に10単位まで算入できます。

この「任意に選択し、履修した科目」とは次の科目をいいます。

人間科学科目から18単位、英語科目から8単位、学部共通科目・学系共通科目・学科科目から88単位を超えて修得した単位。

また、他学部他学科科目を履修し、単位修得した科目は表中のそれぞれの区分の選択科目の単位として取扱われます。（但し、卒業所要単位数として算入できる単位は、他の大学等における授業科目の履修等（学則）と合わせて60単位を超える事はできません。）

人間科学科目

人間科学科目から、合計18単位

S T S 科目は、必ず1科目修得しなければなりません。（択一必修、なお複数科目修得した場合は人間科学科目区分の卒業所要単位として認定されます。授業科目配当表 人間科学科目を確認してください。）

英語科目

英語科目から、合計8単位（1コマ1単位）

専門教育科目

専門教育科目から、合計88単位

8－2 卒業研究着手条件

進級条件を満足し4年生に進級した学生は卒業研究A（電子工学科は調査研究）の着手条件を満たしたことになります（9－1進級参照）。ただし、卒業研究B（電子工学科、機械工学科、建築学科は卒業研究）の着手条件は、3年生終了時点で自由科目の修得単位数を除く総修得単位数が104単位以上なければなりません。

8－3 卒業見込証明書

4年次に進んだ学生には卒業見込証明書を発行します。この卒業見込証明書の発行を受けるには次の卒業見込発行基準を満たした学修をしていることが必要です。この証明書は就職活動等において欠かすことのできない書類ですのでこの条件を下まわることのないよう十分に注意して学習してください。

(1) 4年前期開始時

自由科目を除く修得単位数の合計が104単位（人間科学科目12単位、英語科目6単位を含む）以上を修得しており、必修科目については学科の定める条件を満足していること。

(2) 4年後期開始時

自由科目を除く修得単位数の合計が115単位（人間科学科目16単位、英語科目7単位を含む）以上を修得しており、1～3年次に配当された未修得科目の必修科目が後期開講科目であり、後期配当の未修得必修科目については学科の定める条件を満足していること。かつ、卒業研究を前期に履修登録していること。

卒業見込証明書は4月上旬より発行します。

卒業見込証明書発行日については、掲示により知らせます。

※ なお休学中の学生には、卒業見込証明書が発行されません。必要に応じ、学科に相談して下さい。

8－4 学位記

本学部の卒業生には、**学士（工学）**の学位が授与されます。卒業時に学位記を授与します。（本学の場合、学位記が卒業証書を兼ねますので、いわゆる卒業証書と称するものは授与しません。）

8－5 3年間での卒業（早期卒業）

大学院への進学を前提としているきわめて成績優秀な学生は、以下の条件により3年間の在学期間で卒業することが出来ます。希望する場合は、学科長に相談してください。

3年間の在学期間で卒業するための条件は以下の通りです。

- ①本人が3年生終了時に卒業することを希望していること
 - ②在学期間が3年の学生であること
 - ③卒業要件および成績基準
 - ・3年次までに各学科に配当された必修科目の単位をすべて3年次終了時まで
- 得しているとともに、各学科が定めた早期卒業のための卒業要件を満たし、卒業

所要単位124単位以上を修得済みであること。

- ・単位修得科目のうちSとAの評価の科目数が85%以上あること（自由科目は除く）
- ・上記の対象となる科目・単位は、工学部第一部で履修し、工学部第一部の授業を受講し、評価された科目・単位のみとする。

④学科長および学部長が早期卒業に相応しいと判断したもの

●各学科が特に定めた早期卒業のための卒業要件

- (1) 2年次終了時に85単位以上を修得し、修得した科目のうちSとAの評価の科目数（自由科目を除く）が85%以上あり、早期卒業を希望する学生は、3年次において卒業研究（A科は卒業設計）を履修し、その単位を修得しなければならない。卒業研究の履修にあたっては、学科長の指示に従うものとする。ただし、対象となる科目・単位は、工学部第一部で履修し、工学部第一部の授業を受講し、評価された科目・単位のみとする。
- (2) 3年前期終了時に、学科長が卒業研究の履修の継続を認めた者。
- (3) 4年次配当の卒業研究（A科は卒業設計）以外の必修科目（A科はコース別の推奨科目）の単位修得については、次のとおりとする。

D科	修得しなければならない	C科・I科	修得しなくともよい
A科	コース別の推奨科目単位を修得しなければならない。		

●その他

- (1) 各学科（A科を除く）において、3年前期終了時に学科長が卒業研究の継続を認められないと判断した場合は、卒業研究の履修を中止するか、引続き履修を認めた場合でも単位認定は4年次に行う。
- (2) A科は、本人の希望により卒業研究を指導教員と相談の上、選択科目として履修できるが、早期卒業の条件を満たせなかった場合は、単位認定は4年次に行う。

9 進級と留年

休学期間を除き3年次に合算して12ヶ月以上在籍した者（休学中の者を含む）を対象に3年次から4年次に進級する際に進級制度があります。

休学による場合を除き、なお進級できない場合は除籍となります。（学則）

進級条件

進級条件は以下のとおりとなります。履修の際にはこれらの条件もしっかりと把握し履修登録するようにしてください。

①進級判定時期

3年次生から4年次生へ進級するとき

②進級条件

- ・3年生終了までに、93単位（人間科学科目12単位、英語科目6単位を含む）以上修得していること。（ただし自由科目は含まない）
- ・必修科目の各学科の取扱いはこの通りである。

学科名	E科	D科	S科	M科	P科	C科	I科	A科
3年次までの必修 配当科目数	11科目	8科目	21科目	21科目	21科目	14科目 ※1	15科目 ※1	17科目
要修得必修科目数	9科目	条件なし	16科目	18科目	16科目	12科目	13科目	15科目 ※2

※1 択一必修を含む

※2 設計基礎、建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの4科目を修得していること

10 前期末卒業（卒業条件を満たさず卒業延期になった学生が対象）

（1）4年次に合算して12か月以上在学するものを対象とする。ただし、12か月以上の在学には、休学期間を在学期間に含まない。

（2）前記の条件を満たした者を対象として前期末卒業判定を実施する。判定時に休学中の者は対象としない。

卒業所要単位数など所定の卒業条件を満たしたときは、前期末卒業（9月10日付）となる。

（所定の卒業条件）

卒業条件は、入学した年度に学生に提示している卒業条件を適用する。

前期末卒業の希望確認（意志確認）の手続きについて

（１） 年度末卒業判定が行なわれ卒業延期者が確定した３月の成績通知書配布時に、学科長または学生アドバイザーから卒業延期者に対し「前期末卒業制度」が説明されます。

⇒ 卒業延期者は、**連絡先（必ず本人と連絡がつく連絡先）の登録**を行います。

後日、前期末卒業に関する連絡を学科から行う場合に使用します。

（２） ９月上旬の成績通知書配布時に、「前期末卒業の対象者（前記の卒業条件を満たした者）に対し、前期末卒業の希望確認（意志確認）を行います。卒業時期の確認手続きは以下によります。

（卒業時期の確認手続）

時期：９月上旬

○対象学生への卒業時期の意志確認	当該年度の前期成績が確定後、前期末卒業判定が実施され、判定結果が学科長へ通知されます。その結果を受け、学科長又は学生アドバイザーが、前期末卒業条件を満たした対象者全員に、前期末卒業（９月10日付卒業）とするか、または、翌年３月卒業とするかの卒業時期の希望を確認します。
○卒業時期の確定	対象学生への意志確認 １）対象学生の意志確認ができ学生が前期末卒業を希望する場合、または、対象学生の意志確認が出来ない（連絡がつかない）場合 ⇒ ９月10日付で卒業となります。 ２）対象学生より「翌年３月に卒業したい」旨の申請があった場合 定められた期間内に「翌年３月に卒業を希望する」旨の申請書（対象学生及び保証人の署名・捺印が必要）を学部長宛に提出する事により、翌年３月に卒業時期が変更となります。 ※ 後期の在籍となることから学費の支払い義務が発生します。保証人と充分相談し、希望を決定して下さい。

前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願

前年度卒業延期者が通年科目を再履修して前期末卒業を希望する場合は、その科目の履修届を提出するだけでなく、「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を必ず提出しなければなりません。（用紙は工学部・未来科学部事務部にあります。）
（手続き）

卒業延期者のうち、通年科目を前年度までに少なくとも１年間履修し単位未修得の者で、前期末卒業の可能性があると本人が判断し前期末卒業を希望する者は、前期履修登録期間に「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を１科目につき１部ずつ提出して下さい。

- (1) 通年科目であれば必修科目・選択科目を問いません。
- (2) 後期科目はこの手続きの対象外です。
- ※ 修得できた科目の単位は、前期末卒業できた場合、又、前期末卒業できずに翌年3月に卒業する場合にも、修得科目として、卒業所要単位数に算入されます。

11 そ の 他

11-1 e-Campus科目について

e-Campus科目とは、東京電機大学における新しい教育形態として、多彩な勉強機会を提供するため、東京千住キャンパス、埼玉鳩山キャンパス、千葉ニュータウンキャンパスを高度化ネットワークシステムで結び、遠隔講義で開講するものです。(講義を発信するキャンパスは、原則、担当者が所属するキャンパスとなります。)

なお、授業を受講する際のお知らせや注意点は掲示にて周知しますので、必ず確認してください。(e-Campus用の掲示板は7号館3階のエレベーター前です。)

履修登録上の注意

他学部および他学科に配当されている科目の履修希望者は、他学部他学科科目の履修登録を行ってください。(「3 履修計画・履修届」内の「他学部他学科科目履修願」を参照。)

受講の注意

e-Campus科目の開講時間は原則、実施科目のキャンパスの時間帯で行われます。従って、他学部の科目を履修する場合、以下の点に注意し、履修の登録を行ってください。

- (1) 東京千住キャンパスと他のキャンパスの授業時間帯が異なっており、科目によっては東京千住キャンパスの授業時間帯と重複しています。授業時間割が重複している場合はどちらかひとつの科目のみしか履修登録ができません。
- (2) 「東京電機大学で学ぶ」の開講時間は16:50~18:00となります。

※当該科目は新入生対象科目です。2年次に進級後の履修登録はできません。

【平成24年度実施科目】

〈後期〉

理工学部・共通基幹科目群・1年次・選択科目 水曜日・16:50~18:20	生物科学	栗山教授
--	------	------

※上記の科目は、自分の所属の学年より下級年次の科目のみ履修することができます。

○東京千住キャンパス配当科目で、e-Campus科目扱いとなる科目は、授業時間割にその旨、記載があります。

〈理工学部配当科目時間割〉

時限	1	2	昼休み	3	4	5
時間	9 : 30 ～ 11 : 00	11 : 10 ～ 12 : 40	50分	13 : 30 ～ 15 : 00	15 : 10 ～ 16 : 40	16 : 50 ～ 18 : 20

各科目の講義内容（シラバス）は、学生ポータルサイトから参照できます。又、他学部のシラバスは、ゲストユーザーで参照できます。

11-2 千住キャンパス学習サポートセンター

大学で学ぶための基礎学力を確実に身に付けることについて、サポートします。

上級学年で学習する科目の理解力（応用力）を高めると共に、高校時代に学習した内容の理解に不安がある場合にも対応します。

教員構成 本学専任・非常勤教員のほかに、千住キャンパス学習サポートセンター指導員らの少数による講義や質問の対応、指導を行います。

対象科目 特に新入学生から低学年次の学生に開講されている科目（数学・物理・英語科目など）を対象に実施します。工学部第一部の学生であれば、誰でも利用可能です。

実施形態 ①個別指導による学習支援（数学・物理・英語科目などの基礎学力の向上支援のための質問への対応）。

②グループ学習（ミニ講義や補習などの時間割制による講義形式等）。

注意 ①数学科目のミニ講義は、講義内容が授業に合わせ、2週程度で変更となります。詳細については、別途掲示にて、お知らせをします。

②英語科目のミニ講義については、掲示板または英語系列のホームページを参照してください。

実施場所 千住キャンパス 4号館3F 学習サポートセンター 40313

履修上の注意（開講科目対応表）

1	人間科学科目	79
2	英語科目	79
3	電気工学科	79
4	電子工学科	80
5	環境物質化学科	80
6	械工学科	81
7	機械情報工学科	81
8	情報通信工学科	81
9	情報メディア学科	82
10	建築学科	82
11	教職科目	83

履修上の注意

2011年度以前カリキュラムの授業科目配当表に記載の以下の科目は、カリキュラムが変更となった場合、授業運営上、（時間割やシラバスなどには）新科目名（2012年度以降カリキュラムの科目）が使用されます。履修登録の際は、対応する新科目名を誤りなく履修するようにしてください。新科目名は、当該科目の成績評価の前まで使用されます。

成績確定後は、自身の授業科目配当表の科目名（旧科目名）に読み替えられます。

<2012年度に開講する科目対応表>

1. 人間科学科目

授業科目配当表の科目名（旧科目名）	カリキュラム年度	新科目名
人間学入門 A	2008-2009	グローバル社会の市民論
哲学 A	2008-2009	哲学入門
こころの科学 A	2008-2009	自己心理学セミナー
法学 A	2008-2009	法律入門
経営学概論 A	2008-2009	企業と経営
歴史学 A	2008-2009	歴史理解の基礎
人間学入門 B	2008-2009	現代社会の市民論
現代社会と教育 B	2008-2009	大学と社会
国際社会と政治	2008-2009	国際政治の基礎
健康と体力	2008-2009	健康と生活
異文化理解 A	2008-2009	ヨーロッパ理解
ネットワーク経済	2008-2009	情報とネットワークの経済社会
経営工学	2008-2009	科学技術と企業経営
社会心理学	2008-2009	人間関係の心理
総合演習	2008-2009	総合演習（発表の技法）
科学技術史 A	2008-2009	科学の社会史
科学技術史 B	2008-2009	技術の社会史
法と科学技術	2008-2009	製造物責任法

2. 英語科目

授業科目配当表の科目名（旧科目名）	カリキュラム年度	新科目名
英語 A	2008-2009	発展英語 A
英語 B	2008-2009	発展英語 B
英語 VI	2008-2009	E科・D科：技術英語 II（工学部 EE 科）
英語 C	2008-2009	発展英語 C
英語 D	2008-2009	発展英語 D
英語特別演習 I	2008-2009	英語演習上級 I
英語特別演習 II	2008-2009	英語演習上級 II

3. 電気工学科

授業科目配当表の科目名（旧科目名）	カリキュラム年度	新科目名
ワークショップ II	2008-2009	ワークショップ（EJ コース）

授業科目配当表の科目名（旧科目名）	加計年度	新科目名
応用数学	2008-2009	フーリエ解析
電磁気学基礎実験	2008-2009	電気電子工学基礎実験Ⅰ
卒業研究B	2008-2009	卒業研究
回路理論Ⅲ	2008-2009	回路解析
基礎電子物性	2008-2009	半導体物理基礎
電気電子材料Ⅰ	2008-2009	電気材料
プログラミングおよび演習	2008-2009	プログラミングⅠ
ソフトウェア工学	2008-2009	プログラミングⅡ
デジタル回路	2008-2009	論理システム設計Ⅰ
エコエネルギーシステム	2008-2009	エコエネルギー工学
基礎電気工学実験	2008-2009	電気電子工学基礎実験Ⅱ
電気工学実験Ⅰ	2008-2009	電気電子工学実験Ⅰ
電気工学実験Ⅱ	2008-2009	電気電子工学実験Ⅱ
電気工学輪講	2008-2009	技術英語Ⅰ
コンピュータプレゼンテーション基礎	2008-2009	コンピュータプレゼンテーションⅠ
コンピュータプレゼンテーション応用	2008-2009	コンピュータプレゼンテーションⅡ

4. 電子工学科

授業科目配当表の科目名（旧科目名）	加計年度	新科目名
応用数学	2008-2009	フーリエ解析
電磁気学基礎実験	2008-2009	電気電子工学基礎実験Ⅰ
電気回路	2008-2009	回路理論Ⅰ
電子計測	2008-2009	電気電子計測
電子工学基礎実験	2008-2009	電気電子工学基礎実験Ⅱ
電子工学実験Ⅰ	2008-2009	電気電子工学実験Ⅰ
電子工学実験Ⅱ	2008-2009	電気電子工学実験Ⅱ
量子物理学Ⅰ	2008-2009	半導体物理基礎
量子物理学Ⅱ	2008-2009	量子物理学
電子デバイス工学Ⅰ	2008-2009	電子デバイスⅠ
電子デバイス工学Ⅱ	2008-2009	電子デバイスⅡ
レーザ工学	2008-2009	光応用工学
集積回路基礎Ⅰ	2008-2009	集積回路
アルゴリズムとデータ構造	2008-2009	プログラミングⅠ
オブジェクト指向プログラミング	2008-2009	プログラミングⅡ
コンピュータ・アーキテクチャ	2008-2009	コンピュータアーキテクチャ
デジタル信号処理	2008-2009	信号処理
システム工学	2008-2009	モデリングと最適化

5. 環境物質化学科

授業科目配当表の科目名（旧科目名）	加計年度	新科目名
ワークショップⅡ	2008-2009	ワークショップ

授業科目担当表の科目名（旧科目名）	加計年度	新科目名
応用数学	2008-2009	フーリエ解析
卒業研究 B	2008-2009	卒業研究
計算機量子化学	2008-2009	コンピューター化学
基礎化学演習	2008-2009	化学演習 I
基礎物理学演習	2008-2009	物理学演習
有機化学演習	2008-2009	有機化学演習 I
環境情報学	2008-2009	環境統計学
機能性有機合成化学	2008-2009	有機合成化学
固体物性工学 II	2008-2009	固体物性
環境物質化学実験 I	2008-2009	環境化学実験 I
環境物質化学実験 II	2008-2009	環境化学実験 II
応用物性実験	2008-2009	材料工学実験
科学情報メディア表現学	2008-2009	科学情報表現法

6. 機械工学科

授業科目担当表の科目名（旧科目名）	加計年度	新科目名
応用数学	2008-2009	フーリエ解析

7. 機械情報工学科

授業科目担当表の科目名（旧科目名）	加計年度	新科目名
応用数学	2008-2009	フーリエ解析
卒業研究 B	2008-2009	卒業研究
機械情報基礎実験実習 I	2008-2009	機械工学実験実習 I
機械情報基礎実験実習 II	2008-2009	機械工学実験実習 II
機械情報実験実習 I	2008-2009	機械工学実験実習 III
機械情報実験実習 II	2008-2009	機械工学実験実習 IV
機械情報基礎製図 I	2008-2009	機械設計製図 I
機械情報基礎製図 II	2008-2009	機械設計製図 II
機械情報設計製図 I	2008-2009	機械設計製図 III
機械情報設計製図 II	2008-2009	機械設計製図 IV
工業計測	2008-2009	計測工学

8. 情報通信工学科

授業科目担当表の科目名（旧科目名）	加計年度	新科目名
メディアの基礎および演習	2008-2009	C G ・映像メディアの基礎（FI科）
デザインの基礎および演習	2008-2009	メディア表現のためのデザイン演習（FI科）
情報機器の基礎	2008-2009	ヒューマンインタフェースの基礎（FI科）
基礎情報数学 A（離散数学）	2008-2009	情報通信数学 A（離散数学）
基礎情報数学 B（確率論と情報理論）	2008-2009	情報通信数学 B（確率論と情報理論）
基礎情報数学 C（代数と符号理論）	2008-2009	情報通信数学 C（代数と符号理論）
卒業研究 B	2008-2009	卒業研究

授業科目担当表の科目名（旧科目名）	カリキュラム年度	新科目名
基礎通信数学A（複素数基礎）	2008-2009	複素数基礎
基礎通信数学B（微分方程式Ⅰ）	2008-2009	微分方程式Ⅰ
データ構造とアルゴリズム	2008-2009	データ構造とアルゴリズムⅠ

9. 情報メディア工学科

授業科目担当表の科目名（旧科目名）	カリキュラム年度	新科目名
情報通信メディア基礎	2008-2009	情報メディア概論
情報機器の基礎	2008-2009	ヒューマンインタフェースの基礎
コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2008-2009	プログラミング基礎
コンピュータ構成と機械語	2008-2009	プロセッサと機械語
インターネットプログラミング	2008-2009	ネットワークプログラミング
基礎情報数学B（確率論と情報理論）	2008-2009	基礎情報数学B（確率論と情報論）
基礎情報数学C（代数と符号理論）	2008-2009	セキュリティのための基礎数学（代数と暗号の数理）
情報処理・メディア技術基礎	2008-2009	情報技術基礎
情報処理・メディア技術応用	2008-2009	情報技術応用
メディア制作の基礎（旧称：メディアとデザイン）	2008-2009	コンピュータ音楽
アルゴリズムの基礎	2008-2009	情報科学の基礎
コンピュータグラフィックスとアニメーション	2008-2009	コンピュータグラフィックス（レンダリング）
コンピュータグラフィックスとモデリング	2008-2009	コンピュータグラフィックス（モデリング）
CAD/CAM	2008-2009	形状デザイン
画像処理と画像編集	2008-2009	画像処理
音声・音響情報学	2008-2009	音声・音響情報処理
画像情報学	2008-2009	感性・情報イメージング
数理計画法	2008-2009	人工知能とコンピュータ
オブジェクト指向分析・設計	2008-2009	ソフトウェア分析・モデリング
人間機械情報学	2008-2009	人間情報システム
ユーザインタフェースプログラミング	2008-2009	ウィンドウズプログラミング
コンピューティング基盤とセキュリティ	2008-2009	情報セキュリティの基礎と暗号技術
複素解析学	2008-2009	複素解析学Ⅰ

10. 建築学科

授業科目担当表の科目名（旧科目名）	カリキュラム年度	新科目名
物理実験Ⅰ	2008-2009	物理実験
応用数学	2008-2009	フーリエ解析
複素解析学	2008-2009	複素解析学Ⅰ
卒業設計	2008-2009	特別研究・設計Ⅱ
木造建築	2008-2009	木質構造
住宅設計基礎	2008-2009	建築設計概論
設計計画基礎	2008-2009	設計計画
都市計画基礎	2008-2009	都市計画
建築史基礎	2008-2009	近代建築史

授業科目担当表の科目名（旧科目名）	加計年度	新科目名
建築設備基礎	2008-2009	建築設備概論
建築都市法規	2008-2009	建築法規
建築構法	2008-2009	構法実習
建築設計Ⅱ	2008-2009	設計・パフォーマンスⅢ
建築設計Ⅲ	2008-2009	設計・パフォーマンスⅣ
建築パフォーマンスⅠ	2008-2009	設計・パフォーマンスⅤ
材料実験	2008-2009	材料・構造実験
工法生産	2008-2009	構造計画と設計
地区デザイン	2008-2009	建築都市デザイン
まちづくり論	2008-2009	まちづくり経営論
建築デザイン論	2008-2009	建築デザイン
音環境・騒音制御工学	2008-2009	音環境
熱環境・空調工学	2008-2009	熱・空調工学
光環境・電気設備	2008-2009	光環境

11. 教職課程科目

授業科目担当表の科目名（旧科目名）	加計年度	新科目名
教職概論	2008-2010	教職入門
教育原理	2008-2010	教育学概論
道徳教育論	2008-2010	道徳教育の研究

※ 上記内容に変更がある場合は、その都度掲示にてご案内いたします。

※ 次年度の科目対応については、新年度にご案内いたします。

※ 上記以外の科目において、自身の授業科目担当表の科目名（旧科目名）と新科目名を同時に開講する場合がありますが、授業運営上、新科目名のみを使用することがあります。

資 格・免 許

1	卒業後取得できる主な資格・免許	87
2	教職課程	89
3	電気主任技術者	101
4	第一級・第二級陸上無線技術士	105
5	第一級陸上特殊無線技士・第三級海上特殊無線技士	107
6	電気通信主任技術者	110
7	電気工事士	113

卒業後取得できる主な資格・免許

該当学科において、在学中に所定の単位を取得することによって、資格が取得できるもの、および試験免除等となる主な資格・免許は次のとおりです。

資格・免許名	取得条件	該 当 学 科	所轄官庁 (東京都の場合)
高等学校教諭 1種普通免許 中学校教諭 1種普通免許	教職課程の項参照 教職課程要覧参照	各 学 科	東京都教育庁 人事部検定課
電気主任技術者 第1種 第2種 第3種	電気主任技術者の項参照	電 気 工 学 科	経済産業省 原子力安全・ 保安院 関東東北産業 保安監督部 電力安全課
第一級 第二級 陸上無線技術士	第一級・第二級陸上無線技術 士の項参照	電 子 工 学 科	関東総合通信 局無線通信部 航空海上課
第一級 陸上特殊無線技士 第三級 海上特殊無線技士	第一級陸上特殊無線技士の項 参照 第三級海上特殊無線技士の項 参照	電 子 工 学 科 情 報 通 信 工 学 科	関東総合通信 局無線通信部 航空海上課
電気通信主任技術者	電気通信主任技術者の項参照	電 子 工 学 科 情 報 通 信 工 学 科	関東総合通信 局情報通信部 電気通信事業 課
電 気 工 事 士 第2種	電気工事士の項参照	電 気 工 学 科	(財)電気技術 者試験センタ ー
弁 理 士		全 学 科	特許庁総務部 秘書課弁理士 係
技 術 士 補	第一次試験のうち、共通科目 の試験が免除となる。	全 学 科	(社)日本技術 士会技術士試 験センター
建設機械施工技士 1級	大学で、機械・建築・電気に関 する学科を卒業した者で、 3年以上の実務経験（そのう ち1年は指導監督的実務経 験）を有する者は、受験資格 がある	電 気 工 学 科 機 械 工 学 科 建 築 学 科	(社)日本建設 機械化協会

資格・免許名	取得条件	該 当 学 科	所轄官庁 (東京都の場合)
消 防 設 備 士 甲種		全 学 科 (情報通信工学科 除く) 情報メディア学科	(財)消防試験 研究センター 中央試験セン ター
公害防止管理者		全 学 科	(社)産業環境 管理協会公害 防止管理者試 験センター
ボイラー・タービン 主 任 技 術 者 第 1 種 第 2 種	所定の経験を経た者は資格の 交付を受けることができる。	機 械 工 学 科 (但し、熱機関を 修得のこと)	経済産業省 原子力安全・ 保安院 関東東北産業 保安監督部 電力安全課
ボイラー技士 特級 1 級 2 級	ボイラーに関する学科を修め 下記の実務経験を有する者 は、受験資格がある。 特級 2 年以上の実地修習 1 級 1 年以上の実地修習 2 級 3 ケ月以上の実地修習	機 械 工 学 科 (但し、熱機関を 修得のこと)	関東安全衛生 技術センター
毒物劇物取扱責任者	1. 大学等において応用化学に 関する課程を修了した者は 資格を認定される。 2. 化学に関する授業科目を28 単位以上取得すれば資格を 認定される。	環 境 物 質 化 学 科	東京都福祉保 健局健康安全 室薬務課薬事 免許係
危 険 物 取 扱 者 甲種	1. 大学等において化学に関す る学科等を卒業した者は、 受験資格がある。 2. 大学等において化学に関す る授業科目を15単位以上修 得した者は、受験資格があ る。	全 学 科	(財)消防試験 研究センター
建 築 士 1 級	建築に関して 2 年以上の実務 を有する者	建 築 学 科	(財)建築技術 教育普及セン ター

2 教 職 課 程

本学部においては、各学科ごとに「中学校教諭 1 種」および「高等学校教諭 1 種」の教育職員免許状を取得するための教職課程が設けられており、1 年次生から履修することができます。(学科ごとに取得できる教育職員免許状の科目については、下記を参照)

教育職員免許状を取得するには、卒業所要単位のほかに、教育職員免許法に定められた「教職に関する科目」および「教科に関する科目」の単位を修得しなければなりません。

また、**中学校の免許状**を取得する際、7 日間の「介護等体験」の義務が課せられています。この体験先に関しては、大学を通して斡旋する事になっています。工学部では、人権保護等の観点から「介護福祉論」を 2 年次生に履修済みである事を、斡旋の依頼にあたっての条件としています。

教職課程の履修方法、教育実習、教育職員免許状の申請などの詳細に関しては、**1 年次の後期はじめに(9 月)教職課程ガイダンス**を行いますので、教職課程の履修を希望する人は必ず出席して下さい。また、1 年次生以上で教職課程を履修する人には、常に**教職課程掲示板**に注意するとともに、**別冊の『教職課程要覧』**(教職課程ガイダンス時に配布)に詳しい履修手続きなどが記載されていますので、そちらを参照して下さい。

2-1 取得できる教育職員免許状の種類および教科

免許状の種類	教科	取得できる該当学科
高等学校教諭1種免許状	数 学	全学科
	情 報	全学科（A科を除く）
	工 業	全学科（S科を除く）
	理 科	環境物質化学科
中学校教諭1種免許状	数 学	全学科
	理 科	環境物質化学科

2-2 免許状取得資格・必要単位数

教育職員免許状を取得しようとする人は、免許状の種類に応じ、次の表に掲げる所定の単位を修得しなければなりません。

免許状の種類	基礎資格	要 修 得 単 位 数				
		共通教育科目		教職に関する科目	教科に関する科目	
高等学校教諭 1 種免許状	学士の称号を 有すること	日本国憲法	2	24	数学	35
		体育 ^{*1}	2		情報	35
		外国語	2		工業	35
		情報 ^{*2}	2		理科	35
中学校教諭 1 種免許状	学士の称号を 有すること	日本国憲法	2	32	数学	27
		体育 ^{*1}	2		理科	27
		外国語	2			
		情報 ^{*2}	2			

* 人間科学科目の倫理学入門または哲学を修得することが望ましい。

※1 「体育」とは、ここでは実技科目（トリムスポーツ、アウトドアスポーツ）を指す。

※2 要修得単位数中の共通教育科目「情報」は、全学科「コンピュータ基礎および演習Ⅰ」です。

2-3 教職に関する科目

1年次生から履修することができます。

次表に掲げる授業科目のうちから、免許状に応じて単位数を修得しなければなりません。

免許法上の区分			最低修得単位	授業科目名	単位数	備 考
第二欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	教 職 概 論	2	中学・高校免許必修科目
		教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)				
		進路選択に資する各種の機会の提供等				
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教 育 原 理	2	中学・高校免許必修科目
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)		教 育 心 理 学	2	中学・高校免許必修科目
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教 育 社 会 学	2	中学・高校免許必修科目
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中学 12 高校 6	教育方法・課程論 (特別活動を含む)	2	中学・高校免許必修科目
		特別活動の指導法				
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		数 学 科 教 育 法	4	中学・高校免許必修科目 免許教科に応じて履修
		各教科の指導法		理 科 教 育 法	4	
				工 業 科 教 育 法	4	
				情 報 科 教 育 法	4	
	数学科教育論Ⅰ		2	中学校免許必修科目 免許教科に応じて履修		
	数学科教育論Ⅱ	2				
	理 科 教 育 論 Ⅰ	2				
	理 科 教 育 論 Ⅱ	2				
	道徳の指導法		道徳教育の研究	2	中学校免許必修科目	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	4	教 育 相 談	2	中学・高校免許必修科目	
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	中学・高校免許必修科目	
	進路指導の理論及び方法					
第五欄	総合演習		2	総 合 演 習	2	中学・高校免許必修科目
第六欄	教育実習		中学 5 高校 3	教育実習セミナー	2	中学・高校免許必修科目
				教 育 実 習 Ⅰ	2	中学・高校免許必修科目
				教 育 実 習 Ⅱ	2	中学校免許必修科目

* 高等学校 1 種免許状「工業」を取得する場合の臨時措置

高等学校教諭 1 種免許状「工業」を取得する場合は、当分の間、教職に関する科目の単位の全部または一部を、工業の教科に関する科目の単位で替えられることになっています（教育職員免許法附則11項）。したがって、教職に関する科目の単位を全く修得しなくても、前ページ記載の共通教育科目を修得し、かつ工業の教科に関する科目の「職業指導：4 単位」を含め59単位以上修得することにより、工業の免許状が取得できます。

しかし、教職に関する科目は教員となるための基本的な科目であり、この措置に頼ることなく、少なくとも教職概論、教育原理、教育心理学、工業科教育法については修得しておくことが必要と思われます。

また、同じ免許状を取得するにしても、教職に関する科目を修得しているといわないのでは、教職についた場合はもちろんのこと、将来社会に出てからの役立ち方にも大きな差異が出てくる可能性があります。こうした点からも、教職に関する科目が重要な科目であることを十分に認識して、できるだけ修得するよう心がけてください。

2－4 教科又は教職に関する科目

中学校免許取得希望者は介護等体験を行うため、次の科目を2年次生から履修してください。

科 目 名	単位数	配 当 期	
介 護 福 祉 論	2	2～4 年	前期・後期
介護等体験特論	2	3 年	通 年

2－5 教科に関する科目

取得希望教科によって別表の科目を1年次生から履修する必要があります。

〔数学〕

工学部第一部 全学科

免許状の種類・教科	免許法施行規則に定める科目群〔教職コード〕	最低修得単位数	該当科目 () 内は単位数
中学校および高校1種・数学	代数学 [110代数]	1	全学科 代数学入門(2)、線形代数学Ⅲ(2)、代数学(2)
			C・I 基礎情報数学C(代数と符号理論)(2)
	幾何学[111幾何]	1	全学科 幾何学(2)、微分幾何学(2)
			全学科 微分積分学および演習Ⅱ(4)、初等解析学(2)、解析学(2)、応用解析学(2)
	解析学 [112解析]	1	E 微分方程式Ⅰ(2)、微分方程式Ⅱ(2)、ベクトル解析(2)、複素解析学Ⅰ(2)、複素解析学Ⅱ(2)、数値解析学(2)、応用数学(2)
			D 微分方程式Ⅰ(2)、微分方程式Ⅱ(2)、ベクトル解析(2)、複素解析学Ⅰ(2)、複素解析学Ⅱ(2)、応用数学(2)、数値解析学(2)
			S 微分方程式Ⅰ(2)、微分方程式Ⅱ(2)、複素解析学Ⅰ(2)、複素解析学Ⅱ(2)、数値解析学(2)、ベクトル解析(2)、応用数学(2)
			M 微分方程式Ⅰ(2)、微分方程式Ⅱ(2)、複素解析学Ⅰ(2)、複素解析学Ⅱ(2)、数値解析学(2)、ベクトルおよびテンソル(2)、応用数学(2)
			P 微分方程式Ⅰ(2)、微分方程式Ⅱ(2)、ベクトルおよびテンソル(2)、複素解析学Ⅰ(2)、複素解析学Ⅱ(2)、数値解析学(2)、応用数学(2)
			C 複素解析学Ⅰ(2)、複素解析学Ⅱ(2)、基礎通信数学B(微分方程式Ⅰ)(2)、微分方程式Ⅱ(2)
			I 微分方程式Ⅰ(2)、複素解析学(2)、応用数学(2)
			A 微分方程式Ⅰ(2)、複素解析学(2)、応用数学(2)
	確率論、統計学 [113確統]	1	E D S M P A 確率・統計Ⅰ(2)、確率・統計Ⅱ(2)
			C 基礎情報数学B(確率論と情報理論)(2)、確率・統計Ⅰ(2)、確率・統計Ⅱ(2)
			I 基礎情報数学B(確率論と情報理論)(2)、数理統計学(2)
	コンピュータ [114コンピュ]	1	E D S M P 数式処理(2)
			M コンピュータ基礎および演習Ⅱ(4)
			P コンピュータプログラミングⅡ(2)
			C コンピュータ基礎および演習Ⅱ(4)、基礎情報数学A(離散数学)(2)
			I コンピュータ基礎および演習Ⅱ(4)、数式処理(2)、基礎情報数学A(離散数学)(2)、数理計画法(2)
			A コンピュータ基礎および演習Ⅱ(4)、数式処理(2)

網掛け部分の科目を必ず履修し中学校は合計27単位以上、高等学校は合計35単位以上取得すること。
(注：網掛け科目は包括的内容を含む科目)

〔情報〕

工学部第一部

電気工学科・電子工学科・環境物質化学科・機械工学科・機械情報工学科・情報通信工学科・情報メディア工学科・（高校1種・情報）

免許法施行規則に定める 科目群〔教職コード〕	最低修得 単位数	該当科目 () 内は単位数
情報社会及び 情報倫理〔130情①〕	1	全学科 情報化社会と知的財産権(2)、情報化社会とコミュニケーション(2)、情報倫理(2)
コンピュータ 及び情報処理 (実習を含む) 〔131情②〕	1	D SMP コンピュータ基礎および演習Ⅲ(2)
		E コンピュータ基礎および演習Ⅱ(4)、電気電子計測(2)、制御工学Ⅰ(2)、制御工学Ⅱ(2)、システム計測・制御(2)、プログラミングおよび演習(2)、ディジタル回路(2)、コンピュータアーキテクチャ(2)、コンピュータワークショップ(1)、コンピュータ基礎および演習Ⅲ(2)
		D コンピュータ基礎および演習Ⅱ(4)、電子計測(2)、論理システム設計Ⅰ(2)、論理システム設計Ⅱ(2)、制御工学Ⅰ(2)、制御工学Ⅱ(2)、アルゴリズムとデータ構造(2)、オブジェクト指向プログラミング(2)、機械語プログラミング(2)、コンピュータ・アーキテクチャ(2)、コンピュータ・ハードウェア(2)、コンピュータワークショップ(1)
		S コンピュータ基礎および演習Ⅱ(4)、計算機物性物理学演習(2)、コンピュータワークショップ(1)、UNIXプラクティス(2)
		M コンピュータプログラミングⅠ(2)、コンピュータプログラミングⅡ(2)、メカトロニクス概論(2)、制御工学Ⅰ(2)、制御工学Ⅱ(2)、計測工学(2)、コンピュータワークショップ(1)
		P コンピュータ基礎および演習Ⅱ(4)、コンピュータプログラミングⅠ(2)、機械情報実験実習Ⅰ(2)、工業計測(2)、制御工学Ⅱ(2)、情報処理工学(2)、ロボット工学(2)、コンピュータワークショップ(1)
		C 情報通信工学実験(4)、コンピュータ構成と機械語(2)、データ構造とアルゴリズム(2)、オブジェクト指向プログラミングおよび演習(3)、コンピュータ基礎および演習Ⅲ(2)、数式処理(2)
情報システム (実習を含む) 〔132情③〕	1	I コンピュータ構成と機械語(2)、オブジェクト指向プログラミングⅠ(2)〔旧：データ構造とアルゴリズム〕、ワークショップⅡ(ものづくり応用)(2)、インターネットプログラミング(2)、音声・音響情報学(2)、アルゴリズムの基礎(2)
		E D SMP 情報システムの基礎および演習(2)
		E メカトロニクス(2)、ソフトウェア工学(2)
		D ロボット工学(2)、データ解析(2)
		S 環境情報学(2)、科学文献情報システム概論(2)
		M 機械設計製図Ⅱ(2)、ロボット工学(2)
		P データベース活用設計(2)、メカトロニクス(2)
情報通信 ネットワーク (実習を含む) 〔133情④〕	1	C 情報通信プロジェクト(3)、インターネットプログラミング(2)、データベース(2)、情報システムの基礎および演習(2)
		I 情報メディア実験(4)、情報メディアプロジェクト(3)、データベース(2)、知識・言語情報学(2)、メディアコミュニケーション(2)、情報システム論(2)
		E D SMP 情報通信ネットワークの基礎および演習(2)
		E コンピュータネットワーク(2)
		D 情報理論(2)、通信方式(2)
		S ネットワークコンピュータワークショップ(1)、ネットワークプログラミング概論(2)
マルチメディア 表現及び技術 (実習を含む) 〔134情⑤〕	1	C 情報通信メディア基礎(2)、ネットワークセキュリティと暗号(2)、情報ネットワーク(2)、情報通信ネットワークの基礎および演習(2)、情報機器の基礎(2)
		I 情報機器の基礎(2)、情報メディア基礎実験(4)、デジタル通信(2)、情報ネットワーク(2)、コンピュータグラフィックスとセキュリティ(2)
		E D SMP マルチメディア表現技術の基礎および演習(2)
		E 電子回路設計(2)、信号処理(2)、コンピュータプレゼンテーション基礎(2)、コンピュータプレゼンテーション応用(2)
		D 音響工学(2)、システム工学(2)
		S 計算機量子化学(2)、計算機物性学(2)、科学情報メディア表現学(2)
		M 機械設計製図Ⅰ(2)、数値熱流体力学(2)、計算機援用設計(2)
		P 機械情報設計製図Ⅰ(2)、機械情報設計製図Ⅱ(2)、計算機援用設計(2)
		C マルチメディア通信工学(2)、メディアの基礎および演習(3)、デザインの基礎および演習(3)、画像処理工学(2)、音声・音響情報工学(2)、コンピュータグラフィックス(2)〔旧：CGとゲームプログラミング〕、マルチメディア表現技術の基礎および演習(2)
情報と職業〔135情⑥〕	1	I メディアの基礎および演習(3)、デザインの基礎および演習(3)、メディア制作の基礎(2)〔旧：メディアとデザイン〕、コンピュータグラフィックスとアニメーション(2)、コンピュータグラフィックスとモデリング(2)、メディア構成論(2)、画像情報学(2)、音メディア表現学(2)〔旧：メディア表現学〕
		全学科 情報と職業(2)

網掛け部分の科目を必ず履修し合計35単位以上取得のこと。注：網掛け科目は包括的内容を含む科目

〔理科〕

工学部第一部 環境物質化学科

免許状の種類・教科	免許法施行規則に定める科目群[教職コード]	最低修得単位数	該当科目 () 内は単位数
中学校1種理科	物理学 [120物理]	1	物理学Ⅰ(2)、物理学Ⅱ(2)、電磁気学Ⅰ(2)、電磁気学Ⅱ(2)、量子科学(2)[旧：量子力学]、物性物理学(2)、統計熱力学(2)、基礎物理学演習(2)、固体物性工学Ⅰ(2)、固体物性工学Ⅱ(2)、半導体材料工学(2)
	物理学実験(コンピュータ活用を含む)[121物実]	1	物理実験Ⅰ(1)、物理実験Ⅱ(1)、環境物質化学実験Ⅱ(2)、応用物性実験(1)[旧：環境物質化学実験Ⅲ]
	化学 [122化学]	1	化学Ⅰ(2)、化学Ⅱ(2)、物理化学Ⅰ(2)、物理化学Ⅱ(2)、有機化学Ⅰ(2)、有機化学Ⅱ(2)、分析化学(2)、無機化学(2)、基礎化学演習(2)、物理化学演習(2)、有機化学演習(2)、高分子材料工学(2)、高分子物性学(2)、光化学(2)、錯体化学(2)
	化学実験(コンピュータ活用を含む)[123化実]	1	化学実験Ⅰ(1)、化学実験Ⅱ(1)、環境物質化学実験Ⅰ(2)、有機化学実験(1)
	生物学[124生物]	1	生物学(2)、生物化学(2)、応用微生物学(2)
	生物学実験(コンピュータ活用を含む)[125生実]	1	生物化学実験(2)
	地学[126地学]	1	地学(2)、地球物理学(2)
	地学実験(コンピュータ活用を含む)[127地実]	1	地学実験(2)
網掛け部分の科目を必ず履修し合計27単位以上取得すること。 (注：網掛け科目は包括的内容を含む科目)			

免許状の種類・教科	免許法施行規則に定める科目群[教職コード]	最低修得単位数	該当科目 () 内は単位数
高等学校1種理科	物理学 [120物理]	1	物理学Ⅰ(2)、物理学Ⅱ(2)、電磁気学Ⅰ(2)、電磁気学Ⅱ(2)、量子科学(2)[旧：量子力学]、物性物理学(2)、統計熱力学(2)、基礎物理学演習(2)、固体物性工学Ⅰ(2)、固体物性工学Ⅱ(2)、半導体材料工学(2)
	化学 [122化学]	1	化学Ⅰ(2)、化学Ⅱ(2)、物理化学Ⅰ(2)、物理化学Ⅱ(2)、有機化学Ⅰ(2)、有機化学Ⅱ(2)、分析化学(2)、無機化学(2)、基礎化学演習(2)、物理化学演習(2)、有機化学演習(2)、高分子材料工学(2)、高分子物性学(2)、光化学(2)、錯体化学(2)
	生物学[124生物]	1	生物学(2)、生物化学(2)、応用微生物学(2)
	地学[126地学]	1	地学(2)、地球物理学(2)
	物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む) [121物実][123化実][125生実][127地実]	1	物理実験Ⅰ(1)、物理実験Ⅱ(1)、環境物質化学実験Ⅱ(2)、応用物性実験(1)[旧：環境物質化学実験Ⅲ]、 化学実験Ⅰ(1)、化学実験Ⅱ(1)、環境物質化学実験Ⅰ(2)、有機化学実験(1)、生物化学実験(2)、地学実験(2)
網掛け部分の科目を必ず履修し合計35単位以上取得すること。 (注：網掛け科目は包括的内容を含む科目)			

〔工業〕

工学部第一部

免許状の種類・教科	免許法施行規則に定める科目群[教職コード]	最低修得単位数	該当科目 () 内は単位数
高校 1種 工業	工業の関係科目 [160工業]	1	科目配当表の教職コード欄参照
	職業指導 [160工業]	1	職業指導(4)
	網掛け部分の科目を必ず履修し合計35単位以上取得のこと。 注：網掛け科目は包括的内容を含む科目		

※14年度以降、環境物質化学科の入学生から「工業」は課程認定を受けておりません。

2-6 教職課程の履修手続

教職課程履修願（用紙（工学部・未来科学部事務部：教務担当で配布）の提出と履修届は正規の授業科目と同時に）。



教職課程履修費（10,000円）の納入（指定期日に経理部（会計担当）へ）。



教職課程履修券の発行。

2-7 介護等体験

介護等体験については別冊「教職課程要覧」を参照のこと。

2－8 教育実習

教育実習は、4年次生のとき、中学校または高等学校において3～4週間（高等学校免許状のみの学生は2週間以上）以上にわたって教育活動（教壇実習および生徒指導等）に参加することによっておこなわれます。但し高等学校教諭1種免許状「工業」を前記の臨時措置により取得しようとする場合にかぎり、必ずしも教育実習をおこなう必要はありません。

（1）教育実習Ⅰ・Ⅱ履修の条件

- ① 4年次生で、1年次生から教職課程を履修し、原則として教職概論・教育原理・教育心理学・教育実習セミナー・教育実習をする教科に係わる教科教育法の単位を修得していること。
- ② 教員免許状取得見込み確実で、教職に就く意思があること。
- ③ 伝染の恐れのある疾病若しくは教育実習を行なう上で妨げとなる機能上の欠陥又は精神障害がないこと。
- ④ 学校の正常な教育活動を妨げないこと。（②から④は、「東京都公立学校教育実習取扱要綱」による。）
- ⑤ 教育実習校は原則として、自分の出身中学、高等学校と交渉し内諾を得る者の出来る者。
- ⑥ 教育実習校の内諾を得た者全てが教育実習を許可されるわけではありません。3年次の後期に学業成績、教職課程履修状況、単位取得状況などを調査し、必要があると判断された者は、「教育実習生の適性検査」(面接)を実施します。実習生としての適正に欠けると判断されたものには、教育実習の中止を勧告します。

（2）教育実習校について

都内公立学校の実習受入れ数は非常に少なく、東京電機大学高等学校の受入れ数も制限があるので、下記の個人交渉校で実習するように努めてください。

- ・ **個人交渉校** 自分の出身高等学校など縁故のある都内私立学校または他府県公立・私立校で、個人交渉により実習を認められた学校。実習日時・教科が内定したら工学部・未来科学部事務部(教務担当)へ連絡してください。その連絡に基づいて本学部で作成する教育実習依頼状などを、実習校の校長に提出しなければなりません。

【教育実習校（母校）の内諾について】

- * 教職課程履修者の3年生で、次年度教育実習を行うものは、3年次前期（6月中）までに教育実習の内諾を母校にてもらい、その旨を工学部・未来科学部事務部（教務担当）まで連絡して下さい。
- * 内諾の依頼を母校に行う際には、事前に電話連絡を行い、先方の指定の日時に学校を訪問すること。その際に、教職志望者としての服装・言動に十分注意するようにして下さい。

- *尚、中学免許の場合には3週間から4週間の実習が必要となりますので、その件も合わせて母校(基本的に中学校、高校どちらでも可)に相談するようにしてください。
- *報告のない者の教育実習は、基本的に行えませんので必ず報告するようにしてください。

(3) 教育実習の手続

教育実習願の提出(用紙は工学部・未来科学部事務局(教務担当))。



教育実習費(実習校によって異なる実費のみ納入)



下記の書類を用意(工学部・未来科学部事務局(教務担当)で用意。実習生が実習校へ携行)。

- 1) 誓約書 -----
 - 2) 身体に関する証明書 -----
 - 3) 教育実習評価表
 - 4) 教育実習終了証明
 - 5) 教育実習日誌(実習生各自で用意すること)
 - 6) 出勤簿
- 東京都公立校で実習する場合

(4) 教育実習上の注意

実習期間中は、将来教壇に立つのに恥ずかしくない実習をする。

教育実習が終了したらすみやかに、3)教育実習評価表、4)教育実習終了証明、5)教育実習日誌を工学部・未来科学部事務局(教務担当)へ提出してください。また実習後、実習生は実習校へ礼状を欠かすことのないよう十分留意してください。

2-9 教育職員免許状の申請・交付・証明

教育職員免許状の授与権者は各都道府県の教育委員会ですが(教育職員免許法第5条第6項)、その授与申請には次の二つの方法があります。

- (1) **個人申請** 卒業後(4月中旬以降)、個人で直接、居住地の都道府県教育委員会で免許状の交付を受ける方法。
- (2) **一括申請** 授与申請は上記の個人申請が原則ですが、卒業式当日に免許状交付を必要とする人については、工学部・未来科学部事務局(教務担当)でその事務を代行し、東京都教育委員会に一括申請をおこないます。

(3) 一括申請の場合の手続と免許状の交付

- 1) 5月に一括申請希望届を受付け、1月末に宣誓書に署名・捺印し、手数料を添えて指定の期日に工学部・未来科学部事務局(教務担当)へ提出してください。

- 2) これに基づき、東京都教育委員会による一括審査がおこなわれます。但し、授与願の記入不備等で不可となった場合は、卒業後の個人申請となりますから、注意して手続きしてください。
- 3) 一括審査に合格した人に対しては、卒業式当日に免許状を交付します。そのさい、印鑑と教職課程履修券を持参してください。

(4) 免許状取得見込証明書

教員採用試験を受験するさい必要になる免許状取得見込証明書は、現在履修中の授業科目も取得見込として工学部・未来科学部事務部（教務担当）で発行します。

(5) 免許状取得証明書

卒業後、免許状取得証明書が必要になったときは、東京都教育委員会へ請求することができますが、免許状の再発行はおこなわれません。

2-10 大学院で取得できる「専修免許状」について

大学院では、自分の所属する専攻学科の「教科に関する科目」を24単位以上修得し課程を修了すれば専攻ごとに認定された教科の「専修免許状」が取得できます。

そのためには、学部において「1種免許状」を取得するか、またはそれに必要な科目・単位を修得していることが必要です。

2-11 教職課程担当教員

	氏 名	館	階	室番号
教 授	大 江 正比古	4 号館	9	40915 B
※ 教 授	広 石 英 記	4 号館	9	40912 B
准 教 授	黒 沢 学	4 号館	9	40914 B
准 教 授	金 築 智 美	4 号館	9	40915 A

※印教員：教職課程主任

教職課程履修手続から免許状交付まで（タイムスケジュール）

年 月	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生
4 月上旬			介護等体験希望受付 介護等体験費、納入 「介護等体験特論」の履修	教育実習セミナー 都内公立校教育実習予定者面接
中旬	共通教育科目・教科に関する科目履修申告履修開始	「介護福祉論」の履修	教育実習希望受付（～9月まで） 実習校までの交通機関調査 介護等体験者 身体検査・保険加入	教育実習予定者提出書類準備
下旬				
5 月中旬				教育実習費納入（実費） 免許状一括申請希望届提出
6 月			介護等体験実施 受入れ施設決定	教育実習Ⅰ・Ⅱ 実習後、教育実習日誌提出
7 月下旬 ～ 9 月上旬	教職課程ガイダンス	夏 期 集 中 講 義 （ 2 ・ 3 ・ 4 年 生 ）		
9 月中旬	教職に関する科目 履修申告・履修開始		教育実習校内諾ぐ切 「教育実習セミナー」の履修	
下旬	教職課程履修費納入		教育実習生の適性検査(面接)	
10月				
11月				
12月				
1 月中旬 ～ 1 月下旬				免許状一括申請者 「免許状取得申請書」提出 授与願確認、署名、捺印
2 月				
3 月中旬				免許状交付
下旬				

※太字のものは介護等体験のスケジュール

電気主任技術者（電気工学科）

電気主任技術者

事業用電気工作物を設置する者は、事業用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督をさせるため、経済産業省令で定めるところにより、主任技術者免状の交付を受けている者のうちから、主任技術者を選任しなければならない。

4 主任技術者は、事業用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督の職務を誠実に行わなければならない。（電気事業法第43条第1項及び第4項抜粋）

免状の種類（電気主任技術者の項抜粋）

次の3種類があり、それぞれ保安の監督ができる範囲が定められています。

免状の種類	保安の監督をすることができる範囲
第1種電気主任技術者	事業用電気工作物の工事、維持および運用
第2種電気主任技術者	電圧十七万ボルト未満の事業用電気工作物の工事、維持及び運用
第3種電気主任技術者	電圧五万ボルト未満の事業用電気工作物（出力五千キロワット以上の発電所を除く）の工事、維持及び運用

（電気事業法第44条・同法施行規則56条）

学歴または資格、および実務経験による免状取得

電気工学科在学中に、A表の科目区分ごとに必要単位数以上の単位数を修得し、卒業後に、B表の実務経験を有すれば、免状の種類に応じて申請により電気主任技術者免状が取得できます。

A表 必要単位数および授業科目
(平成25年3月卒業者に適用)

●印は必修科目

科目区分	必要単位数	授業科目名	配当 単位数	備考
1. 電気・電子工学等の 基礎	17単位以上	●電磁気学Ⅰ	2	左記の科目を必ず修得すること
		電磁気学Ⅱ	2	
		●演習電磁気学Ⅰ	2	
		演習電磁気学Ⅱ	2	
		電磁気学Ⅲ	2	
		●回路理論Ⅰ	4	
		●回路理論Ⅱ	2	
		回路理論Ⅲ	2	
		過渡現象	2	
		電気電子計測	2	
		電子デバイスⅠ	2	
		電子デバイスⅡ	2	

		電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ デジタル回路	2 2 2	
			32	
2. 発電、変電、送電、配電、電気材料等 (電力科目)	7 単位以上	発電工学	2	必ず修得すること
		電力系統工学Ⅰ 電力系統工学Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		電気電子材料Ⅰ 電気電子材料Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		高電圧工学	2	
			12	
3. 電気・電子機器、自動制御、電気エネルギーの利用および情報伝送・処理等 (機械科目)	10単位以上	電気機器Ⅰ 電気機器Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		パワーエレクトロニクス	2	必ず修得すること
		制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		ドライブシステム ●コンピュータ基礎および演習Ⅰ コンピュータ基礎および演習Ⅱ システム計測・制御	2 4 4 2	
			22	
4. 電気法規・電気施設管理	1 単位以上	電気法規	2	必ず修得すること
実験・実習	6 単位以上	●電磁気学基礎実験 ●基礎電気工学実験 ●電気工学実験Ⅰ ●電気工学実験Ⅱ	2 2 2 2	
			8	
設計・製図	2 単位以上	電機設計および電気製図	2	必ず修得すること
計	43単位以上		78	

注意事項

- 1、原則として在学中に修得したものに限りします。
- 2、単位不足についての対応は以下のとおりです。
 - ①卒業後3年以内であれば科目等履修生制度で補充することができますが、A表の科目区分ごとに1科目のみです。
 - ②国家試験の電気主任技術者試験（第一次試験）に合格することにより、不足単位を補うことができますが、以下の点に留意してください。（卒業後4年以降も有効です）
 - ・受験できる科目は「法規」を含む2科目までとされ、試験科目はA表の科目区分の2.（電力科目）、3.（機械科目）に限られています。
- 3、各科目区分ごとの「必要単位数」は省令上の「必要最低限の単位数」ですから、相当数上まわる単位数を修得しておいてください。

B表 実務経験（学歴による区分→大学若しくはこれと同等以の教育機関の項抜粋）

免状の種類	実 務 の 経 験	
	実 務 の 内 容	経 験 年 数
第1種 電気主任技術者	電圧5万ボルト以上の電気工作物の 工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業 後の経験年数との和が5年以上
第2種 電気主任技術者	電圧1万ボルト以上の電気工作物の 工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業 後の経験年数との和が3年以上
第3種 電気主任技術者	電圧500ボルト以上の電気工作物の 工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業 後の経験年数との和が1年以上

前ページにより、電気主任技術者免状を取得しようとする場合は、最寄りの産業保安監督部、電力安全課（那覇産業保安監督事務所は、保安監督課）となります。

北海道産業保安監督部電力安全課

〒060-0808 札幌市北区北八条西2丁目1-1 札幌第一合同庁舎
Tel 011-709-1725

関東東北産業保安監督部東北支部電力安全課

〒980-0014 仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎
Tel 022-263-1111（代表）

関東東北産業保安監督部電力安全課

〒330-9715 さいたま市中央区新都心1-1 さいたま新都心合同庁舎1号館11階
Tel 048-600-0388

中部近畿産業保安監督部電力安全課

〒460-8510 名古屋市中区三の丸2丁目5-2 中部経済産業局総合庁舎3階
Tel 052-951-2817

中部近畿産業保安監督部北陸産業保安監督署

〒930-0856 富山市牛島新町11-7 富山地方合同庁舎3階
Tel 076-432-5580

中部近畿産業保安監督部近畿支部管理課

〒540-8535 大阪市中央区大手前1丁目5-44 合同庁舎1号館
Tel 06-6966-6061

中国四国産業保安監督部電力安全課

〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎2号館4階
Tel 082-224-5742

中国四国産業保安監督部四国支部電力安全課

〒760-8512 高松市サンポート3-33 高松サンポート合同庁舎5階
Tel 087-811-8582

九州産業保安監督部電力安全課

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目11-1 福岡合同庁舎本館8階

Tel 092-482-5519~5522

那覇産業保安監督事務所保安監督課

〒900-0006 那覇市おもろまち2丁目1-1 那覇第2地方合同庁舎1号館4階

Tel 098-866-6474

(注)・電気主任技術者用の単位取得証明書は工学部・未来科学部事務部で発行しますが、通常の単位取得証明書は使用できません。

経済産業省の定めた様式がありますので必ず「電気主任技術者用単位取得証明書」を申し込んで下さい。

・国家試験関係は下記に問合わせて下さい。

(財)電気技術者試験センター (<http://www.shiken.or.jp/>)

(〒104-8584 中央区八丁堀2-9-1 秀和東八重洲ビル8階)

TEL. 03-3552-7691

第一級・第二級陸上無線技術士 (電子工学科)

陸上無線技術士

電波法に定められる放送局などの全ての無線設備の技術操作及び設備管理を行うことができる技術者です。

資格の種類と操作範囲（本学が認定されている資格のみ抜粋）

（電波法第40条・無線従事者の操作の範囲等を定める政令から抜粋）

資格の種類	操 作 範 囲
第一級陸上無線技術士	無線設備の技術操作
第二級陸上無線技術士	次に掲げる無線設備の技術操作 (1) 空中線電力2キロワット以下の無線設備 （テレビジョン放送局の無線設備を除く） (2) テレビジョン放送局の空中線電力500ワット以下の無線設備 (3) レーダーで(1)に掲げるもの以外のもの (4) (1)および(3)に掲げる無線設備以外の無線航行局の無線設備 で960メガヘルツ以上の周波数の電波を使用するもの

国家試験科目の一部免除

電子工学科在学中に、次ページの表の科目区分ごとに必要単位数以上の単位数を修得して卒業すれば、第一級および第二級陸上無線技術士国家試験の試験科目「無線工学の基礎」が免除されます。ただし、**卒業の日から3年以内に限られます。**

（無線従事者規則第7条）

「無線工学の基礎」免除のために必要な修得科目・単位数

(平成25年 3 月卒業者に適用)

●印は必修科目

認定基準に定められた科目 (必要時間数)		電子工学科対応科目 (単位数)	時間数	単位修得の要件
基礎専門教育科目	数 学 (210)	●線形代数学Ⅰ (2) 線形代数学Ⅱ (2) ●微分積分学および演習Ⅰ (4) 微分積分学および演習Ⅱ (4) ベクトル解析 (2) 応用数学 (2)	30 30 60 60 30 30	必修科目を含めて 210時間分を修得すること
	物 理 (105)	物理学Ⅰ (2) 物理学Ⅱ (2) 量子物理学Ⅰ (2) 量子物理学Ⅱ (2)	30 30 30 30	必ず修得すること
	電 磁 気 学 (120)	●電磁気学Ⅰ (2) ●電磁気学Ⅱ (2) 電磁気学Ⅲ (2) 気体エレクトロニクス (2)	30 30 30 30	同 上
	電 気 回 路 (120)	●電気回路 (4) 回路解析 (2) 過渡現象 (2)	60 30 30	同 上
	半導体及び電子管並びに電子回路の基礎 (90)	電子デバイス工学Ⅰ (2) 電子回路基礎Ⅰ (2) 電子回路基礎Ⅱ (2) 集積回路基礎Ⅰ (2) 集積回路基礎Ⅱ (2)	30 30 30 30 30	90時間分を修得すること
	電 磁 気 測 定 (180)	電子計測 (2) ●電磁気学基礎実験 (2) ●電子工学基礎実験 (2) 電子工学実験Ⅰ (2)	30 60 60 60	「実験」3科目は修得すること

国家試験

年2回(7月・1月)に行なわれ、詳しいことは、官報に公示されます。

「財団法人 日本無線協会」によって実施されます。試験申請書など必要な手続や質問等については、下記に問い合わせください。

(財)日本無線協会本部 (<http://www.nichimu.or.jp/>)

〒104-0053 中央区晴海3丁目3-3

TEL. 03-3533-6022

第一級陸上特殊無線技士・第三級海上特殊無線技士 (電子工学科・情報通信工学科)

業務内容

第一級陸上特殊無線技士

電気通信事業者・電力会社・放送事業者・公共機関などで利用されるマイクロ波の多重無線設備の操作や第二級・第三級陸上特殊無線技士の操作範囲であるタクシー、トラックなどの陸上移動関係の通信を行う無線局の操作に必要な免許です。

第三級海上特殊無線技士

沿岸漁業用の小型漁船、モーターボートなどのレジャー船舶に開設した船舶局の操作に必要です。

資格の種類と操作範囲

(無線従事者の操作の範囲等を定める政令から抜粋)

資格の種類	操 作 範 囲
第一級陸上特殊無線技士	一、陸上の無線局の空中線電力500ワット以下の多重無線設備(多重通信を行うことができる無線設備でテレビジョンとして使用するものを含む。)で30メガヘルツ以上の周波数の電波を使用するものの技術操作 二、前号に掲げる操作以外の操作で第二級陸上特殊無線技士の操作の範囲に属するもの
第三級海上特殊無線技士	一、船舶に施設する空中線電力5ワット以下の無線電話(船舶地球局及び航空局の無線電話であるものを除く。)で25010キロヘルツ以上の周波数の電波を使用するものの国内通信のための通信操作及びその無線電話(多重無線設備であるものを除く。)の外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作 二、船舶局及び船舶のための無線航行局の空中線電力5キロワット以下のレーダーの外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作

資格取得のための要件

電子工学科または情報通信工学科在学中に、次の表の科目区分ごとに必要な科目を修得して卒業した後、自分の住所を所轄する電気通信監理局に、履修内容を証明することで、資格が得

られます。

第一級陸上特殊無線技士及び第三級海上特殊無線技士免状を取得しようとする場合は、最寄りの総合通信局となります。

関東総合通信局 無線通信部 航空海上課

〒102-8795

東京都千代田区九段南 1-2-1 (九段第3合同庁舎)

電話：03-6238-1749

URL:<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kanto/>

第一級陸上特殊無線技士の資格を取得するために修得すべき科目

電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）

区 分	授 業 科 目 名
無線機器学その他無線機器に関する科目	無線機器学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電磁波工学
電子計測その他無線測定に関する科目	電子計測 高周波回路
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

情報通信工学科（平成25年3月卒業者に適用）

区 分	授 業 科 目 名
無線機器学その他無線機器に関する科目	ワイヤレスシステム工学 マルチメディア通信工学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	高周波の基礎
電子計測その他無線測定に関する科目	計測制御工学
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

第三級海上特殊無線技士の資格を取得するために修得すべき科目

電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）

区 分	授 業 科 目 名
無線機器学その他無線機器に関する科目	無線機器学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電磁波工学
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

情報通信工学科（平成25年3月卒業者に適用）

区 分	授 業 科 目 名
無線機器学その他無線機器に関する科目	ワイヤレスシステム工学 マルチメディア通信工学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	高周波の基礎
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

電気通信主任技術者 (電子工学科・情報通信工学科)

電気通信主任技術者

電気通信主任技術者は、事業用電気通信設備の工事・維持及び運用に関する事項を監督する資格者を言い、事業の規模、範囲等により必要とされる資格者証の種類が異なります。

(電気通信事業法第45条)

資格者証の種類と監督の範囲

(電気通信主任技術者規則第6条抜粋)

資格者証の種類	監督の範囲
伝送交換主任技術者	電気通信事業法第四十一条第一項及び第二項の電気通信事業の用に供する伝送交換設備並びにこれらに附属する設備の工事、維持及び運用
線路主任技術者	電気通信事業法第四十一条第一項及び第二項の電気通信事業の用に供する線路設備並びにこれらに附属する設備の工事、維持及び運用

国家試験科目の一部免除

電子工学科または情報通信工学科在学中に、次ページの表の科目区分ごとに必要単位数以上の単位数を修得すれば、在学中でも国家試験受験の際に試験科目のうち1科目（電気通信システム）が免除されます。

国家試験実施

試験申請の手続および受験については、受験希望地を担当する財団法人日本データ通信協会に問合わせてください。

財団法人日本データ通信協会 電気通信国家試験センター (<http://www.shiken.dekkyo.or.jp/>)
〒170-8585 豊島区巣鴨2-11-1 巣鴨室町ビル6階 TEL. 03-5907-6556

「電気通信システム」免除のために必要な修得科目・単位数

電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）

●印は必修科目

認定基準に定められた科目 (必要時間数)		電子工学科対応科目 (単位数)	時間数	単位修得の要件
基礎専門教育科目	数 学 (60)	●微分積分学および演習Ⅰ (4) 微分積分学および演習Ⅱ (4) ●線形代数学Ⅰ (2) 線形代数学Ⅱ (2)	60 60 30 30	
	物 理 学 (60)	物理学Ⅰ (2) 物理学Ⅱ (2) 量子物理学Ⅰ (2) 量子物理学Ⅱ (2)	30 30 30 30	
	電 磁 気 学 (60)	●電磁気学Ⅰ (2) ●電磁気学Ⅱ (2) 電磁気学Ⅲ (2)	30 30 30	必修科目の修得で可
	電 気 回 路 (60)	●電気回路 回路解析 (2)	60 30	同 上
	電 子 回 路 (60)	電子回路基礎Ⅰ (2) 電子回路基礎Ⅱ (2) 集積回路基礎Ⅰ (2) 集積回路基礎Ⅱ (2)	30 30 30 30	
	デ ィ ジ タ ル 回 路 (30)	論理システム設計Ⅰ (2)	30	必ず修得すること
	情 報 工 学 (30)	情報理論 (2)	30	同 上
	電 気 計 測 (60)	電子計測 (2) ●電磁気学基礎実験 (2) ●電子工学基礎実験 (2)	30 60 60	
	伝 送 線 路 工 学 (30)	高周波回路 (2)	30	左記の科目の中から 区分ごとに30時間分 を修得すること
	交 換 工 学 (30)	※通信システム (2) 無線機器学 (2)	30 30	
専門教育科目	電 気 通 信 シ ス テ ム (30)	※通信ネットワーク (2)	30	
		通信方式 (2)	30	

※印は情報通信工学科の科目ですが、履修登録期間中に「他学部他学科履修願」を提出することにより履修可能です。

情報通信工学科（平成25年3月卒業者に適用）

●印は必修科目

認定基準に定められた科目 (必要時間数)		情報通信工学科対応科目 (単位数)	時間数	単位修得の要件
基礎専門教育科目	数 学 (60)	●微分積分学および演習Ⅰ (4) 微分積分学および演習Ⅱ (4)	60 60	
	物 理 学 (60)	物理学Ⅰ (2) 応用物理学 (2)	30 30	必ず修得すること
	電 磁 気 学 (60)	●電磁気学基礎および演習 (3) 電磁気学応用 (2) 高周波の基礎 (2)	45 30 30	
	電 気 回 路 (60)	●電気回路基礎および演習 (3) 回路網理論 (2) 信号システム解析 (2)	45 30 30	
	電 子 回 路 (60)	●電子回路基礎 (2) 電子回路応用 (2)	30 30	必ず修得すること
	デ ィ ジ タ ル 回 路 (30)	デジタル回路 (2) 論理回路および論理設計 (2)	30 30	
	情 報 工 学 (30)	基礎情報数学B（確率論と情報理論） (2)	30	必ず修得すること
	電 気 計 測 (60)	●情報通信基礎実験 (4) ●情報通信工学実験 (4)	120 120	
専門教育科目	伝 送 線 路 工 学 (30)	通信システム (2)	30	左記の科目の中から 区分ごとに30時間分 を修得すること
	交 換 工 学 (30)	通信ネットワーク (2)	30	
	電 気 通 信 シ ス テ ム (30)	マルチメディア通信工学 (2) 通信理論基礎 (2)	30 30	

電気工事士（第２種） （電気工学科）

業務内容 電気工事士

ビル、工場、商店、一般住宅などの電気設備の安全を守るために600ボルト以下で受電する工事を行う資格です。

筆記試験免除のために必要な修得科目

在学中に、科目ブロックごとの授業科目の一つを修得して、卒業した人が対象となります。

（平成25年 3 月卒業者に適用）

●印は必修科目

科目ブロック	該 当 授 業 科 目
(1) 電 気 理 論	●電磁気学Ⅰ 電磁気学Ⅱ ●演習電磁気学Ⅰ 演習電磁気学Ⅱ ●回路理論Ⅰ ●回路理論Ⅱ 回路理論Ⅲ
(2) 電 気 計 測	電気電子計測
(3) 電 気 機 器	電気機器Ⅰ 電気機器Ⅱ パワーエレクトロニクス
(4) 電 気 材 料	電気電子材料Ⅰ 電気電子材料Ⅱ
(5) 送 配 電	電力系統工学Ⅰ 電力系統工学Ⅱ
(6) 製 図	電機設計および電気製図
(7) 電 気 法 規	電気法規

試験についての問合せ

(財)電気技術者試験センター（<http://www.shiken.or.jp/>）

〒104－8584 中央区八丁堀 2－9－1 秀和東八重洲ビル 8 階 TEL. 03－3552－7691

索引（五十音順）

い	
1 単位.....	57
か	
学位記.....	70
学系.....	62
き	
休講.....	59
教育課程.....	57
教育目標.....	7
教職.....	89
教職に関する科目.....	57
共通教育科目.....	57
く	
クラス編成.....	59
こ	
コース必修科目.....	58
さ	
再履修.....	67
し	
資格・免許.....	85
自由科目.....	58
重複受講.....	71
重複履修.....	72
授業時間割変更.....	59
順位.....	66
進級.....	72
進級発表.....	行事予定
せ	
成績.....	66
前期末.....	72
選択.....	57
選択科目.....	58
専門教育科目.....	57
そ	
卒業研究.....	69
卒業条件.....	68
卒業発表.....	行事予定
卒業見込.....	70

た	
他学部他学科科目.....	71
択一必修科目.....	58
単位数.....	57
担当教員名.....	58
ち	
中間試験.....	65
つ	
追試験.....	65
通年科目前期末評価.....	63
て	
定期試験.....	63
転学科.....	62
特別履修.....	61
は	
配当学年.....	58
配当期.....	58
ひ	
必修.....	57
必修科目.....	58
評点と評価.....	66
ほ	
補講.....	59
り	
履修計画.....	60
履修制限.....	63
履修上の注意（開講科目対応表）.....	77
履修登録.....	61
履修放棄.....	61
履修モデル.....	13
留年者.....	72

2012

東京電機大学